外部から本機にアクセスする機能についてのご注意

外部から本機にアクセスする機能をお使いになる場合には、ネットワーク上の意図せぬ第三者からアクセスされる可能性がありますので、管理者設定メニューの「パスワード」ページですべてのパスワードを設定してください。

© 2013 Sony Corporation

2-649-307-**06**(1)

SONY

ビデオ
コミュニケーション
システム

取扱説明書（バージョン 2.0）

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

IPELA　MEMORY STICK™

PCS-TL30

© 2005 Sony Corporation

安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあり、危険です。
事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

8 ～ 10 ページの注意事項をよくお読みください。

定期点検をする

長期間、安全にお使いいただくために、定期点検をすることをおすすめします。点検の内容や費用については、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

故障したら使わない

すぐに、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。

万一、異常が起きたら

- **煙が出たら**
- **異常な音、においがしたら**
- **内部に水、異物が入ったら**
- **製品を落としたり、キャビネットを破損したときは**

↓

❶ **電源を切る。**
❷ **電源コードや接続コードを抜く。**
❸ **お買い上げ店またはソニーのサービス窓口に連絡する。**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

注意

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

接触禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

指示

プラグをコンセントから抜く

目次

⚠ 警告 8
⚠ 注意 9
本機の性能を維持するために 11

第 1 章　設置と準備

この取扱説明書の使いかた 12
本機の特長 13
システムの構成 14
基本システムを構成する機器 14
別売り機器の一覧 14
各部の名称と働き 15
ビデオコミュニケーションシステム PCS-TL30 15
インジケーターの名称と機能 16
データソリューションモジュール PCSA-DSM1（別売り） 17
システムの接続 17
接続端子の使いかた 17
接続上のご注意 18
接続例（LAN 接続） 18
本機の高さを調節するには 19
電源を入れる / 切る 20
レンズカバーを開ける 20
電源を入れる 20
電源を切る 21
スタンバイ状態にする 21
音量を調節する 21
画質を調節する 21
ヘルプを表示する 21
本機のバージョンとオプションを表示する 21
設置直後の設定－初期設定ウィザード 22
メニューの基本操作 23
メニューの基本構成 23
メニューの紹介 24
文字や数字を入力する 26

第 2 章　登録と設定

システムを設定する 27
設定メニューを表示する 27
着信設定メニュー 28
機器設定メニュー 28

音声設定メニュー 30
ネットワーク設定メニュー 30
通信モード設定メニュー 33
管理者用設定メニュー 35
ディスプレイ設定メニュー 40
会議の相手をアドレス帳に登録する 42
新しい相手を登録する 42
アドレス帳を修正する 43
登録した相手を削除する 43
アドレス帳の設定をコピーする 43
プライベートアドレス帳を作成する 43
共有アドレス帳を使用する 45
発信、着信の履歴を確認する 45
会議の相手をワンタッチダイヤルに登録する 46
ワンタッチダイヤルを登録する 46
プライベートワンタッチダイヤルを登録する 47
ネットワーク構成ごとの設定方法 47
LAN（DHCP を介しての接続）..... 47
LAN（ルーターを介しての接続）..... 48
LAN（ゲートキーパーを介しての接続）..... 48
LAN（NAT 環境での接続）..... 49
LAN（H.460 を使用したファイアウォール越えでの接続）..... 50
LAN（PPPoE による接続）..... 51

第 3 章　日常の会議

自分側から会議を始める 52
電源を入れる 52
ランチャーメニューの見かた 53
通話中画面の見かた 54
ステータス＆情報 54
ワンタッチダイヤルで相手を呼び出す 56
ランチャーメニューで IP アドレスを入力して呼び出す 57
アドレス帳に登録している相手を呼び出す 57
発信・着信履歴から相手を呼び出す 58
相手から会議に呼び出される 59
相手から呼び出される 59
会議を終了する 60
多地点会議に参加する 60
画質・音声を調節する 61
画質を調節する 61
音量を調節する 61
音声の送信を一時的にカットする－マイクオフ機能 61
着信時の音声の送信をカットする－着信時マイクオフ 61
送信する映像と音声の時間差を調整する－リップシンク機能 61
エコーを軽減する－エコーキャンセラー 61
カメラを調節する 62
ズームとアングルを調節する 62

カメラコントロール受信について 63
画像の明るさを調節する 63
ズームとアングルの設定をプリセットする 64
プリセットしたズームとアングルの設定を呼び出す 64
画面レイアウトを設定する 65
画面レイアウト設定メニューを表示する 65
画面表示を切り換える 65

第 4 章　いろいろな機器を使った会議

“メモリースティック”の静止画を会議に使う 67
“メモリースティック”の静止画を表示する 67
“メモリースティック”の静止画を送信する 68
“メモリースティック”について 69
“メモリースティック”をフォーマットする 70
カメラ映像を静止画にして送信する 71
静止画メニューから送信する 71
静止画を受信する 71
ホワイトボードの画像を受信する 72
会議中の静止画を保存する 72
自動的に相手側の映像を保存する－自動静止画キャプチャー機能 72
静止画メニューから保存する 72
外部マイクやヘッドホンを使う 73
トーン信号で相手のシステムを制御する－ DTMF の送信 74
外部から本機にアクセスする 74
Web モニター機能を使用する 74
Web ブラウザを使用する 74
Telnet を使用する 74

第 5 章　データソリューションモジュールを使ったデータ会議

データソリューションモジュールの取り付け 76
データソリューションモジュールを使用した接続例 77
接続機器の映像を会議に使う 78
会議中の操作 78

第 6 章　LAN 暗号化会議

LAN 暗号化会議の準備 81
LAN 暗号化会議を始める 83

第 7 章　SIP を使った会議

SIP を使った会議をするための接続例 85
2 地点間の接続例 85
SIP を使った会議の準備 86
SIP ソフトウェアをインストールする 86
SIP の設定をする 86
会議の相手をアドレス帳に登録する 86
SIP を使った会議を始める 87
相手を呼び出す 87
相手から呼び出される 87
会議を保留する 87
会議を転送する 88
会議を終了する 88

第 8 章　コンピューターディスプレイ機能

コンピューターディスプレイ機能 89
コンピューターと接続する 89
マウスを個別に使用 90
マウスを共用 90
コンピューターの映像を見る 91
ビデオ会議中にコンピューターの映像を見る 91
ビデオ会議画面とコンピューター画面を切り換える 92
PC 画面での発信と着信 93
PC 画面での発信 93
PC 画面での着信 93
ディスプレイの画質を調節する 93
ビデオ会議のディスプレイ設定 93
コンピューター映像のディスプレイ設定 94
ワイド切替による画面表示のちがい 94

第 9 章　Web 機能

Web ページへのアクセス方法 96
認証ページの入力方法 97
トップページの使用方法 97
機能ボタンの選択 98
[Controller] ページの使用方法 99
Controller 画面 99
[Dial/Disconnect] ページの使用方法 100
[Phone Book] ページの使用方法 101
Phone Book 編集画面 102
Phone Book 新規登録画面 103
[Setup] ページの使用方法 104

KIOSK Mode の設定方法 105
Send Message 画面 106
Reset 画面 107
[Status&Info] ページの使用方法 108
Cause Code 一覧画面 109
Call Log 画面 109
[Monitor] ページの使用方法 110

付録

画面に表示されるインジケーター一覧 111
メッセージ一覧 112
故障かな？ 117
仕様 118
RGB 入出力仕様 120
端子のピン配列 122
別売り機器の端子のピン配列 123
PCS-TL30 使用ポート番号一覧 123
ミーティングスペースのレイアウト 124
保証書とアフターサービス 125
保証書 125
アフターサービス 125
用語解説 125
メニューの構成 127

⚠警告

下記の注意を守らないと、
火災や**感電**により**死亡**や**大けが**に
つながることがあります。

禁止

AC 電源コードや DC 電源接続コードを傷つけない

AC 電源コードや DC 電源接続コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

- コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、コードが傷んだら、ソニーのサービス窓口に交換をご依頼ください。

禁止

雨のあたる場所や、油煙、湯気、ほこりの多い場所には置かない

火災や感電の原因となることがあります。

接触禁止

雷が鳴り出したら、電源プラグには触れない

感電の原因になります。

禁止

落雷のおそれがあるときは本機を使用しない

落雷により、感電したり本機が故障することがあります。雷が予測されるときは、火災や感電、製品の故障を防ぐためにネットワークケーブルや電源プラグを抜いてください。また、雷が鳴りだしたら、本機には触らないでください。

禁止

たこ足配線をしない

配線器具をたこ足配線して定格を超えた電流が流れると、火災などの原因となります。

指示

AC アダプターの AC プラグ、DC プラグは根元まで差し込む

しっかり根元まで差し込まないと、火災や感電の原因となります。

禁止

ネットワークコネクターに指定以外のネットワークや電話回線を接続しない

本機のネットワークコネクターに次のネットワークや回線を接続すると、コネクターに必要以上の電流が流れ、故障や発熱、火災の原因となります。
特に、ホームテレホンやビジネスホンの回線には、絶対に接続しないでください。

- 10BASE-T と 100BASE-TX タイプ以外のネットワーク
- 一般電話回線
- ISDN（デジタル）対応公衆電話のデジタル側のジャック
- PBX（デジタル式構内交換機）回線
- ホームテレホンやビジネスホンの回線
- 上記以外の電話回線など

また、ネットワークコネクターをお使いになるときは、職場などのネットワーク管理者にご相談ください。

⚠注意

下記の注意を守らないと、
けがをしたり周辺の物品に**損害**を
与えることがあります。

禁止

不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度を充分にお確かめください。

禁止

通風孔をふさがない

通気孔をふさぐと、本機内部に熱がこもり、発煙、発火などが起こり、やけどの原因になることがあります。

注意

接続の際は電源を切る

電源を入れたままで電源コードや接続ケーブルを接続すると、感電や故障の原因になることがあります。

指示

付属の AC アダプターや電源コードを使う

付属の AC アダプターや電源コードを使わないと、感電や故障の原因になることがあります。

禁止

付属の AC アダプターは指定された製品以外には使用しない

指定された製品以外に使用すると、故障の原因になることがあります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグにさわらない

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをすると、感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で AC アダプターにさわらない

感電の原因となることがあります。

分解禁止

分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご依頼ください。

プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、電源を切って電源プラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

指示

移動させるときは電源コード、接続コードを抜く

接続したまま移動させると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

禁止

直射日光に当たる場所、熱器具の近くには置かない

変形したり、故障したりするだけでなく、レンズの特性により火災の原因となります。特に窓際に置くときなどはご注意ください。

禁止

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

禁止

通電中の本体や AC アダプターに長時間触れない

温度が相当上がることがあります。
長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因になることがあります。

注意

排気口からの排気に長時間あたらない

本機をご使用中、その動作状況により排気口から温風が排出されることがあります。
この温風に長時間あたると、低温やけどの原因となる場合があります。

プラグをコンセントから抜く

長時間使用しないときは電源ケーブルや AC アダプターのプラグを抜く

長時間使用しないときは、安全のため AC アダプターのプラグをコンセントから抜いてください。

注意

ディスプレイ画面を長時間継続して見ない

ディスプレイなどの画面を長時間継続して見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。
ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本システムの使用をやめて休息してください。
万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは、医師の診察を受けてください。

禁止

製品の上に乗らない、重いものを乗せない

倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

液晶画面に衝撃を与えない

液晶画面はガラスでできています。
重い物をのせたり、落としたり、画面を強打したりしないでください。
強い衝撃を与えると液晶が割れて、故障やけがの原因となることがあります。

禁止

コード類は正しく接続・配置する

電源コードや信号ケーブルは、足に引っかけると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあります。人が踏んだり、引っかかったりするような恐れのある場所を避け、十分注意して接続・配置をしてください。

注意

転倒、移動防止の処理をする

本製品をラックに取り付けたり、取り外すときは、転倒・移動防止の処置をしないと、倒れたり、動いたりして、けがの原因となることがあります。安定した姿勢で注意深く作業してください。また、ラックの設置状況、強度を十分にお確かめください。

本機の性能を維持するために

使用・保管場所について

次のような場所での使用および保管は避けてください。

- 極端に寒いところや暑いところ。
- 湿気、ほこりの多いところ。
- 激しく振動するところ。
- 強い磁気を発生するものの近く。
- 強力な電波を発生する機器やラジオの送信所の近く。
- 雑音が多いところ。

液晶画面について

取扱上のご注意

- 液晶画面を太陽に向けたままにすると、液晶画面を傷めてしまいます。窓際や室外に置くときなどはご注意ください。
- 液晶画面を強く押したり、ひっかいたり、上にものを置いたりしないでください。画面にムラが出たり、液晶パネルの故障の原因になります。
- 寒い所でご使用になると、画像が尾を引いて見えたり、画面が暗く見えたりすることがありますが、故障ではありません。温度が上がると元に戻ります。
- 静止画を継続的に表示した場合、残像を生じることがありますが、時間の経過とともに元に戻ります。
- 使用中に画面やキャビネットがあたたかくなることがありますが、故障ではありません。

輝点・滅点について

本機の液晶パネルは有効画素 99.99% 以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、画面上に黒い点が現れたり（画素欠け）、常時点灯している輝点（赤、青、緑など）や滅点がある場合があります。また、液晶パネルの特性上、長期間ご使用の間に画素欠けが生じることもあります。これらの現象は故障ではありませんので、ご了承の上本機をお使いください。

CMOS センサー特有の現象

撮影画面に出る下記の現象は、CMOS センサー（Complementary Metal Oxide Semiconductor）特有の現象で、故障ではありません。

白点

CMOS センサーは非常に精密な技術で作られていますが、宇宙線などの影響により、まれに画面上に微小な白点が発生する場合があります。

これは CMOS センサーの原理に起因するもので故障ではありません。

また、下記の場合、白点が見えやすくなります。

- 高温の環境で使用するとき
- ゲイン（感度）を上げたとき

折り返しひずみ

細かい模様、線などを撮影すると、ぎざぎざやちらつきが見えることがあります。

レーザービームについてのご注意

レーザービームは CMOS センサーに損傷を与えることがあります。レーザービームを使用した撮影環境では、CMOS センサー表面にレーザービームが照射されないように充分注意してください。

内蔵スピーカーについて

スピーカーからは磁気が発生していますので、磁気テープや磁気ディスクなどはスピーカー開口部から離しておいてください。データが破損するおそれがあります。

お手入れについて

- お手入れをする前に、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 液晶の画面は特殊加工がされていますので、なるべく画面に触れないようにしてください。また画面の汚れをふきとるときは、乾いた柔らかい布でふきとってください。
- アルコール、シンナー、ベンジンなどは使わないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- 殺虫剤のような揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品に長時間接触させると、変質したり、塗装がはげたりすることがあります。

設置と準備

第 1 章

この取扱説明書の使いかた

各章には以下の内容を記載しています。必要に応じてお読みください。

1 章　設置と準備

システムの構成や接続、設置のしかたをはじめ、電源の入れかたやメニューの基本操作など、はじめてお使いになる前に必要な情報を記載しています。システムの全体を把握するためにお読みください。

2 章　登録と設定

本機のメニューを使った登録や設定をすべて説明しています。システムを管理する方がお読みください。

3 章　日常の会議

日常の会議をするための基本的な操作や設定を記載しています。この章を読むだけで、会議を始めるところから終わるところまでがわかります。会議を行う方がお読みください。

4章　いろいろな機器を使った会議

別売りの機器を使った様々な会議のしかたを紹介しています。

5 章　データソリューションモジュールを使ったデータ会議

別売りのデータソリューションモジュールを使い、コンピューターなど外部機器のデータを会議に使う方法を説明しています。

6 章　LAN 暗号化会議

映像、音声、コンピューターのデータを暗号化して会議を行う方法を説明しています。

7 章　SIP を使った会議

SIP を使用し、IP 電話などと接続した会議を行う方法を説明しています。
SIP による会議を行うには、別売りの SIP ソフトウェアが必要です。

8 章　コンピューターディスプレイ機能

会議をしていないときにコンピューターディスプレイとして使う場合の使いかたを説明しています。

9 章　Web 機能

Web 経由で本機の操作、設定をする方法を説明しています。

付録

メッセージ一覧、故障かな？、主な仕様、用語集などを記載しています。困ったときにお読みください。

本機の特長

ビデオコミュニケーションシステム PCS-TL30 は、離れたところにいるグループを LAN（ローカルエリアネットワーク）で結び、映像と音声を送受信することにより、相手側と同席しているかのように会議ができるビデオ会議システムです。

持ち運びのできる一体型ビデオコミュニケーションシステム

17 型のワイドモード対応ディスプレイ、デジタルパン・チルト・ズーム対応カメラ、コーデック部からマイク、スピーカーまでが一体化されており、簡単に持ち運びができます。
また、VESA マウントにも対応しているため、さまざまな場所に設置が可能で、会議の場所を選びません。

30 件までのワンタッチダイヤルが可能

よく接続する会議の相手をランチャーメニューに登録しておくと、発信ボタンのワンクリックで相手に発信することができます。

世界標準方式を採用

WTSC（世界電気通信標準化会議）が定めた ITU-T 勧告に準拠、日本国内だけでなく、海外とも簡単に接続することができます。

データ会議に対応

別売りのデータソリューションモジュール PCSA-DSM1 を使用することにより、コンピューターのデータを会議に使ったり、プロジェクターで会議の様子やデータを表示できます。

高速、高画質の送受信が可能

LAN の使用帯域は、最大 2048 kbps までに対応しています。

幅広い映像圧縮方式・音声圧縮方式に対応

映像圧縮方式は H.264、MPEG4、H.263+、H.263、H.261 方式に対応、音声圧縮方式は MPEG4 Audio、G.722、G.729、G.728、G.711 方式に対応しています。

ネットワークの状態に応じて最適化できる QoS（Quality of Service）機能搭載

パケット再送要求機能および最適レート制御機能を搭載。ネットワークの混雑やパケットロスが生じた場合、自動的に最適化して常に高品質な通信が確保できます。

簡単設定・簡単操作

ディスプレイに操作案内用のヘルプメニューが表示されます。また、会議の出席者が日常的に使うメニューは、管理者が設定するメニューと分けて表示されます。

メモリースティックスロットを装備

本機にはメモリースティックスロットを装備しているため、デジタルスチルカメラなどで撮影した静止画を簡単に会議に使用することができます。
また、“メモリースティック”をプライベートアドレス帳として、個人用のアドレス帳やワンタッチダイヤルアイコンを作成し、利用することができます。
本機では、“メモリースティック PRO”を使用できます。

LAN 暗号化会議に対応

あらかじめパスワードを設定し、そのパスワードを入力した端末にだけ接続するように設定できます。機密性の高い会議を行うことが可能です。
多地点間でも、カスケード接続の場合でも暗号化会議が可能です。

SIP 対応

別売りの SIP ソフトウェア PCSA-SP1 をインストールすると、IP 電話などの端末と SIP（Session Initiation Protocol）を使った会議ができます。

コンピューターディスプレイとして使用可能

本機のディスプレイをコンピューターディスプレイとして使用することができます。
コンピューターディスプレイとして使用中でも、相手から会議に呼び出されると、自動的に相手側の映像を画面に表示させることができます。

静止画の自動 / 手動キャプチャーが可能

1 対 1 の通信中、通信相手の映像が数枚、自動的にキャプチャーされ、本機のメモリーに保存されます。この画像をアドレス帳の登録に利用することができます。
また、“メモリースティック”を本機に挿入しておけば、通信中に静止画保存ボタンを押すだけで、相手の映像をキャプチャーすることが可能です。この画像もアドレス帳の登録などに利用することができます。

KIOSK Mode に対応

ワンタッチダイヤルからの発信のみのシンプルな操作にすることができます。

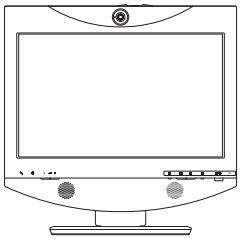
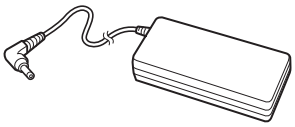
“IPELA”および IPELA はソニー株式会社の商標です。

システムの構成

PCS-TL30 は、ビデオ会議をするために必要な基本システムと、より充実した会議を行うための別売り機器で構成されます。

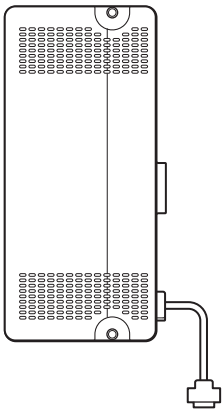
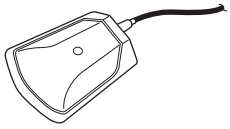
基本システムを構成する機器

ビデオコミュニケーションシステム PCS-TL30 は、ビデオ会議システムの中心をなす基本システムです。ビデオコミュニケーションシステム PCS-TL30 は以下の機器で構成されています。

機器	説明
ビデオコミュニケーションシステム PCS-TL30 	カメラ、モニター、映像、音声信号を処理して送受信するコーデック部、音声のエコーをカットするエコーキャンセラーおよび通信回線とのインターフェース部、システム制御部からなります。
オプティカルマウス PCS-RMU1 	ビデオコミュニケーションシステムを操作します。 **ご注意** 光学センサーの特性上、透明な素材や光を反射する素材（ガラス・鏡など）の上では正しく動作しない場合があります。その場合は、このような素材の上を避けるか、市販の光学マウス対応マウスパッドなどをご使用ください。ただし、マウスパッドの色や材質などにより、正しく動作しない場合があります。
AC アダプター VGP-AC19V15 または PCS-AC19V6A 	ビデオコミュニケーションシステムに電源を供給します。

別売り機器の一覧

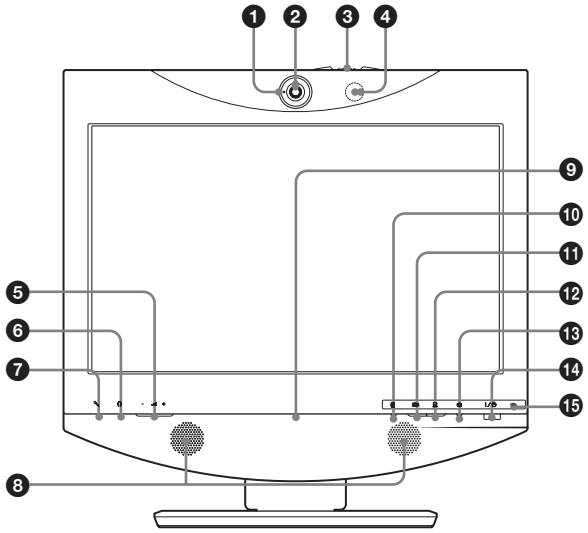
会議を充実させるために、以下の別売り機器が用意されています。

機器	説明
データソリューションモジュール PCSA-DSM1 	本機に接続したコンピューターの画像を伝送したり、プロジェクターを接続してコンピューターの画像を表示できます。
マイクロホン PCS-A1 	どの方向からの音でも拾える無指向性のマイクです。静かな部屋での会議におすすめします。
マイクロホン PCSA-A3 	指向性のマイクです。 マイクに向き合った人の音声だけを拾いたい場合におすすめします。
SIP ソフトウェア PCSA-SP1	SIP を使った会議をするためのソフトウェアです。

各部の名称と働き

ビデオコミュニケーションシステム PCS-TL30

前面



❶ タリーランプ
相手側に自分の映像が送信されているときに点灯します。

❷ カメラレンズ

❸ レンズカバー開閉レバー
カメラを隠すカバーを開閉します。

❹ マイク

❺ ◿（音量）ボタン
音量を調整します。
＋：音量が大きくなります。
－：音量が小さくなります。

❻ ∩（ヘッドホン）端子（ステレオミニジャック）
ヘッドホン（市販）と接続します。

❼ ✎（マイク）端子（ミニジャック）
別売りのマイクロホン PCS-A1 または PCSA-A3 を接続します。

❽ スピーカー

❾ オンラインランプ
主に、発着信についての状態を示します。

❿ （マイクオフ）ボタンとインジケーター
自分側からの音声を相手に送るのを中断するときに押します。再び音声を相手に送るときは、もう一度押します。

⓫ （ビデオ会議）ボタンとインジケーター
コンピューター画面からビデオ会議画面に切り換えるときに押します。

⓬ （PC）ボタンとインジケーター
コンピューター画面に切り換えるときに押します。

⓭ （メニュー）ボタン
設定メニューを表示するときに押します。
3 秒間押し続けると DTMF 用ソフトキーボードが表示されます。

⓮ I / ⏻（電源）スイッチとインジケーター
本機の電源を入 / 切します。
PC モードでコンピューターディスプレイとして使用中は、スイッチを一度押すと電源が切れます。
VC モードでスイッチを一度押すとスタンバイ状態になります。電源を切るときは、5 秒以内にもう一度押してください。

ご注意

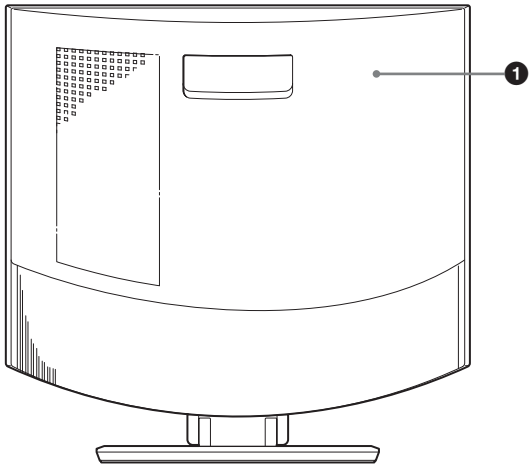
通話中は、電源スイッチは機能しません。

⓯ メモリースティックインジケーター
メモリースティックスロットの状態を表します。

ご注意

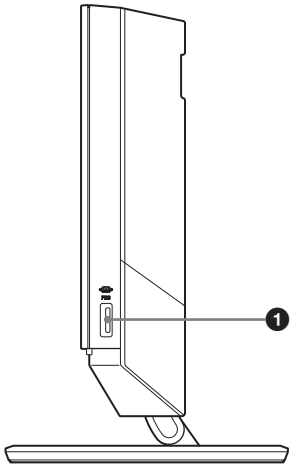
点灯中は“メモリースティック”を抜かないでください。

後面



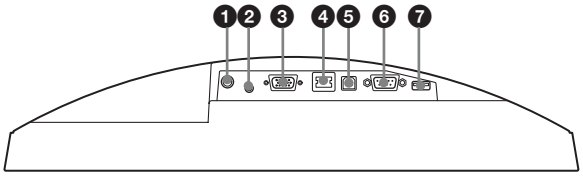
❶ リアカバー
リアカバーをはずすと、内部にコネクターパネルがあります。また、内部にはスタンド部分とディスプレイ部分の接続部があり、ネジ留め位置を変えると高さを調節できます。

右側面



❶ メモリースティックスロット
“メモリースティック”を挿入します。

コネクターパネル部（リアカバー内、下から見た図）



❶ DC 19.5V 端子
付属の AC アダプター VGP-AC19V15 または PCS-AC19V6A を接続します。

❷ AUDIO IN（PC 用音声入力）端子（ステレオミニジャック）
RGB IN 端子に接続したコンピューターの音声出力端子と接続します。

❸ RGB IN（RGB 入力）端子（ミニ D-sub 15 ピン）
コンピューターの RGB 出力端子と接続します。

❹ 100BASE-TX/10BASE-T 端子（モジュラー端子）
カテゴリー 5 のケーブルを使ってハブなどに接続します。リンク・データ・インジケーター（緑）と 100/10 Mbps インジケーター（オレンジ）がついています。

❺ PC 端子
RGB IN 端子に接続したコンピューターと、マウスを共用する場合に使用します。コンピューターの USB 端子と接続します。

ご注意

USB ケーブルは、長さ 3 m 以下のものをお使いください。

❻ RS232C 端子（D-sub 9 ピン）
サービス用です。

❼ マウス端子
付属のオプティカルマウス PCS-RMU1 を接続します。

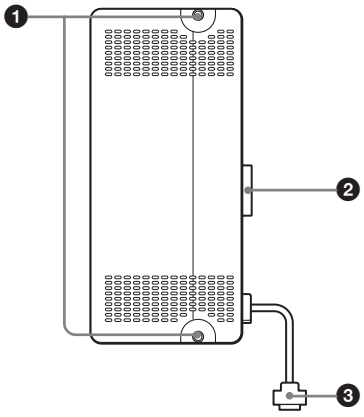
インジケーターの名称と機能

インジケーター	状態	意味
I / ⏻（電源）*	緑点灯	電源オン
	オレンジ点灯	スタンバイ
	オレンジ点滅（1 秒周期）	FAN 異常
	消灯	電源オフ
オンライン *	青点滅（3 回 / 秒）	発着信中
	青イルミネーション点灯	通信中
	消灯	オフライン（不在着信なし）またはスタンバイ
（PC）*	青点灯	コンピューター画面を表示中
	白点灯	ビデオ会議画面を表示中
	消灯	スタンバイ
（ビデオ会議）*	青点灯	ビデオ会議画面を表示中
	白点灯	コンピューター画面を表示中
	消灯	スタンバイ
（マイクオフ）*	オレンジ点灯	マイクオフ
	白点灯	マイクオン
	消灯	スタンバイ

インジケーター	状態	意味
（メモリースティック）	オレンジ点灯	アクセス中
	消灯	非アクセス中
タリーランプ	オレンジ点灯	カメラ映像を相手に送信中（レンズカバー開）
	オレンジ点滅（5 秒周期）	Closed 映像を相手に送信中（レンズカバー閉）
	消灯	カメラ映像送信停止
リンク・データ	緑点灯	リンク・アップ
	緑点滅	データ・アクティブ
	消灯	リンク・ダウン
100/10 Mbps	オレンジ点灯	100 Mbps
	消灯	10 Mbps

＊本体の起動中は点灯します。温度異常を検出すると点滅し、電源を落とします。

データソリューションモジュール PCSA-DSM1（別売り）



❶ 本体固定用ネジ
本機を PCS-TL30 に固定するためのネジです。

❷ 本体接続端子
PCS-TL30 との接続に使用します。

❸ RGB 出力端子
プロジェクターなどの外部機器との接続に使用します。接続するには市販の RGB ケーブルが必要です。

◆ PCS-TL30 への取り付けかたは、「データソリューションモジュールの取り付け」（76 ページ）をご覧ください。

システムの接続

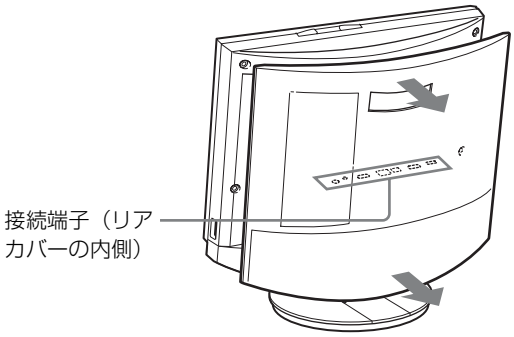
ここでは、代表的なシステムの接続のしかたを説明します。

接続端子の使いかた

接続端子はリアカバーの内側にあります。
リアカバーを外してケーブルを接続し、接続終了後に再びリアカバーを取り付けてください。

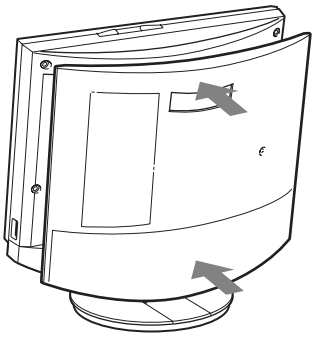
リアカバーを外すには

手前に引っぱります。



リアカバーを取り付けるには

4 か所の突起を合わせ、押し付けます。



接続上のご注意

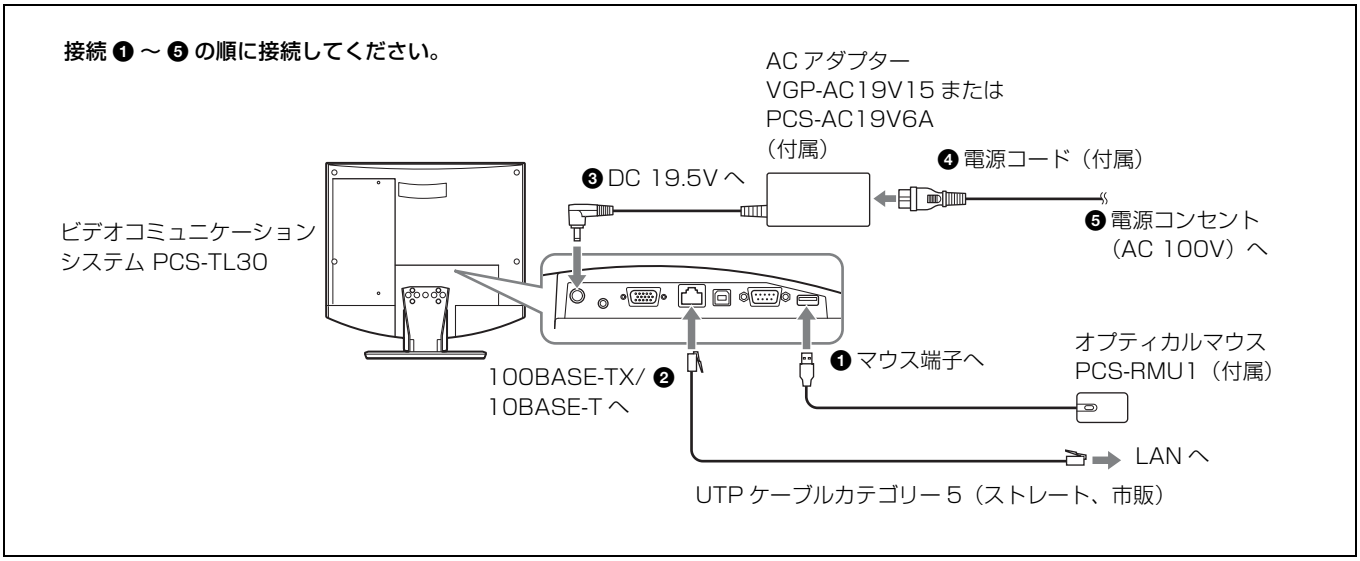
⚠警告

- 必ず本機に付属のACアダプターと電源コードをご使用ください。
- ACアダプターのACプラグとDCプラグは根元までしっかり差し込んでください。
- 安全のために、100BASE-TX/10BASE-T 端子を過電圧が加わるおそれのあるネットワークなどに接続しないでください。

⚠注意

- 接続するときは、必ず各機器の電源を切ってから行ってください。
- 本機が壊れますので、電源を入れたままケーブルを抜き差ししないでください。

接続例（LAN 接続）



本機の高さを調節するには

本機のスタンド部分とディスプレイ部分は、ネジで固定されています。出荷時は、3段（25 mm 間隔）のネジ穴のうちディスプレイが一番低い位置に固定されていますが、固定するネジ穴を変えることでディスプレイ部分の高さを調節できます。

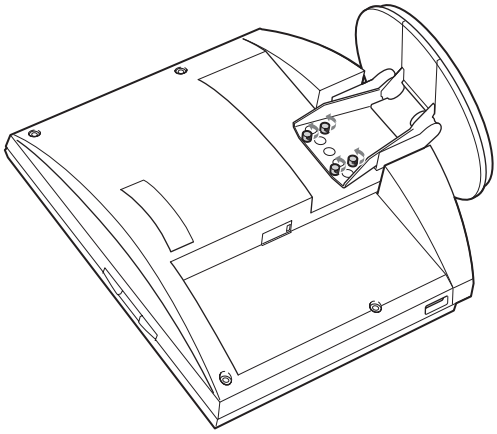
1 本機のリアカバーをはずす。

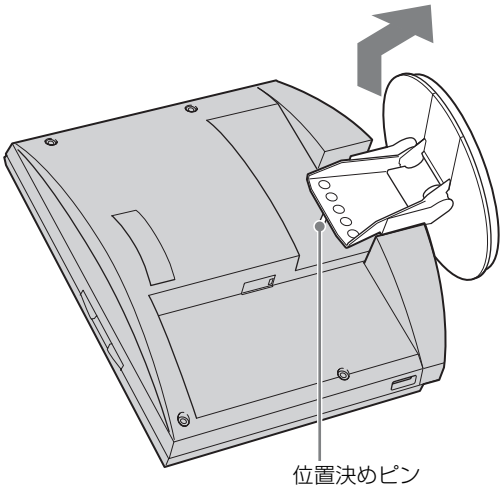
◆ リアカバーのはずしかたは、17ページをご覧ください。

2 コインなどでネジ（4個）をはずし、スタンド部分を持ち上げて、固定したい位置の穴に位置決めピンを差し込む。

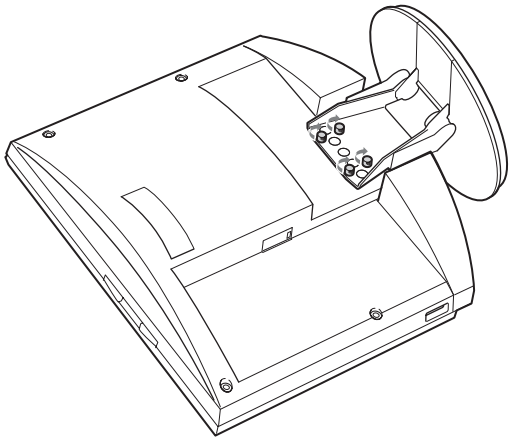
ご注意

高さの調節は、必ず各機器の電源を切り、液晶画面を下にし、柔らかい布等の上に本機を寝かせた状態で行ってください。





3 コインなどでネジ（4個）を締め付けてスタンド部分を固定する。



4 本機のリアカバーを取り付ける。

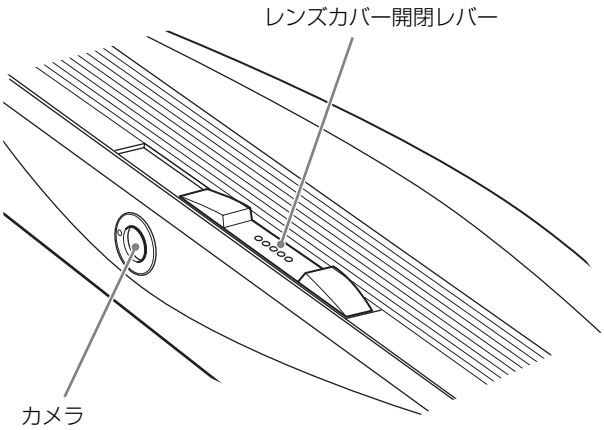
電源を入れる / 切る

ここでは、ビデオコミュニケーションシステムの電源を入れる手順や切る手順など、電源に関する説明をします。
本機の電源を入れる前に、システム全体を正しく接続してください。

◆ 接続のしかたは、「システムの接続」（17 ページ）をご覧ください。

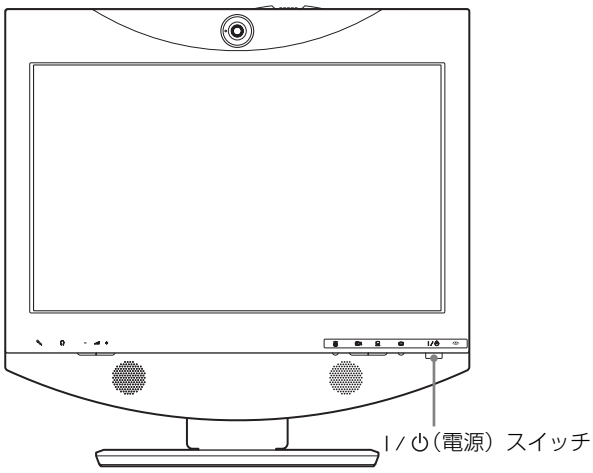
レンズカバーを開ける

本機には、カメラを隠すためのレンズカバーがついています。ビデオ会議を始める前に、本体上部のレンズカバー開閉レバーを右にスライドさせ、必ずレンズカバーを開けてください。レンズカバーが閉まったままでは、自分側の映像が相手に見えません。



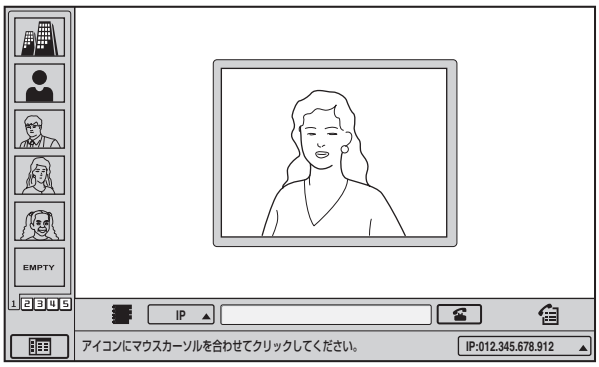
電源を入れる

本機の I / ⏻（電源）スイッチを押します。

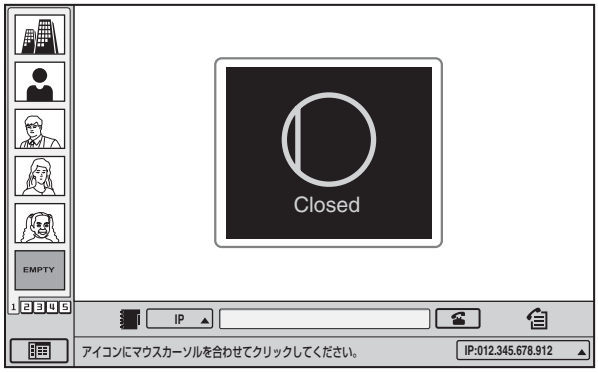


スイッチのインジケーターがオレンジ色に点灯し、本機の電源が入ります。起動が完了すると緑色に点灯します。
ディスプレイにはランチャーメニューが表示され、自分側のカメラが写している映像も表示されます。

ランチャーメニュー



レンズカバーが閉まっているときは、ランチャーメニューが次のように表示されます。



ご注意

- 電源コードをコンセントに差し、最初に電源スイッチを押したときは、スイッチのインジケーターが点灯するまで 10 秒程度かかることがあります。
- 設置後に初めて電源を入れたときは、初期設定用のウィザードが表示されます。ウィザードに従って設定を行ってください。
  ◆ ウィザードを使った設定については、「設置直後の設定－初期設定ウィザード」（22 ページ）をご覧ください。
- データソリューションモジュールなど別売りの専用機器を初めて本機に接続して使用するとき、接続した機器のソフトウェアを本機が自動的にバージョンアップすることがあります。ディスプレイにバージョンアップ中のメッセージが表示されている間は故障の原因となりますので、絶対に電源を切らないでください。また、バージョンアップ中に停電などでシステムの電源がオフになった場合も正常に動作しないことがあります。電源がオフになり、再び電源が入ったあと、データソリューションモジュールなどが認識されない場合は、サービス窓口にご連絡ください。

電源を切る

1 本機の I / ⏻（電源）スイッチを 2 度押す。

スイッチを 1 度押すと「本体を待機状態にするときはしばらくお待ちください。電源を切る場合は再度電源スイッチを押して下さい。」というメッセージが表示されるので、もう 1 度電源スイッチを押してください。

2 会議で使用したその他の機器の電源を切る。

ご注意

- 長期間システムを使わないときは、電源を切っておいてください。ただし、電源を切ると、会議をする相手から呼び出しが受けられません。
- PC モードでコンピューターディスプレイとして使用中は、スイッチを 1 度押すと電源が切れます。
- 通話中は、電源スイッチは機能しません。

スタンバイ状態にする

本機の I / ⏻（電源）スイッチを押すと、「本体を待機状態にするときはしばらくお待ちください。電源を切る場合は再度電源スイッチを押して下さい。」というメッセージが表示されます。「キャンセル」ボタンをクリックしないでいると、スタンバイ状態になります。

スタンバイ状態の場合は、相手からの呼び出しを受けることができます。
スタンバイ状態から復帰させるには、電源スイッチを 1 度押します。

音量を調節する

本機の ◿（音量）ボタンを押して、聞きとりやすい音量に調節します。

ご注意

音量は、ビデオ会議、コンピューターディスプレイのそれぞれに対して調節できます。

画質を調節する

ディスプレイ設定メニューで画質を調節します。

◆ 詳しくは、「ディスプレイの画質を調節する」（93 ページ）をご覧ください。

ヘルプを表示する

確認したい項目やアイコンの上にマウスカーソルを合わせてマウスを右クリックすると、操作案内用のヘルプウィンドウが表示されます。

本機のバージョンとオプションを表示する

本機のバージョンや接続されている専用別売り機器のバージョン、使用しているソフトウェアオプションなどをステータス＆情報メニューで確認できます。

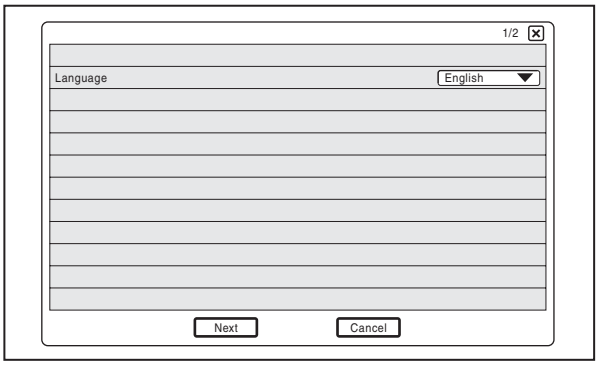
◆ ステータス＆情報メニューについて詳しくは、「ステータス＆情報メニュー」（54 ページ）をご覧ください。

設置直後の設定－初期設定ウィザード

設置後に初めて電源を入れたときは、初期設定用のウィザードが表示されます。ウィザードに従って登録を行ってください。
ここで設定した項目は、あとで設定メニューを使って変更することもできます。
ソフトウェアによっては、仕様が異なる場合があります。

1 Language のプルダウンリストからメニューやメッセージに表示する言語を選ぶ。

Language： English（英語）、Finnish（フィンランド語）、French（フランス語）、German（ドイツ語）、Italian（イタリア語）、Japanese（日本語）、Korean（韓国語）、Portuguese（ポルトガル語）、Russian（ロシア語）、Simplified Chinese（中国語（簡体字））、Spanish（スペイン語）、Swedish（スウェーデン語）、Thai（タイ語）、Traditional Chinese（中国語（繁体字））から選ぶことができます。

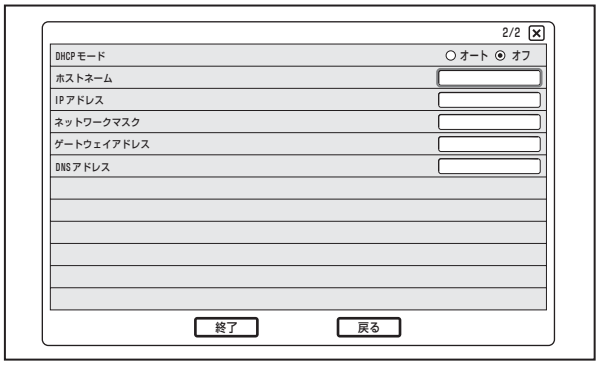


2 「Next」をクリックする。

3 LAN に関する下記の項目を設定する。

ご注意

以降は日本語を選択した場合の表示です。



DHCP モード： DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol、動的ホスト設定プロトコル）を設定します。

オート： IP アドレスとサブネットマスク、ゲートウェイアドレス、DNS アドレスを自動的に取得します。

オフ： DHCP を「オフ」に設定します。「オフ」にしたときは、IP アドレスとサブネットマスク、ゲートウェイアドレス、DNS アドレスを入力してください。

ホストネーム： ホスト名を入力します。

IP アドレス： 本機の IP アドレスを入力します。

ネットワークマスク： サブネットマスクを入力します。

ゲートウェイアドレス： デフォルトゲートウェイアドレスを入力します。

DNS アドレス： DNS（Domain Name System）サーバーアドレスを入力します。

ヒント

「DHCP モード」を「オート」に設定しているときは、自動取得した IP アドレスを「ランチャーメニュー」（24 ページ）やステータス＆情報メニュー （54 ページ）で確認することができます。

◆ LAN に関する設定の方法がわからない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

4 「終了」をクリックする。

設定が保存されます。

設定を中止するには

「キャンセル」をクリックしてください。
設定を保存せずに、ランチャー画面に進みます。

ひとつ前のウィザードに戻るには

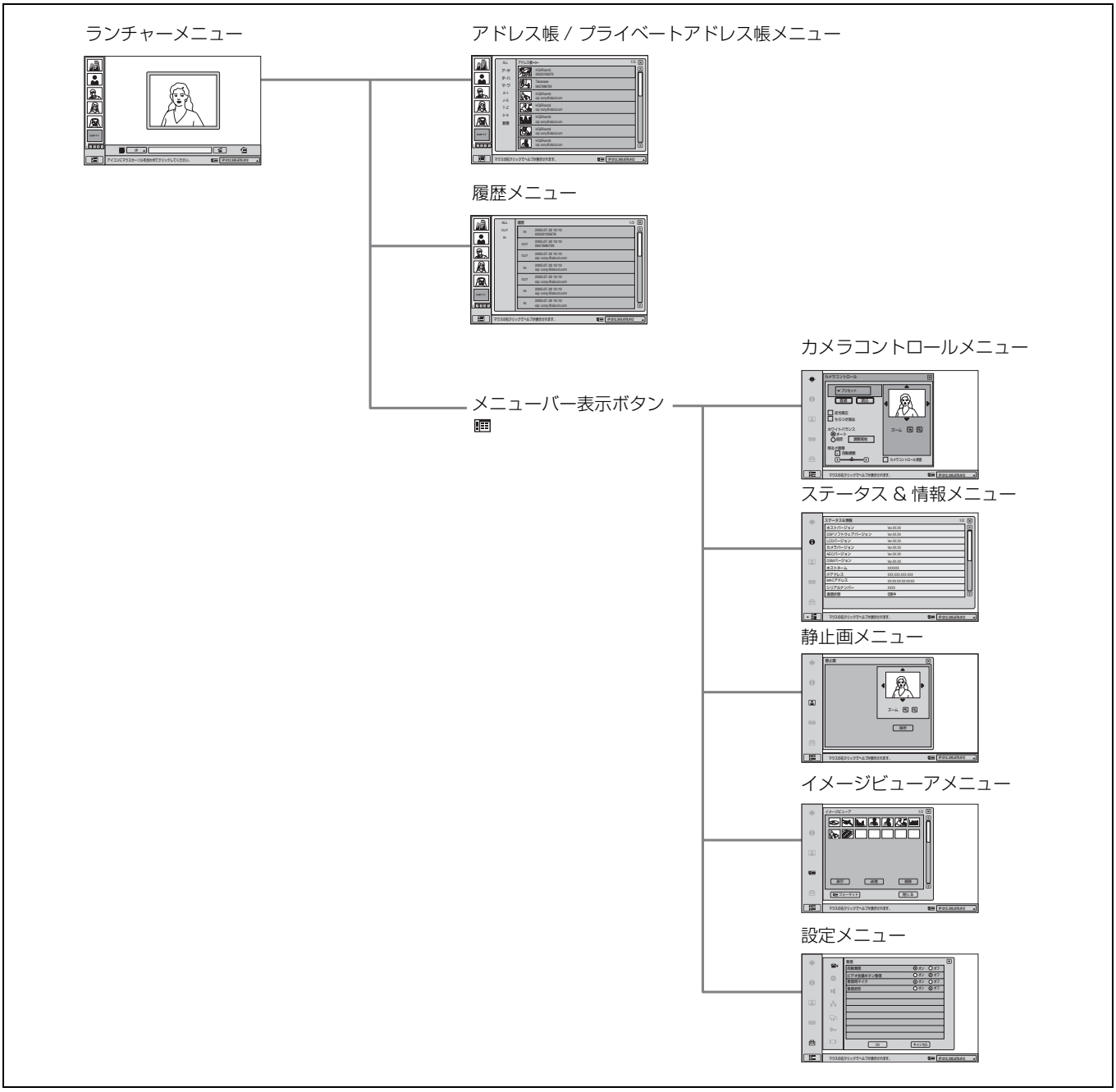
「戻る」をクリックしてください。

メニューの基本操作

本機では、ディスプレイに表示されるメニューを使って各種調整や設定を行います。ここでは表示されるメニューの種類を簡単に説明します。

メニューの基本構成

本機のメニューは以下のように構成されています。
より詳しい構成については、「メニューの構成」（127 ページ）をご覧ください。



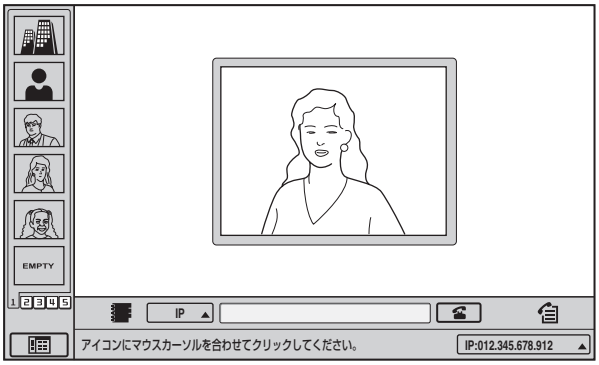
メニューアイコン

画面に表示されるアイコンをクリックすると各々のメニューが表示されます。

アイコン	表示されるメニュー
	アドレス帳メニュー
	プライベートアドレス帳メニュー
	履歴メニュー
	カメラコントロールメニュー
	ステータス＆情報メニュー
	静止画メニュー
	イメージビューアメニュー
	設定メニュー

メニューの紹介

ランチャーメニュー

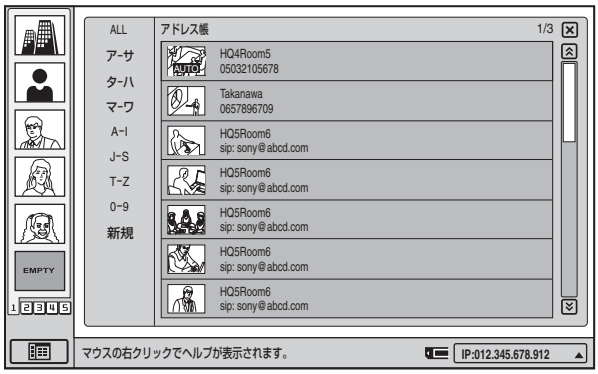


電源を入れたときや、通信中でないときに表示されるランチャー画面のメニューです。
画面の左側には、ワンタッチでダイヤルができる「ワンタッチダイヤルボタン」や、「メニューバー表示ボタン」が表示されています。

◆ ランチャーメニューについて詳しくは、53 ～ 57 ページをご覧ください。

◆ ワンタッチダイヤルについて詳しくは、46、56 ページをご覧ください。

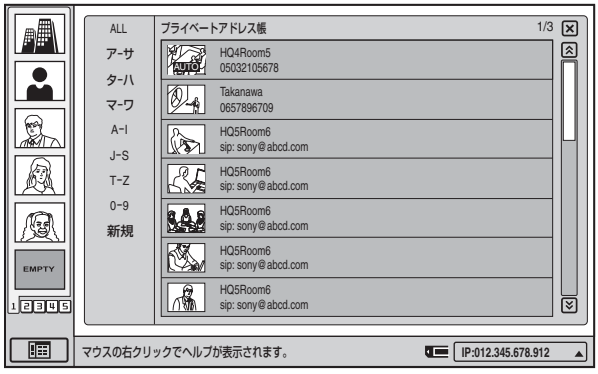
アドレス帳メニュー



会議をする相手を登録したり、会議を始めるときに登録した相手を選んだりするときに使います。
ランチャーメニューの■をクリックすると表示されます。

◆ アドレス帳メニューについて詳しくは、42 ～ 44、57 ～ 58 ページをご覧ください。

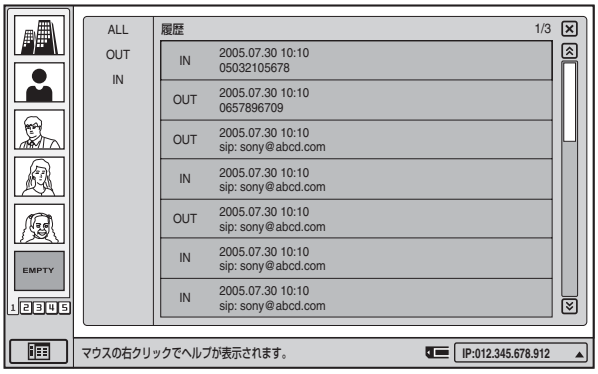
プライベートアドレス帳メニュー



自分専用のアドレス帳（プライベートアドレス帳）を保存した“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込んでいるときに使用できます。ランチャーメニューの■をクリックすると表示されます。

◆ プライベートアドレス帳メニューについて詳しくは、43 ～ 44、57 、58 ページをご覧ください。

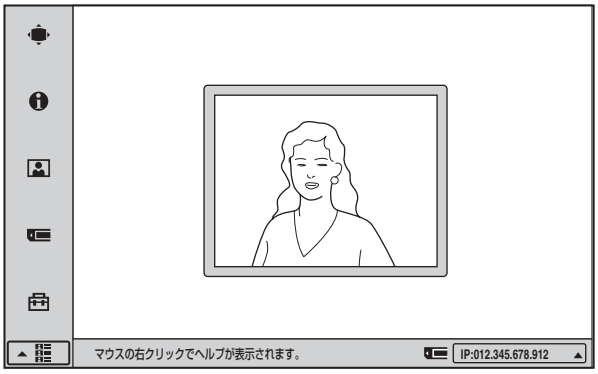
履歴メニュー



発信および着信履歴を確認するときに使います。
ランチャーメニューの をクリックすると表示されます。

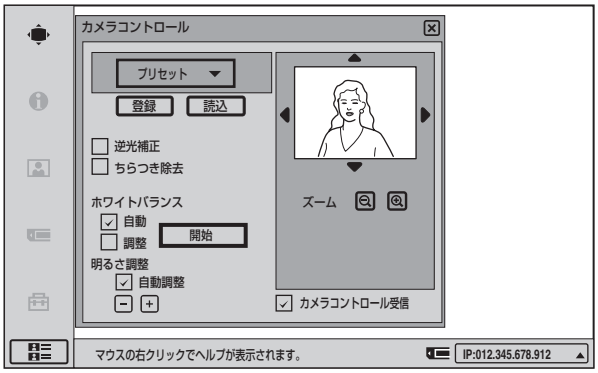
◆ 履歴メニューについて詳しくは、45 ページをご覧ください。

設定メニュー選択画面



各種の設定を行います。
ランチャー画面で、左下の（メニューバー表示ボタン）をクリックすると設定メニューバーが表示されます。

カメラコントロールメニュー

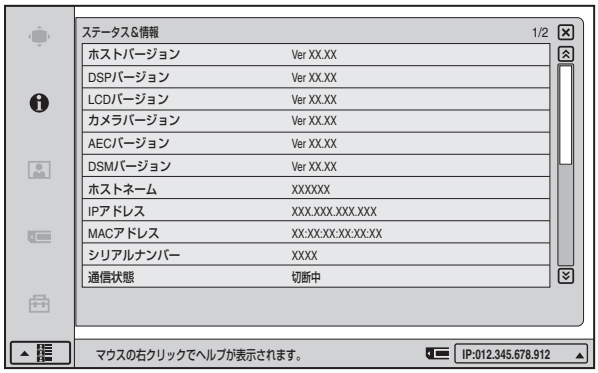


カメラのアングルやズームを調節するときに使います。

メニュー選択画面で「カメラコントロール」をクリックすると表示されます。

◆ カメラコントロールメニューについて詳しくは、62 ～ 64 ページをご覧ください。

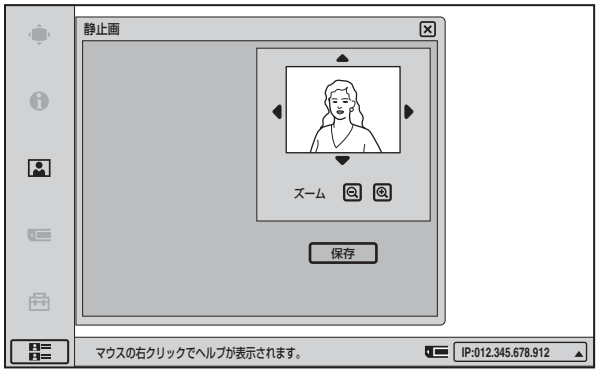
ステータス＆情報メニュー



本機や接続されている専用別売り機器のバージョン、使用しているソフトウェアオプションなどを確認するときに使います。
メニュー選択画面で「ステータス＆情報」をクリックすると表示されます。

◆ ステータス＆情報メニューについて詳しくは、「ステータス＆情報メニュー」（54 ページ）をご覧ください。

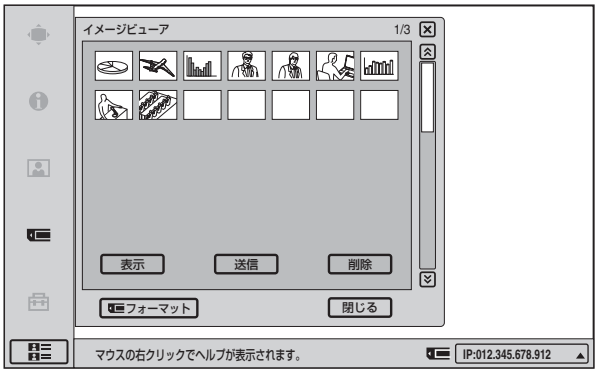
静止画メニュー



静止画を操作するときに使います。
メニュー選択画面で「静止画」をクリックすると表示されます。

◆ 静止画メニューについて詳しくは、「静止画メニュー」（71 ～ 73 ページ）をご覧ください。

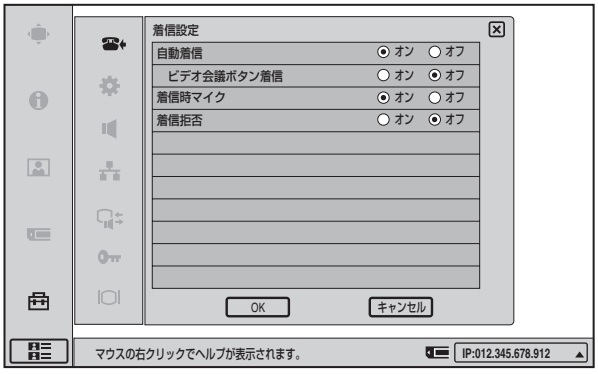
イメージビューアメニュー



“メモリースティック”に保存された画像を表示したり、画像の送受信をするときに使います。
メニュー選択画面で「イメージビューア」をクリックすると表示されます。

◆ イメージビューアメニューについて詳しくは、「イメージビューアメニュー」（67 ～ 68 ページ）をご覧ください。

設定メニュー

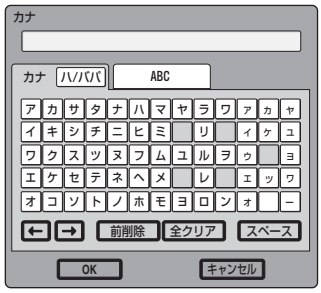


管理者がシステムの詳細を設定します。
メニュー選択画面で「設定」をクリックすると表示されます。

◆ 設定メニューについて詳しくは、27 ～ 41 ページをご覧ください。

文字や数字を入力する

ソフトキーボードを使ってメニュー上に文字や数字を入力する方法を説明します。



テキストボックスなどへの文字入力が必要なときには、ソフトキーボードが表示されます。そのテキストボックスに入力できるのが数字と記号だけの場合は、12 キーのみが操作できるソフトキーボードが表示されます。

カナを入力したいとき：ソフトキーボードの「カナ」タブをクリックし、入力したい文字をクリックします。「ハ / バパ」ボタンをクリックすると、濁音文字、半濁音文字の入力に切り換えられます。

英数字、記号を入力したいとき：ソフトキーボードの「ABC」タブをクリックし、入力したい文字または記号をクリックします。「A/ a」ボタンをクリックすると、大文字、小文字を切り換えられます。

入力を確定するには

入力したい文字や数字、記号をクリックしてから「OK」ボタンをクリックします。入力が確定し、ソフトキーボードが閉じます。

入力をまちがえたら

ソフトキーボードの「前削除」をクリックすると、カーソルの前の文字や数字、記号が消えます。「全クリア」をクリックすると、入力中の文字や数字、記号がすべて消えます。

登録と設定

第2章

この章では、登録と設定の全般について説明しています。

システムを設定する

会議をする前に、設定メニューを使って自分側の端末の情報をあらかじめ設定しておいてください。
ここでは、設定メニューの表示のしかたと、どんなメニューがあるかを紹介します。

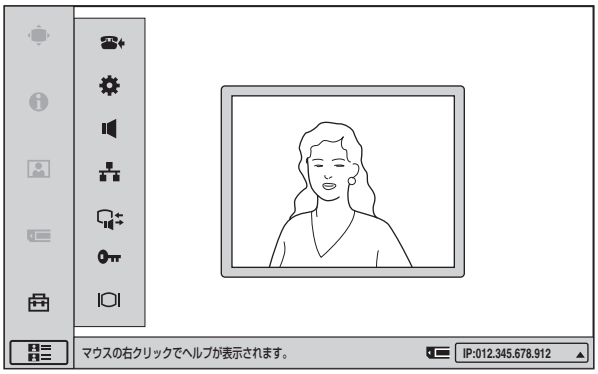
設定メニューを表示する

1 ランチャーメニューで（メニューバー表示）ボタンをクリックする。

メニューバーが表示されます。

2 メニューバーの「設定」をクリックする。

設定メニューが表示されます。



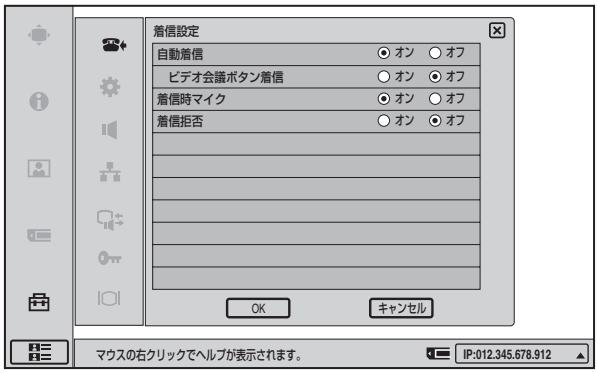
設定メニューから選べるメニュー

各項目を選ぶと次のメニューを表示できます。

アイコン	表示されるメニュー
	着信設定メニュー （28 ページ）
	機器設定メニュー （28 ページ）
	音声設定メニュー （30 ページ）
	ネットワーク設定メニュー （30 ページ）
	通信モード設定メニュー （33 ページ）
	管理者用設定メニュー （35 ページ）
	ディスプレイ設定メニュー （40 ページ）

3 設定したいメニューのボタンをクリックする。

選んだ設定メニューが表示されます。



4 各設定項目を設定する。

◆ 各設定項目については、28 ～ 41 ページの各メニューのページをご覧ください。

5 設定が終わったら、「OK」をクリックする。

設定が保存され、設定メニューに戻ります。

設定を中止するには

「キャンセル」をクリックしてください。

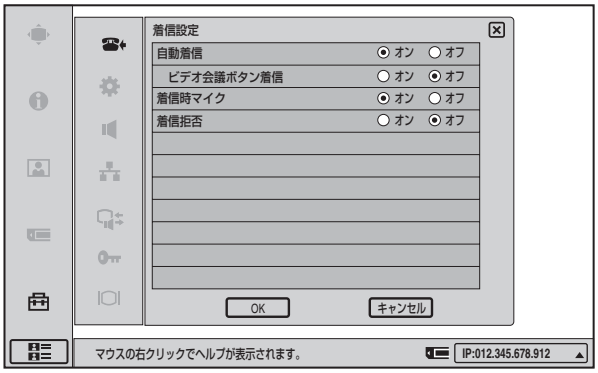
表示したメニューのページを切り換えるには

メニューに複数のページがあるときは、画面右側にスクロールバーが表示されます。次のページに進むにはスクロールバー下側のページ送りボタン、前のページに戻るときはスクロールバー上側のページ送りボタンをクリックしてください。また、スクロールバーをマウスでドラッグして上下に移動することで、ページを切り換えることもできます。

着信設定メニュー

着信時の設定をします。

1 ページ目 (Page 1/1)



自動着信

自動着信するかどうかを選びます。

オン：自動着信するとき。相手から呼び出しを受けると、呼び出し音が鳴り、自動的に回線がつながります。

オフ：手動着信するとき。相手から呼び出しを受けると、呼び出し音が鳴ります。「着信があります。応答しますか？」のメッセージ画面で「OK」をクリックすると、回線がつながります。

ビデオ会議ボタン着信

自動着信がオフの場合、呼び出しを受けたときに、本体の（ビデオ会議）ボタンで着信許可、（PC）ボタンで着信キャンセルを行うかどうかを選びます。

オン：本体のボタンで着信応答を行う場合。

オフ：本体のボタンで着信応答を行わない場合。

着信時マイク

相手から呼び出しを受けたとき、相手にこちらの音声を送信するかどうかを選びます。

オン：着信時、こちらの音声を送信する場合。

オフ：着信時、こちらの音声を送信しない場合。

着信拒否

着信拒否設定をするかどうかを選びます。

オン：着信拒否設定をする場合。

オフ：着信拒否設定をしない場合。

機器設定メニュー

1 ページ目 (Page 1/2)

ご注意

通信中は、設定できない項目もあります。

端末名

外部の多地点会議装置に通知する本機の名前を入力します。

経過時間表示

ビデオ会議中にディスプレイに通話時間を表示するかどうかを選びます。

オン：通話時間を表示するとき。

オフ：通話時間を表示しないとき。

会議終了後のリスト登録

会議終了後に相手をアドレス帳に登録するかどうかを選びます。

オン：会議終了後、相手がアドレス帳に登録されていなければ、「この相手をリストに登録しますか？」のメッセージが表示され、「OK」をクリックするとリスト編集メニューが表示されます。

オフ：アドレス帳に登録しない場合。

言語設定 /Language

画面に表示されるメッセージの言語を選びます。

英語 /English: 英語で表示するとき。
フィンランド語 /Finn：フィンランド語で表示するとき。
フランス語 /French: フランス語で表示するとき。
ドイツ語 /German: ドイツ語で表示するとき。
イタリア語 /Italian: イタリア語で表示するとき。
日本語 /Japanese: 日本語で表示するとき。
韓国語 /Korean：韓国語で表示するとき。
ポルトガル語 /PORT: ポルトガル語で表示するとき。
ロシア語 /Russian：ロシア語で表示するとき。
簡体中国語 /Chinese: 中国語（簡体字）で表示するとき。
スペイン語 /Spanish: スペイン語で表示するとき。
スウェーデン語 /Swed：スウェーデン語で表示するとき。
タイ語 /Thai：タイ語で表示するとき。
繁体中国語 /Chinese：中国語（繁体字）で表示するとき。

番号表示

ランチャーメニューに表示する、自分側の IP や SIP で使用する番号を選びます。

IP：IP アドレスを表示する場合。
SIP：ユーザー名：SIP を使用した会議を行っているとき、SIP サーバーに登録したユーザー名を表示する場合。
SIP：アドレス：SIP を使用した会議を行っているとき、SIP アドレスを表示する場合。
GK：ユーザー名：ゲートキーパー使用時、ゲートキーパーに登録したユーザー名を表示する場合。
GK：ユーザー番号：ゲートキーパー使用時、ゲートキーパーに登録したユーザー番号を表示する場合。
NAT：アドレス：NAT を使用したネットワークに接続しているとき、NAT アドレスを表示する場合。
表示しない：IP や SIP で使用する番号を何も表示しない場合。

ご注意

別売りの SIP ソフトウェア PCSA-SP1 がインストールされていない場合は、「SIP：ユーザー名」、「SIP：アドレス」は表示されません。

インジケーター

パケットロスインジケーター、マイクゲインインジケーター、静止画送信 / 受信、DSM データ送信 / 受信、暗号化会議中（標準 / 独自）、放送モード、Voice Only（音声のみ）＊、回線混雑案内を表示させるかどうかを選びます。

オン：インジケーターを表示させる場合。
オフ：インジケーターを表示させない場合。

＊回線種別が SIP のときのみ有効です。

日時設定

現在の年月日と時刻を入力します。

ご注意

AC アダプターのプラグを電源コンセントにつながずに 24 時間以上放置すると、日時設定がクリアされることがあります。

スリープタイマー

自動的にスタンバイ状態になるまでの時間を選びます。
I / ⏻（電源）スイッチを押したときおよび着信があったときに復帰します。

5 分：5 分間操作しなかったときに、スタンバイ状態にする場合。
15 分：15 分間操作しなかったときに、スタンバイ状態にする場合。
60 分：60 分間操作しなかったときに、スタンバイ状態にする場合。
オフ：スタンバイ状態にしない場合。

LED インジケーター

本体の LED インジケーターを点灯するかどうかを選びます。

オン：LED インジケーターを点灯させる場合。
オフ：LED インジケーターを点灯させない場合。

ご注意

LED インジケーターを「オフ」に設定しても、I / ⏻（電源）インジケーターは点灯します。

レンズカバー マイクオン / オフ機能

レンズカバーの開閉とマイクのオン / オフを連動させるかどうかを選びます。

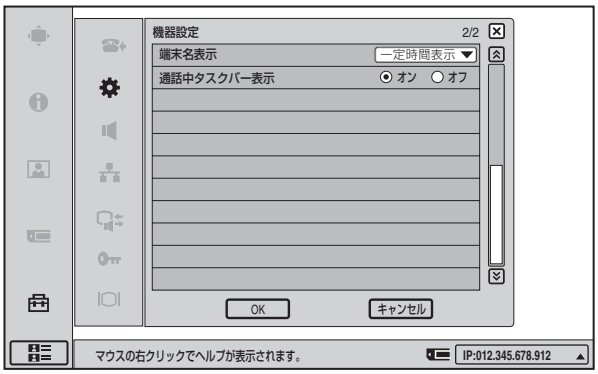
オン：レンズカバーを閉じるとマイクがオフになります。
オフ：レンズカバーを開閉してもマイクのオン / オフには影響しないようになります。

カメラフレーム数

カメラのフレームレートを選びます。

オート：環境照度にあわせて、自動で切り換える場合。
15fps：15 フレーム / 秒で送信する場合。
30fps：30 フレーム / 秒で送信する場合。

2 ページ目（Page 2/2）



端末名表示

接続地点の端末名をモニター画面に表示するかどうかを選びます。

オフ：端末名を表示しない場合。
一定時間表示：一定時間端末名を表示する場合。
常時表示：常に端末名を表示する場合。

通信中タスクバー表示

通信中にタスクバーを表示させるかどうかを選びます。

オン：通信中にタスクバーを表示させる場合。
オフ：通信中にタスクバーを表示させない場合。

音声設定メニュー

音声に関する設定をします。

1 ページ目（Page 1/1）

画面右上に音声入力レベルが表示されます。

ビープ音

マウス操作をしたときに、ビープ音を出すかどうかを選びます。

オン： ビープ音を出す場合。
オフ： ビープ音を出さない場合。

効果音

ビデオ会議システム起動時や会議開始時または会議終了時の効果音、SIP を使った会議の保留音を出力するかどうかを選びます。

オン：効果音を出力する場合。
オフ：効果音を出力しない場合。

発信音

発信時の呼び出し音を出力するかどうかを選びます。

オン：呼び出し音を出力する場合。
オフ：呼び出し音を出力しない場合。

着信音量

着信時のリンガー音の音量を選びます。
リンガー音を出力しない場合は「オフ」を選びます。
リンガー音を出力する場合は、音量を「小」、「中」、「大」から選びます。

ヘッドホン着信音量

ヘッドホン使用時に着信したときのリンガー音の音量を選びます。
リンガー音を出力しない場合は「オフ」を選びます。
リンガー音を出力する場合は、音量を「小」、「中」、「大」から選びます。

PC 音量

コンピュータディスプレイとして使用しているときの音量を調節します。

通話音量

ビデオ会議のときの音量を調節します。

ネットワーク設定メニュー

LAN、SIP に関する設定をします。

◆ 詳しい設定については、ネットワーク担当者などにご相談ください。

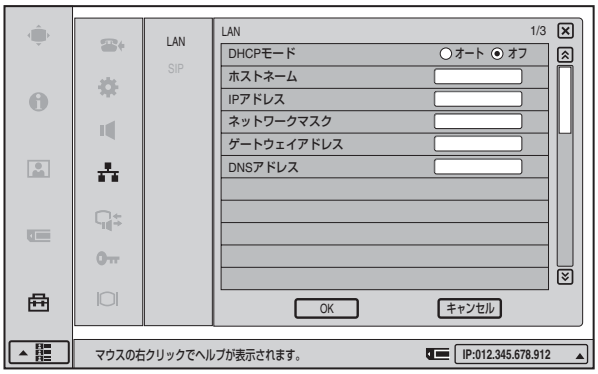
◆ LAN を使用した各ネットワークにおける設定方法については、「ネットワーク構成ごとの設定方法」（47 ページ）をご覧ください。

◆ SIP を使用した会議について詳しくは、第 7 章をご覧ください。

ご注意

SIP 設定メニューは、別売りの SIP ソフトウェア PCSA-SP1 をインストールしているときのみ設定可能です。

LAN 1 ページ目 (Page 1/3)



DHCP モード

DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol、動的ホスト設定プロトコル）を使用するかどうかを設定します。

オート： IP アドレスとサブネットマスク、ゲートウェイアドレス、DNS アドレスを自動的に取得します。LAN 接続後にランチャーメニューまたはインフォメーションメニューで IP アドレスを確認してください。

オフ： DHCP を「オフ」に設定します。「オフ」にしたときは、IP アドレスとサブネットマスク、ゲートウェイアドレス、DNS アドレスを入力してください。

ホストネーム

ホスト名を入力します。

IP アドレス

IP アドレスを入力します。

ネットワークマスク

サブネットマスクを入力します。

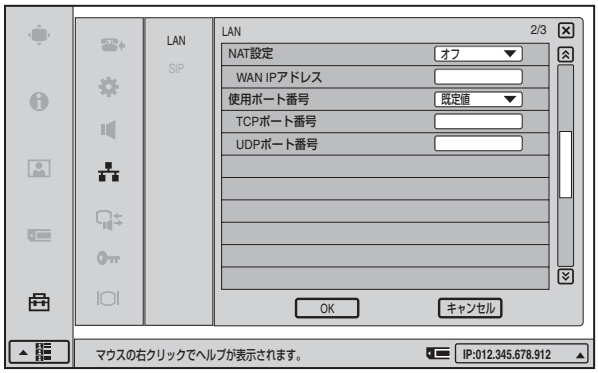
ゲートウェイアドレス

デフォルトゲートウェイアドレスを入力します。

DNS アドレス

DNS（Domain Name System）サーバーアドレスを入力します。

LAN 2 ページ目 (Page 2/3)



NAT 設定

LAN 上の複数のパソコンがひとつのグローバル IP アドレスを共有できる NAT （Network Address Translation）を使用したローカルネットワークに本機を接続するかどうかを選びます。

オート（UPnP）： UPnP 機能を使用します。

オン： NAT のネットワークで使用します。

オフ： NAT は使用しません。

WAN IP アドレス

NAT が使用するグローバル側の IP アドレスを入力します。

使用ポート番号

TCP ポート番号と UDP ポート番号を固定するかどうかを選びます。

ユーザー設定： ユーザーが設定したポート番号を使用する場合。

既定値： デフォルトのポート番号を使用する場合。
TCP ポート番号 2253 － 2255
UDP ポート番号 49152 － 49239

ご注意

「使用ポート番号」を「ユーザー設定」にしたあと、「既定値」に戻した場合には再起動後に反映されます。

TCP ポート番号

「使用ポート番号」が「ユーザー設定」のとき、TCP ポート番号を入力します。使用できるポート番号が表示されます。

UDP ポート番号

「使用ポート番号」が「ユーザー設定」のとき、UDP ポート番号を入力します。使用できるポート番号が表示されます。

◆ 使用ポート番号について詳しくは、「PCS-TL30 使用ポート番号一覧」（123 ページ）をご覧ください。

LAN 3 ページ目（Page 3/3）

NAT/ ファイアウォール越え

H.460 を使用してファイアウォールを越え、別のネットワーク上にある端末との会議を行うかどうかを選びます。

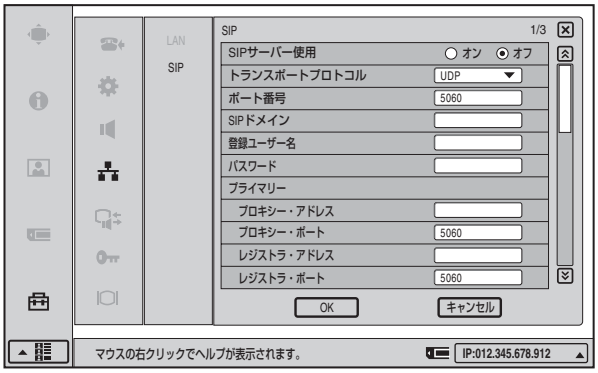
オン（H.460）：H.460 に準拠したファイアウォールを越える会議を行う場合。

オフ：ファイアウォールを越える会議を行わない場合。

ご注意

この機能を使用する際には、ゲートキーパーの設定が必要です。

SIP 1 ページ目（Page 1/3）



SIP サーバー使用

SIP サーバーを使用するかどうかを選択します。

オン：SIP サーバーを使用する場合。

オフ：SIP サーバーを使用しない場合。

トランスポートプロトコル

SIP で使用するプロトコルを選択します。

TCP：TCP（Transmission Control Protocol）を使用する場合。

UDP：UDP（User Datagram Protocol）を使用する場合。

ポート番号

使用する SIP 用のポート番号を入力します。

SIP ドメイン

SIP ドメインの名前を入力します。
半角英数字 17 文字以内で入力してください。

登録ユーザー名

SIP サーバーに登録されているユーザー名を入力します。
半角英数字 17 文字以内で入力してください。

パスワード

SIP サーバーに登録されているパスワードを入力します。
半角英数字 17 文字以内で入力してください。

プライマリー

1 台目のサーバーについて入力します。

プロキシー・アドレス

使用するプロキシーサーバーのアドレスまたはドメイン名を入力します。

プロキシー・ポート

使用するプロキシー用のポート番号を入力します。

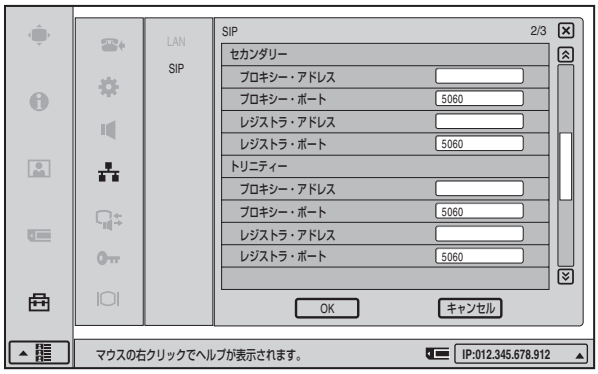
レジストラ・アドレス

使用するレジストラサーバーのアドレスまたはドメイン名を入力します。

レジストラ・ポート

使用するレジストラサーバー用のポート番号を入力します。

SIP 2 ページ目（Page 2/3）



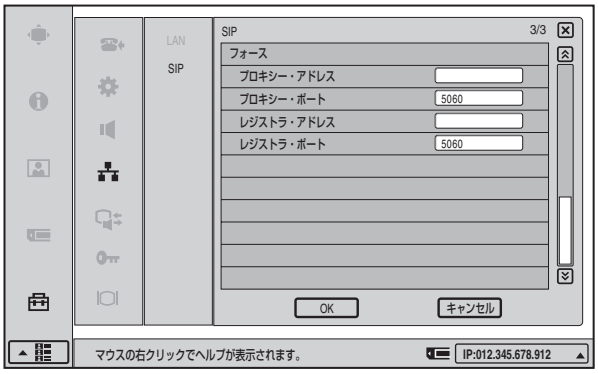
セカンダリー

2 台目のサーバーについて入力します。

トリニティー

3 台目のサーバーについて入力します。

SIP 3 ページ目（Page 3/3）



フォース

4 台目のサーバーについて入力します。

通信モード設定メニュー

通信時の設定をします。

1 ページ目（Page 1/ 3）

発信

映像方式

送信する映像の圧縮方式を選びます。

オート：相手の映像方式に合わせる場合。

H.264：H.264 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

MPEG4：MPEG4 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

H.263+：H.263+ に準拠した圧縮方式を使用する場合。

H.261：H.261 に準拠した圧縮方式を使用する場合（静止画伝送（Annex D）を行う場合）。

SIP:No-Video：映像なし、音声のみで使用する場合。

ご注意

「SIP:No-Video」は SIP ソフトウェア PCSA-SP1（別売り）がインストールされているときのみ有効です。

映像フレーム数

映像の送信フレーム数を選びます。

オート：自動的にフレーム数が切り替わります。

15fps: CIF フォーマット映像を最大 15 フレーム / 秒で送信する場合。

30fps: CIF フォーマット映像を最大 30 フレーム / 秒で送信する場合。

ご注意

30fps に設定した場合でもカメラフレーム数の設定が 15fps またはオートに設定されていると、使用環境により見かけ上 15fps になることがあります。

音声方式

音声の圧縮方式を選びます。

オート：相手の音声方式に合わせる場合。

MPEG4 Audio：MPEG4 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

G.722：G.722 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

G.729：G.729 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

G.728：G.728 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

G.711：G.711 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

ご注意

相手側のビデオ会議システムが本機で選んだ音声方式をサポートしていない場合は、自動的に G.711 方式に切り替わります。

LAN 使用帯域

通信するときの帯域幅を選択します。

64 kbps、128 kbps、256 kbps、384 kbps、512 kbps、768 kbps、1024 kbps、1536 kbps、2048 kbps、ユーザー指定を選択できます。

ユーザー指定 LAN 帯域

「LAN 使用帯域」で「ユーザー指定」を選択した場合に入力します。

遠隔カメラ制御

相手側のカメラを操作するかどうかを選びます。

オン：相手側カメラを操作する場合。通常はオンにしておきます。

オフ：相手側カメラを操作しない場合。

H.239 (Presentation)

H.239 に準拠したプレゼンテーション機能を使用するかどうかを選びます。

オン：H.239 に準拠したプレゼンテーション機能を使用する場合。

オフ：H.239 に準拠したプレゼンテーション機能を使用しない場合。

回線種別

通常使用する回線インターフェースを選びます。

IP：LAN を使ってビデオ会議システムと接続する場合。

SIP：SIP を使って IP 電話などと接続する場合。

ご注意

発信ごとに、ランチャーメニューの回線種別選択で切り換えることもできます。

リップシンク

発言者の唇の動きと音声を同期させるリップシンク機能を使用するかどうかを選びます。

オン：リップシンク機能を使用する場合。

オフ：リップシンク機能を使用しない場合。

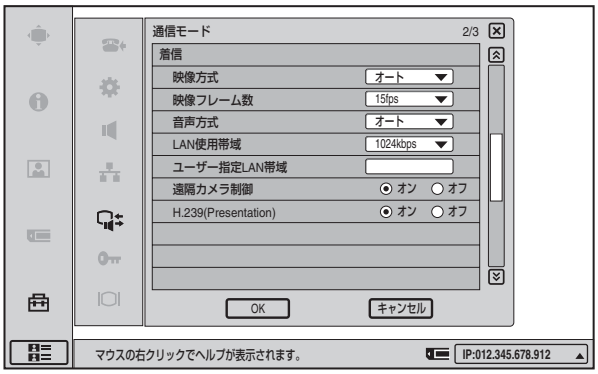
詳細設定

詳細設定を「オン」にすると、アドレス帳およびプライベートアドレス帳の発信の設定を個別に行えます。

オン：登録先ごとに発信設定を行えます。アドレス帳およびプライベートアドレス帳のリスト編集メニューに「詳細設定」が表示され、クリックすると登録先ごとに映像方式、映像フレーム数、音声方式、遠隔カメラ制御、H.239 (Presentation) の設定を行えます。
「詳細設定」を設定しない登録先には、通信モード設定メニュー－発信の設定が適用されます。

オフ：通信モード設定メニュー－発信の設定をアドレス帳およびプライベートアドレス帳の登録先全件に適用する場合。

2 ページ目（Page 2/ 3）



着信

映像方式

受信する映像の圧縮方式を選びます。

オート：相手の映像方式に合わせる場合。

H.264：H.264 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

MPEG4：MPEG4 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

H.263+：H.263+ に準拠した圧縮方式を使用する場合。

H.261：H.261 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

SIP:No-Video：映像なし、音声のみで使用する場合。

ご注意

「SIP:No-Video」は SIP ソフトウェア PCSA-SP1（別売り）がインストールされているときのみ有効です。

映像フレーム数

映像の受信フレーム数を選びます。

オート：自動的にフレーム数が切り替わります。

15fps：CIF フォーマット映像を最大 15 フレーム / 秒で受信する場合。

30fps：CIF フォーマット映像を最大 30 フレーム / 秒で受信する場合。

音声方式

受信する音声の圧縮方式を選びます。

オート：相手の音声方式に合わせる場合。

MPEG4 Audio：MPEG4 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

G.722：G.722 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

G.729：G.729 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

G.728：G.728 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

G.711：G.711 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

ご注意

相手側のビデオ会議システムが本機で選んだ音声方式をサポートしていない場合は、自動的に G.711 方式に切り替わります。

LAN 使用帯域

通信するときの帯域幅を選択します。

64 kbps、128 kbps、256 kbps、384 kbps、512 kbps、768 kbps、1024 kbps、1536 kbps、2048 kbps、ユーザー指定を選択できます。

ユーザー指定 LAN 帯域

「LAN 使用帯域」で「ユーザー指定」を選択した場合に入力します。

遠隔カメラ制御

相手側のカメラを操作するかどうかを選びます。

オン：相手側カメラを操作する場合。通常はオンにしておきます。

オフ：相手側カメラを操作しない場合。

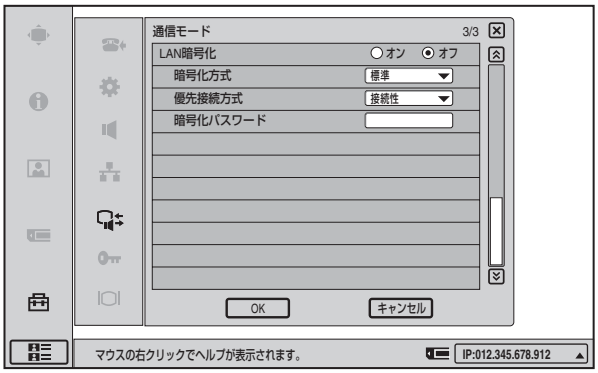
H.239 (Presentation)

H.239 に準拠したプレゼンテーション機能を使用するかどうかを選びます。

オン：H.239 に準拠したプレゼンテーション機能を使用する場合。

オフ：H.239 に準拠したプレゼンテーション機能を使用しない場合。

3 ページ目 (Page 3/3)



LAN 暗号化

LAN 暗号化機能を使用するかどうかを選びます。

オン：LAN 暗号化機能を使用する場合。「オン」にしたときは、暗号化方式、接続方式、暗号化パスワードを設定してください。

オフ：LAN 暗号化機能を使用しない場合。

暗号化方式

暗号化方式を選びます。

標準：標準的な暗号化方式を使用する場合。

独自：ソニー独自の暗号化方式を使用する場合。

優先接続方式

接続方式を選びます。

接続性：接続性を優先する場合。LAN 暗号化機能を持たない端末や、LAN 暗号化が「オフ」の端末とは、暗号化せずに会議を行います。

暗号化：暗号化を優先する場合。LAN 暗号化機能を持たない端末や、LAN 暗号化が「オフ」の端末とは、会議を行いません。

暗号化パスワード

暗号化方式を「独自」にした場合に、LAN 暗号化機能を使用して会議を行うときのパスワードを設定します。
パスワードは、半角英数字 13 ～ 20 文字で設定してください。

ご注意

暗号化方式を「独自」にした場合、LAN 暗号化機能を持たない端末や、LAN 暗号化が「オフ」の端末、パスワードが異なる端末とは接続できません。

管理者用設定メニュー

システムの管理者が使用するメニューです。このメニューで管理者用パスワードを設定すると、設定メニュー（ディスプレイ設定メニューを除く）やアドレス帳の変更にパスワードが必要になります。また、管理者用設定メニューにアクセスするときも、このパスワードが必要になります。

1 ページ目 (Page 1/11)

管理者用パスワード

管理者用のパスワードを 10 文字以内で設定します。設定メニュー（ディスプレイ設定メニューを除く）の設定保存時と管理者用設定メニュー、アドレス帳のアクセス時に、このパスワードが必要になります。

アドレス帳変更保護パスワード

アドレス帳を変更するときのパスワードを 10 文字以内で設定します。

リモートアクセス・パスワード

Web からアクセスするときのパスワードを 10 文字以内で設定します。（管理者用のパスワードでもアクセスすることができます。）

Web モニター

Web からの会議状態監視機能（JPEG 画像の自動更新）を許可するかどうかを選びます。
オン：Web からの会議状態監視機能を許可する場合。
オフ：Web からの会議状態監視機能を許可しない場合。

Web アクセス

Web や Telnet での本機へのアクセスを許可するかどうかを選びます。
オン：Web や Telnet でのアクセスを許可する場合。
オフ：Web や Telnet でのアクセスを許可しない場合。

アドレス帳の保存

アドレス帳のデータを“メモリースティック”に保存します。“メモリースティック”のデータは上書きされます。

アドレス帳のロード

アドレス帳のデータを“メモリースティック”からロードします。本体のアドレス帳のデータは上書きされます。

プライベートアドレス帳の作成

“メモリースティック”に、空のプライベートアドレス帳のフォルダとファイルを作成します。

プライベートアドレス帳の削除

“メモリースティック”の中のプライベートアドレス帳を削除します。

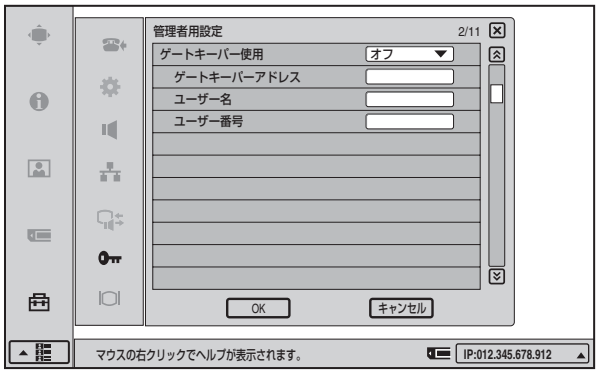
プライベートアドレス帳への複製

本機に登録してあるアドレス帳のデータを“メモリースティック”の中のプライベートアドレス帳にコピーします。

自動発信

“メモリースティック”を挿入したときに、“メモリースティック”に作成したプライベートアドレス帳で指定されたリストの相手（1 件）に自動発信するかどうかを選びます。
オン：自動発信する場合。
オフ：自動発信しない場合。

2 ページ目（Page 2/ 11）



ゲートキーパー使用

アクセスをコントロールするゲートキーパーを使用するかどうかを設定します。ゲートキーパーを使用すると、IP アドレスを使った発信の他に、ユーザー名やユーザー番号を使った発信が可能になります。
ゲートキーパーの登録状況が画面に表示されます。
オート： 自動的にゲートキーパーを探し、使用します。
オン： ゲートキーパーを使用します。
オフ： ゲートキーパーを使用しません。

ゲートキーパーアドレス

「ゲートキーパー使用」を「オン」にしたときに使用するゲートキーパーのアドレスを入力します。

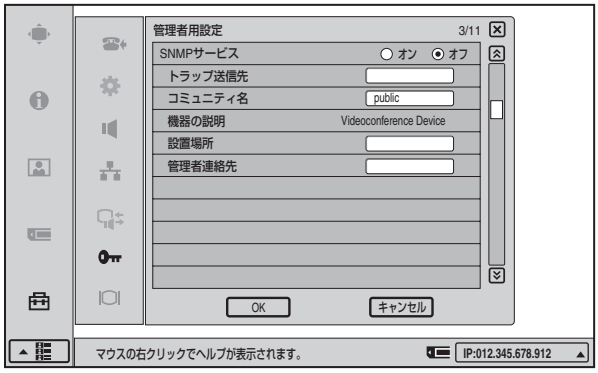
ユーザー名

ゲートキーパーに登録するユーザー名（H.323 エイリアス）を入力します。

ユーザー番号

ゲートキーパーに登録するユーザー番号（E.164 ナンバー）を入力します。

3 ページ目（Page 3/ 11）



SNMP サービス

SNMP（Simple Network Management Protocol）エージェントのサービスを有効にするかどうかを設定します。

オン： SNMP エージェントのサービスを有効にします。

オフ： SNMP エージェントのサービスを無効にします。

ご注意

SNMP サービスの設定変更は本機を再起動後に反映されます。

トラップ送信先

トラップを送信する SNMP マネージャーのアドレスを入力します。

コミュニティ名

SNMP マネージャーが管理するコミュニティ名を入力します。デフォルトでは、「public」と入力されています。通常は変更する必要はありません。

機器の説明

この機器についての説明を入力します。デフォルトでは、「Videoconference Device」と入力されています。この項目は変更できません。

設置場所

この機器を設置している場所を入力します。

管理者連絡先

この機器の管理者についての情報を入力します。

4 ページ目 (Page 4/11)

パケット再送要求

通信中にパケットをロスした場合に、再送要求するかどうかを選びます。

オン： パケット再送を要求します。

オフ： パケット再送を要求しません。

最適レート制御

LAN の使用帯域を常に最適化するかどうかを選びます。

オン： 最適化します。

オフ： 最適化しません。

ご注意

最適レート制御は「パケット再送要求」を「オフ」にした場合のみ設定できます。「オン」にしたときは、「最適レート制御」は「オン」になります。

LAN モード

LAN 接続時のインターフェースのタイプと通信モードを選びます。

オート： インターフェースのタイプと通信モードを自動的に認識させる場合。

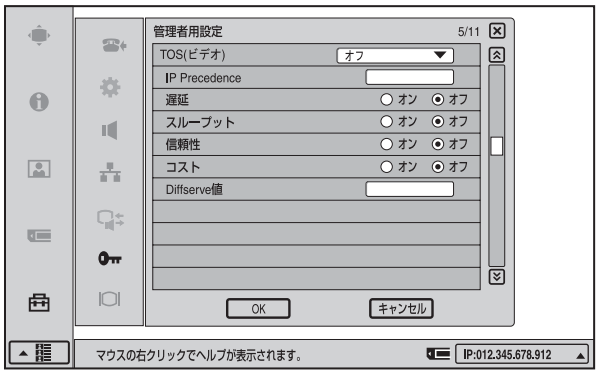
100Mbps Full Duplex： 100BASE-TX、全二重モードで接続する場合。

100Mbps Half Duplex： 100BASE-TX、半二重モードで接続する場合。

10Mpbs Full Duplex： 10BASE-T、全二重モードで接続する場合。

10Mbps Half Duplex： 10BASE-T、半二重モードで接続する場合。

5 ～ 8 ページ目（Page 5-8/11）



各ページで、データの種類ごとに TOS（Type of Service）Field の設定ができます。

5 ページ目：TOS（ビデオ）

映像データの TOS（Type of Service）Field を設定します。

6 ページ目：TOS（オーディオ）

音声データの TOS（Type of Service）Field を設定します。

7 ページ目：TOS（プレゼンテーション）

データソリューションモジュールから出力される RGB データの TOS（Type of Service）Field を設定します。

8 ページ目：TOS（カメラコントロール）

カメラコントロール信号の TOS（Type of Service）Field を設定します。

TOS

IP データグラムの TOS（Type of Service）Field の使用方法を選択します。

IP Precedence：TOS Field を IP Precedence に定義する場合。

Diffserve：TOS Field を Diffserve に定義する場合。

オフ：TOS Field の定義をしない場合。

IP Precedence

IP Precedence 値（0 ～ 7）を入力します。

遅延

TOS Field の Low Delay のビットレートを指定するかどうかを選択します。

オン：TOS Field の Low Delay のビットレートを指定する場合。

オフ：TOS Field の Low Delay のビットレートを指定しない場合。

スループット

TOS Field の High Throughput のビットレートを指定するかどうかを選択します。

オン：TOS Field の High Throughput のビットレートを指定する場合。

オフ：TOS Field の High Throughput のビットレートを指定しない場合。

信頼性

TOS Field の Reliability のビットレートを指定するかどうかを選択します。

オン：TOS Field の Reliability のビットレートを指定する場合。

オフ：TOS Field の Reliability のビットレートを指定しない場合。

コスト

TOS Field の Minimum Cost のビットレートを指定するかどうかを選択します。

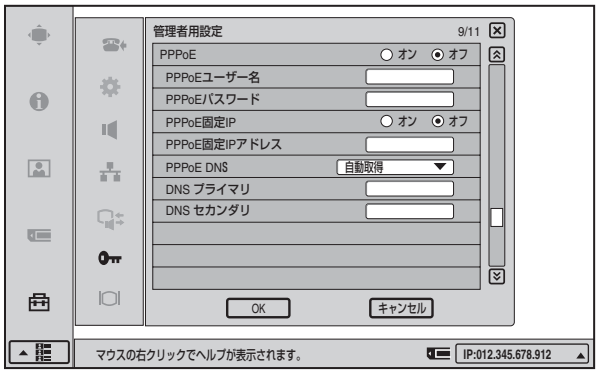
オン：TOS Field の Minimum Cost のビットレートを指定する場合。

オフ：TOS Field の Minimum Cost のビットレートを指定しない場合。

Diffserve 値

Diffserve 値（0 ～ 63）を入力します。

9 ページ目（Page 9/11）



PPPoE

PPPoE を使用して LAN 接続するかどうかの選択をします。PPPoE を使用すると、フレッツ ADSL または B フレッツ回線をルーターを接続せずに利用できます。

オン：PPPoE を使用して LAN 接続をする場合。

オフ：PPPoE を使用しない場合。

ご注意

- PPPoE は､NTT のフレッツ ADSL および B フレッツサービスのみ動作保証を行っています。
- 「フレッツ」は、NTT 東日本・NTT 西日本のサービス名であり、登録商標です。

PPPoE ユーザー名

PPPoE を使用して LAN 接続するときのユーザー名を入力します。

PPPoE パスワード

PPPoE を使用して LAN 接続するときのパスワードを入力します。

PPPoE 固定 IP

固定 IP アドレスを使用して PPPoE 接続するかどうかの選択をします。

オン：固定 IP アドレスを使用して PPPoE 接続する場合。

オフ：固定 IP アドレスを使用しない場合。

PPPoE 固定 IP アドレス

「PPPoE 固定 IP」が「オン」のとき、固定 IP アドレスを入力します。

PPPoE DNS

PPPoE 接続する場合、DNS サーバーを自分で設定するか自動取得するかを選びます。

自動取得：DNS サーバーを自動取得する場合。

設定する：DNS サーバーを自分で設定する場合。

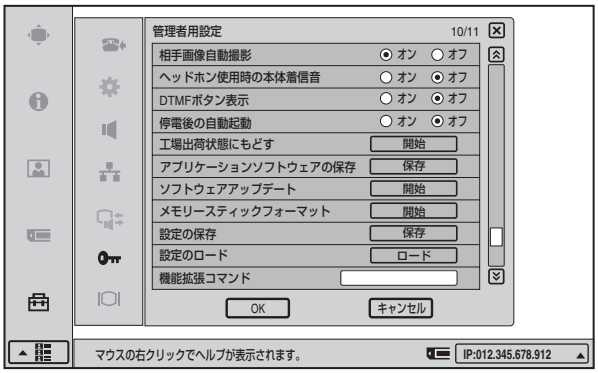
DNS プライマリ

DNS プライマリのアドレスを入力します。

DNS セカンダリ

DNS セカンダリのアドレスを入力します。

10 ページ目（Page 10/11）



相手画像自動撮影

通話時に相手のサムネイル用の静止画を自動的に撮影するかどうかを選びます。

オン：静止画を自動的に撮影する場合。

オフ：静止画を自動的に撮影しない場合。

ヘッドホン使用時の本体着信音

ヘッドホン接続時に、本体のスピーカーからも同時に着信音を出すかどうかを選びます。

オン：本体のスピーカーからも着信音を出す場合。着信音量は、ヘッドホン着信音量で設定した音量になります。

オフ：本体のスピーカーから着信音を出さない場合。

DTMF ボタン表示

通信中画面に DTMF ボタンを表示するかどうかを選びます。DTMF ボタンをクリックすると、DTMF 用ソフトキーボードを表示できます。

オン：DTMF ボタンを表示する場合。

オフ：DTMF ボタンを表示しない場合。

工場出荷状態にもどす

工場出荷状態に戻します。

アプリケーションソフトウェアの保存

アプリケーションソフトウェアを“メモリースティック”に保存します。

ソフトウェアアップデート

“メモリースティック”を使用して、ソフトウェアのバージョンアップおよびバージョンダウンを実行します。

ご注意

バージョンダウンできるのは、工場出荷時点のバージョンまでとなります。

メモリスティックフォーマット

“メモリースティック”をフォーマットします。

設定の保存

各設定の情報をメモリースティックに保存します。

設定のロード

各設定の情報をメモリースティックからロードします。

機能拡張コマンド

IPELA VC Link サービス利用を開始するためのコマンドを入力します。

ご注意

IPELA VC Link サービスは、日本国内専用のサービスです。IPELA VC Link サービスに関しては、本機の販売会社へご確認ください。

停電後の自動起動

停電からの復旧時に電源を自動的にオンにするかどうかを選択します。

オン：停電からの復旧時に自動的に電源が入ります。

オフ：停電からの復旧時に自動的に電源が入りません。

11 ページ目（Page 11/11）

共有アドレス帳

サーバー上にある共有アドレス帳を使用するかどうかを選びます。

オン：共有アドレス帳を使用する場合。

オフ：共有アドレス帳を使用しない場合。

SPB モード

共有アドレス帳を管理するサーバーを使用するかどうかを選択します。

オン：共有アドレス帳を管理するサーバーを使用する場合。

オフ：共有アドレス帳を管理するサーバーを使用しない場合。

SPB サーバ・アドレス

共有アドレス帳を管理するサーバーの IP アドレスを入力します。

SPB 自動登録

共有アドレス帳を管理するサーバーへ端末情報の登録を自動で行うかどうかを選択します。

オン：共有アドレス帳を管理するサーバーへの登録を自動で行う場合。

オフ：共有アドレス帳を管理するサーバーへの登録を自動で行わない場合。

SPB サーバ・パスワード

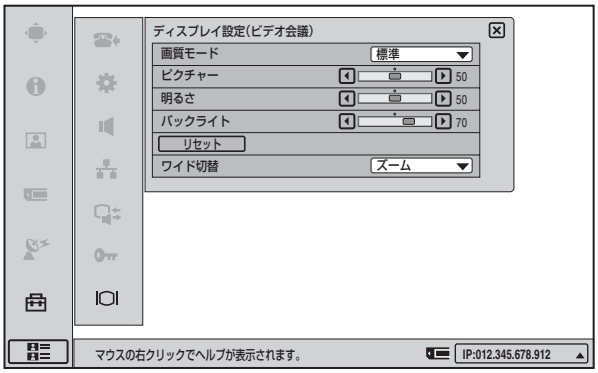
共有アドレス帳を管理するサーバーのパスワードを入力します。

ディスプレイ設定メニュー

ディスプレイの設定に関するメニューです。ビデオ会議モード時と PC（コンピュータディスプレイ）モード時の設定を個別に行います。

◆ 詳しい設定のしかたは、「ディスプレイの画質を調節する」（93 ページ）をご覧ください。

ビデオ会議 1 ページ目（Page 1/1）



画質モード

画面の色調を選びます。

ダイナミック：青っぽい色調になります。

標準：ダイナミックと AV プロの中間の色調になります。

AV プロ：赤っぽい色調になります。

ピクチャー

画面の明暗の差を調節します。
数値が大きくなるほど画面の明暗の差が大きくなります。

明るさ

画面の明るさを調節します。
数値が大きくなるほど画面が明るくなります。

バックライト

バックライトの明るさを調節します。
数値が大きくなるほどバックライトが明るくなります。

リセット

初期設定に戻します。

ワイド切替

画面モードを切り換えます。

ノーマル：4:3 の画面をそのまま表示します。

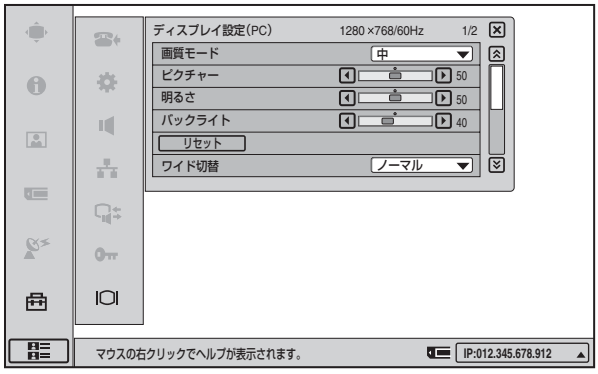
ワイド：4:3 の画面の幅を横方向に広げてワイドの画面にします。

ズーム：4:3 の画面を拡大して上下を切り取り、ワイドの画面にします。

ご注意

画面レイアウト設定が、ピクチャーアンドピクチャーまたはサイドバイサイドのときはワイド切替を変更しても画面表示は変わりません。

PC 1 ページ目（Page 1/2）



画質モード

画面の色温度を低、中、高から選びます。

ピクチャー

画面の明暗の差を調節します。
数値が大きくなるほど画面の明暗の差が大きくなります。

明るさ

画面の明るさを調節します。
数値が大きくなるほど画面が明るくなります。

バックライト

バックライトの明るさを調節します。
数値が大きくなるほどバックライトが明るくなります。

リセット

初期設定に戻します。

ワイド切替

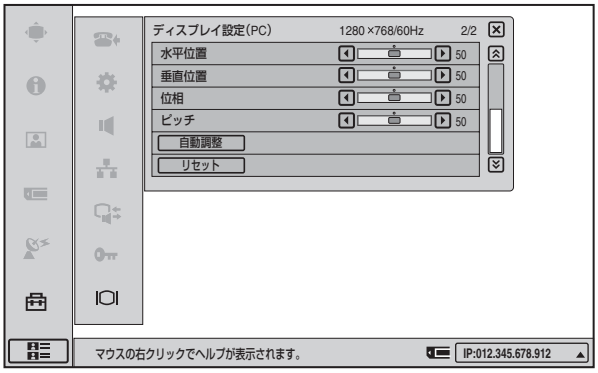
画面モードを切り換えます。
WXGA 1280 × 768 の画像が入力された場合は、設定にかかわらずワイドで表示されます。

ノーマル：4:3 の画面をそのまま表示します。
ワイド：4:3 の画面の幅を横方向に広げてワイドの画面にします。
ズーム：4:3 の画面を拡大して上下を切り取り、ワイドの画面にします。

ご注意

画面レイアウト設定が、ピクチャーアンドピクチャーまたはサイドバイサイドのときはワイド切替を変更しても画面表示は変わりません。

PC 2 ページ目（Page 2/ 2）



水平位置

表示画面の水平位置を調節します。
画面が左右に移動します。

垂直位置

表示画面の垂直位置を調節します。
画面が上下に移動します。

位相

横方向の縞や文字のにじみが最小になるように調節します。

ピッチ

縦方向の大きな縞がなくなるように調節します。

自動調整

位相とピッチを自動で調整します。

リセット

初期設定に戻します。

画面解像度／リフレッシュレート

画面解像度とリフレッシュレートを表示します。

ご注意

水平位置、垂直位置の調整範囲は、入力されている RGB 信号の仕様により、異なる場合があります。

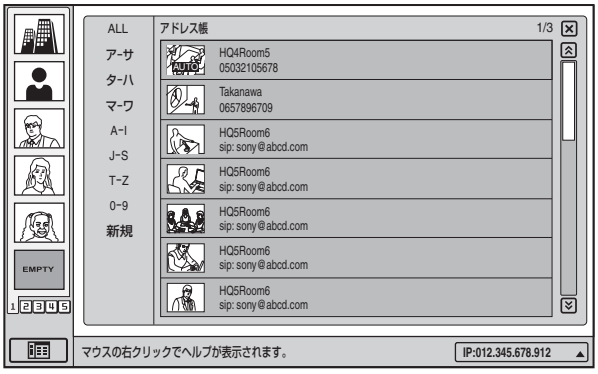
会議の相手をアドレス帳に登録する

アドレス帳に相手の IP アドレスなどを登録しておくと、簡単にダイヤルすることができます。本機のアドレス帳には 500 件までの相手を登録できます。各リストに静止画（相手の写真など）を登録しておくこともできます。
また、本機のアドレス帳とは別に、“メモリースティック”にプライベートアドレス帳を作ることもできます。

新しい相手を登録する

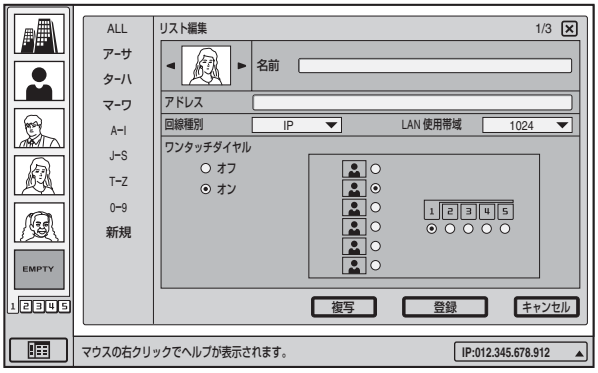
1 ランチャーメニューの（アドレス帳）アイコンをクリックする。

アドレス帳メニューが表示されます。



2 「新規」をクリックする。

リスト編集メニューが表示されます。



3 名前欄に、相手の名前を入力する。

◆ 入力のしかたは、「文字や数字を入力する」（26 ページ）をご覧ください。

4 IP アドレス入力欄に、相手の IP アドレスを入力する。

5 「回線種別」で回線インターフェースを設定する。

IP：LAN を使ってビデオ会議システムと接続する場合。
SIP：SIP を使って IP 電話などと接続する場合。

ご注意

「回線種別」に表示される回線インターフェースは本機にインストールされているソフトウェアによって異なります。
SIP については第 7 章をご覧ください。

6 LAN 使用帯域を設定する。

7 アドレス帳に表示するサムネイル画像を、回線種別アイコン、通信中に自動キャプチャーされた静止画から選ぶ。

◀/▶ をクリックして、表示する画像を選びます。
静止画が保存されている“メモリースティック”が本機に挿入されているときは、“メモリースティック”の静止画も選択できます。

◆ 静止画の自動キャプチャーについて詳しくは「自動的に相手側の映像を保存する－自動静止画キャプチャー機能」（72 ページ）をご覧ください。

8 ワンタッチダイヤルに登録するかどうかを選ぶ。登録する場合は、登録するグループとグループ内の位置を選びます。

9 「登録」をクリックする。

設定した内容が登録されます。

登録先ごとに異なる発信設定を使うには

通信モード設定メニュー－発信で「詳細設定」を「オン」に設定しているときは、リスト編集メニューに「詳細設定」が表示され、クリックすると登録先ごとに、映像方式、映像フレーム数、音声方式、遠隔カメラ制御、H.239(Presentation) の設定を行えます。「戻る」をクリックすると、通常の編集画面に戻ります。

アドレス帳を修正する

アドレス帳に登録してある IP アドレス、名前、設定を修正することができます。

1 アドレス帳メニューを表示する。

2 修正したい相手にマウスカーソルを合わせ、「編集」をクリックする。

リスト編集メニューが表示されます。

3 IP アドレス、名前、設定を修正する。

4 「登録」をクリックする。

登録内容の修正が完了します。

登録先ごとに異なる発信設定を使うには

通信モード設定メニュー－発信で「詳細設定」を「オン」に設定しているときは、リスト編集メニューで登録先ごとに、映像方式、映像フレーム数、音声方式、遠隔カメラ制御、H.239(Presentation) の設定を行えます。

◆ 詳しくは、「新しい相手を登録する」（42 ページ）をご覧ください。

登録した相手を削除する

アドレス帳に登録してある相手を削除するときは、次のように操作します。

1 アドレス帳メニューを表示する。

2 削除したい相手にマウスカーソルを合わせ、🗑をクリックする。

「このアドレスを削除しますか ?」という確認のメッセージが表示されます。

3 「OK」をクリックする。

選んだ相手が削除されます。

削除を中止するときは

手順 3 で「キャンセル」をクリックする。

ご注意

削除した相手がワンタッチダイヤルに登録されている場合、ワンタッチダイヤルからも削除されます。

アドレス帳の設定をコピーする

1 アドレス帳メニューを表示する。

2 コピーしたい相手にマウスカーソルを合わせ、「編集」をクリックする。

リスト編集メニューが表示されます。

3 「複写」をクリックする。

選んだ相手がコピーされ、元のファイル名のうしろに「-1、-2、-3…」が追加されます。設定はすでにコピーされているので、変更したい項目だけ修正して使用することができます。

ご注意

コピーした相手がワンタッチダイヤルに登録されている場合でも、ワンタッチダイヤルの情報はコピーされません。

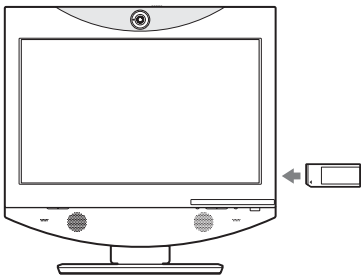
プライベートアドレス帳を作成する

“メモリースティック”に自分専用のアドレス帳（プライベートアドレス帳）を作成することができます。一度作成すると、本機に“メモリースティック”を入れるだけでプライベートアドレス帳に切り替わります。また、“メモリースティック”を入れるだけでプライベートアドレス帳に登録したリストの 1 つに自動発信させることもできます。

プライベートアドレス帳に相手を登録するには

1 プライベートアドレス帳を記憶させたい“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込む。

“メモリースティック”の表側を手前に、上面に書いてある矢印の向きに差し込んでください。



2 管理者用設定メニューの１ページ目を表示する。

◆ メニューの表示のしかたは、「設定メニューを表示する」（27 ページ）をご覧ください。

3 「プライベートアドレス帳の作成」をクリックする。

「プライベートアドレス帳を作成しますか？」という確認のメッセージが表示されます。

4 「OK」をクリックする。

空のプライベートアドレス帳が“メモリースティック”に作成されます。

5 相手を新規登録する。

登録のしかたは、本体のアドレス帳の場合と同じです。「新しい相手を登録する」（42 ページ）の手順２～７をご覧ください。

プライベートアドレス帳の修正のしかたや、プライベートアドレス帳に登録した相手を削除したり、アドレス帳の設定をコピーしたりする方法も、本体のアドレス帳の場合と同じです。プライベートアドレス帳を画面に表示した状態で、43 ページの操作をしてください。

本体のアドレス帳をプライベートアドレス帳として複製するには

プライベートアドレス帳を記憶させたい“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込み、管理者用設定メニューの１ページ目の「プライベートアドレス帳への複製」を選びます。本体に登録されているアドレス帳が“メモリースティック”に複製されます。

“メモリースティック”からプライベートアドレス帳を削除するには

削除したいプライベートアドレス帳が登録されている“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込み、管理者用設定メニューの１ページ目の「プライベートアドレス帳の削除」を選びます。プライベートアドレス帳が“メモリースティック”から削除されます。

プライベートアドレス帳のリストの１つに自動発信するには

管理者設定メニューで「自動発信」を「オン」にしておくと、“メモリースティック”を入れるだけでプライベートアドレス帳に登録したリストの１つに自動的に発信できます。

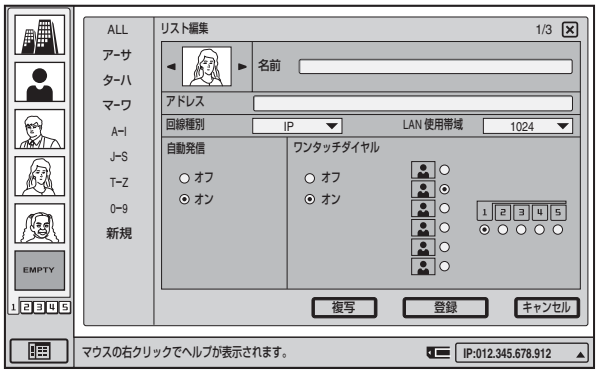
ご注意

自動発信の相手先に設定できるのは、１件だけです。最後に「自動発信」を「オン」にしたアドレスに、自動的に発信されます。

1 プライベートアドレス帳メニューを表示する。

2 自動発信したい相手にマウスカーソルを合わせ、「編集」をクリックする。

リスト編集メニューが表示されます。



3 「自動発信」で「オン」をクリックする。

4 「登録」をクリックする。

設定が登録され、プライベートアドレス帳メニューのリストに「AUTO」と表示されます。

プライベートアドレス帳の使用をやめるには

プライベートアドレス帳が登録されている“メモリースティック”を本体から取り出します。アドレスメニューは、本体のアドレス帳の表示に戻ります。

共有アドレス帳を使用する

共有アドレス帳機能を使用することで、サーバー上にあるアドレス帳を複数台のソニー製ビデオコミュニケーションシステムで使用できるようになります。

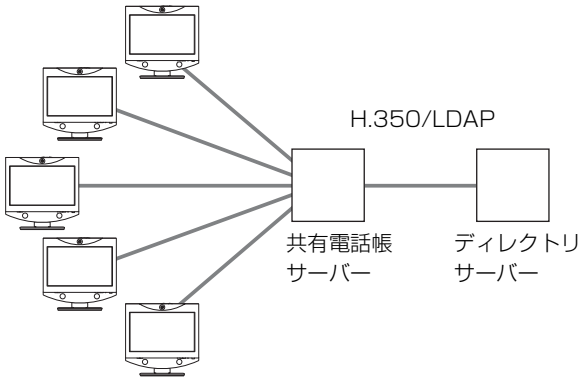
◆ 詳しい設定については、ネットワーク担当者などにご相談ください。

ご注意

共有アドレス帳へのリスト登録、変更、削除、および画像の貼り付けはできません。また、共有アドレス帳に登録された相手をプライベートアドレス帳にコピーすることはできません。

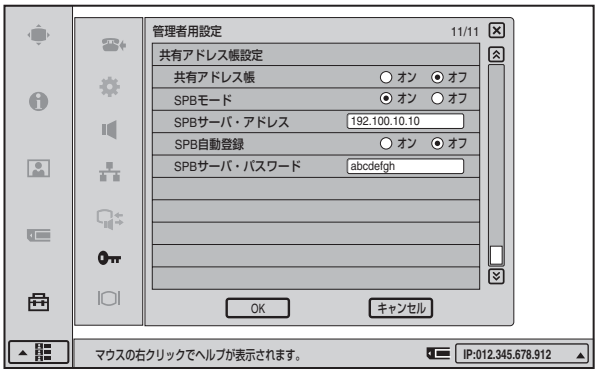
システム構成例

このシステム構成では、H.350 を使用したアドレス帳共有が可能になります。



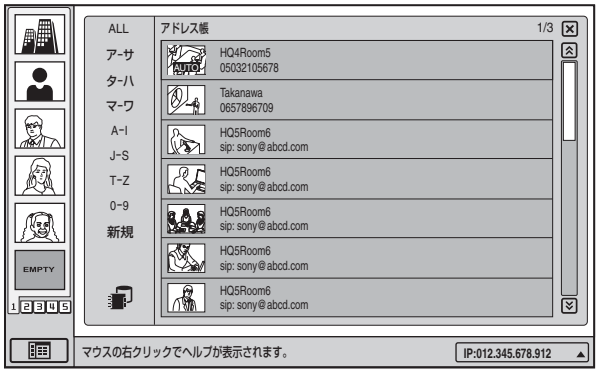
共有アドレス帳を使用する

管理者用設定メニュー 11 ページ目で、「共有アドレス帳」と「SPB モード」を「オン」、「SPB サーバ・アドレス」、「SPB サーバ・パスワード」にそれぞれ適切な値を入力します。



共有アドレス帳を表示するには

アドレス帳画面左下の をクリックすることで共有アドレス帳に切り替わります。

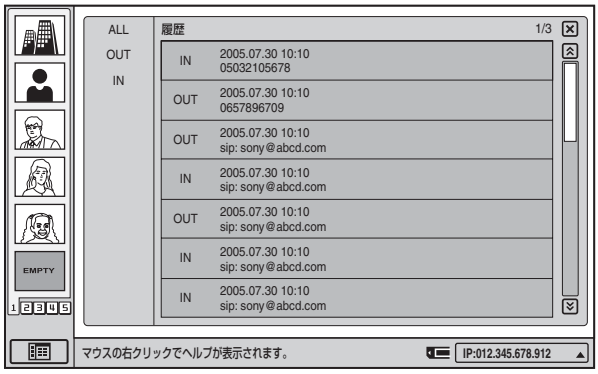


共有アドレス帳からアドレス帳またはプライベートアドレス帳に切り換えるには、同じ操作を再度行ってください。

◆ 共有アドレス帳に登録された相手への発信方法は、アドレス帳と同様です。発信方法について詳しくは、「アドレス帳に登録している相手を呼び出す」（57 ページ）をご覧ください。

発信、着信の履歴を確認する

ランチャーメニューで（履歴）アイコンをクリックすると、履歴メニューが表示されます。



履歴メニューでは、これまでに発信、着信した相手が一覧表示されます。
「ALL」を選ぶと、最近、発信、着信があった順に表示されます。発信または着信のみを表示したい場合は、「OUT」または「IN」を選んでください。
複数のページがあるときは、画面右側にスクロールバーが表示されます。次のページに進むにはスクロールバー下側のページ送りボタン、前のページに戻るときはスクロールバー上側のページ送りボタンをクリックしてください。
また、スクロールバーをマウスでドラッグして上下に移動することで、ページを切り換えることもできます。

履歴から発信するには

発信したい相手にマウスカーソルを合わせ、☎（ダイヤル）をクリックします。

履歴をアドレス帳に登録するには

アドレス帳に登録したい相手にマウスカーソルを合わせ、「✎登録」をクリックします。詳しくは、「アドレス帳を修正する」（43 ページ）をご覧ください。

履歴を削除するには

履歴から削除したい相手にマウスカーソルを合わせ、🗑をクリックします。

ご注意

履歴として表示される件数は、発信、着信合わせて新しいものから 40 件です。

会議の相手をワンタッチダイヤルに登録する

ランチャーメニューのワンタッチダイヤルに会議の相手を登録しておくと、簡単に会議の相手を選ぶことができます。ワンタッチダイヤルには、アドレス帳に登録したなかから 30 件まで選んで登録できます。

ワンタッチダイヤルを登録する

ワンタッチダイヤルの登録は、アドレス帳のリスト編集メニューで行います。
ワンタッチダイヤルの登録のしかたは、「新しい相手を登録する」（42 ページ）をご覧ください。

アドレス帳からワンタッチダイヤルの登録内容を修正するには

アドレス帳の登録内容を修正すると、アドレス帳から登録したワンタッチダイヤルの登録内容も自動的に修正されます。
アドレス帳の修正のしかたは、「アドレス帳を修正する」（43 ページ）をご覧ください。

アドレス帳からワンタッチダイヤルの登録を削除するには

アドレス帳のリスト編集メニューで、ワンタッチダイヤルの登録をしないように設定を変更します。
設定変更のしかたは、「新しい相手を登録する」（42 ページ）をご覧ください。

ランチャーメニューからワンタッチダイヤルの登録内容を修正するには

1 ランチャーメニュー上で、登録内容を変更したい相手にマウスカーソルを合わせ、「✎編集」をクリックする。

リスト編集メニューが表示されます。

2 リスト編集メニューで登録内容を変更し、「登録」をクリックする。

ランチャーメニューの表示に戻ります。

これで、ランチャーメニューのワンタッチダイヤルの登録内容とアドレス帳の登録内容が同時に修正されます。

ランチャーメニューからワンタッチダイヤルの登録を削除するには

ランチャーメニュー上で、削除したい相手にマウスカーソルを合わせ、🗑をクリックします。
ランチャーメニューに戻り、削除されたワンタッチダイヤルがグレーで表示されます。

ご注意

ワンタッチダイヤルの登録を削除しても、アドレス帳の登録内容は削除されません。

プライベートワンタッチダイヤルを登録する

“メモリースティック”に保存したプライベートアドレス帳の相手をワンタッチダイヤルに登録することもできます。いったん登録すれば、“メモリースティック”を本機に挿入するだけでランチャーメニューのワンタッチダイヤルリストがプライベートアドレス帳から登録されたワンタッチダイヤルの内容に切り替わります。

ワンタッチダイヤルの登録や、削除、編集のしかたは、本体のアドレス帳の場合と同じです。
最大30件まで登録できます。

ネットワーク構成ごとの設定方法

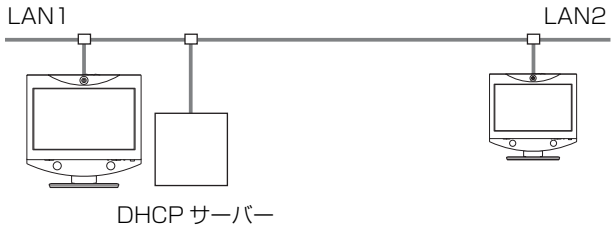
ここでは、さまざまなネットワークで使用する際の本機の設定方法を、使用するネットワーク構成ごとに説明します。

◆ ネットワーク設定メニューについて詳しくは、「ネットワーク設定メニュー」（30ページ）をご覧ください。

◆ 詳しい設定については、ネットワーク管理者などにご相談ください。

LAN（DHCPを介しての接続）

構成例



LAN設定メニュー－1ページ目で「DHCPモード」を「オート」にします。

IPアドレスがランチャーメニューに表示されていれば、正しく設定できています。

ご注意

ランチャーメニューに表示される情報は、機器設定メニューの「番号表示」の設定によって異なります。また、番号表示部分をクリックすると、表示させる情報をリストから選択できます。

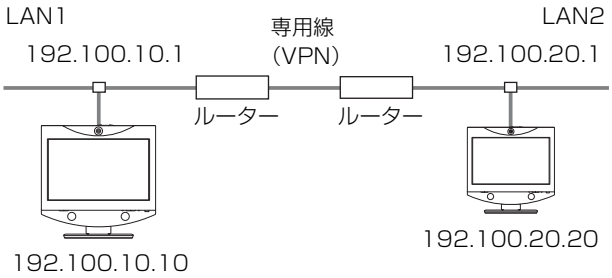
ビデオ会議を行うには

回線インターフェースに「IP」を選択し、番号入力欄に相手側の IP アドレスを入力して、ダイヤルします。
通信モード設定メニュー－発信の「回線種別」で「IP」を選択しておくと、ランチャーメニューの回線種別選択で、通常使用する回線インターフェースに「IP」が選択された状態にできます。

◆ 詳しい設定のしかたは、「通信モード設定メニュー」（33 ページ）をご覧ください。

LAN（ルーターを介しての接続）

構成例



LAN 設定メニュー 1 ページ目で、「DHCP モード」を「オフ」にして、「ホストネーム」に任意の名称を、「IP アドレス」、「ネットワークマスク」、「ゲートウェイアドレス」にそれぞれ適切な値を入力します。

設定した IP アドレスが、ランチャーメニューに表示されていれば、正しく設定できています。

ご注意

ランチャーメニューに表示される情報は、機器設定メニューの「番号表示」の設定によって異なります。また、番号表示部分をクリックすると、表示させる情報をリストから選択できます。

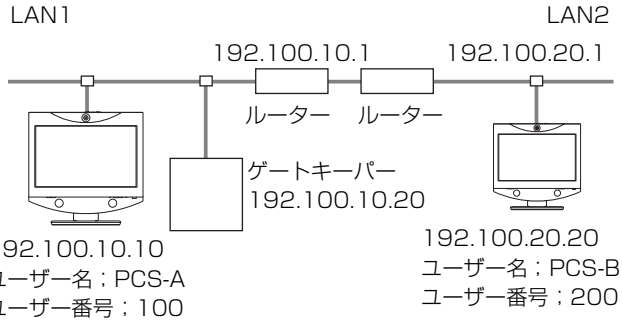
ビデオ会議を行うには

回線インターフェースに「IP」を選択し、番号入力欄に相手側の IP アドレスを入力して、ダイヤルします。
通信モード設定メニュー－発信の「回線種別」で「IP」を選択しておくと、ランチャーメニューの回線種別選択で、通常使用する回線インターフェースに「IP」が選択された状態にできます。

◆ 詳しい設定のしかたは、「通信モード設定メニュー」（33 ページ）をご覧ください。

LAN（ゲートキーパーを介しての接続）

構成例



1 LAN 設定メニュー 1 ページ目で、「DHCP モード」を「オフ」にして「ホストネーム」に任意の名称を、「IP アドレス」、「ネットワークマスク」、「ゲートウェイアドレス」にそれぞれ適切な値を入力する。

2 管理者用設定メニュー 2 ページ目で「ゲートキーパー使用」を「オン」にし、「ゲートキーパーアドレス」、「ユーザー名」、「ユーザー番号」にそれぞれ適切な値を入力する。

設定したIPアドレスがランチャーメニューに表示され、ステータス＆情報の3ページ目「ゲートキーパー」に「登録成功」と表示されていれば、正しく設定できています。

ご注意

ランチャーメニューに表示される情報は、機器設定メニューの「番号表示」の設定によって異なります。また、番号表示部分をクリックすると、表示させる情報をリストから選択できます。

ビデオ会議を行うには

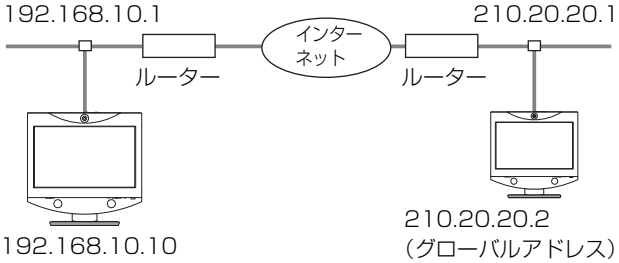
回線インターフェースに「IP」を選択し、番号入力欄に相手側で設定した「ユーザー名」または「ユーザー番号」を入力して、ダイヤルします。
通信モード設定メニュー－発信の「回線種別」で「IP」を選択しておくと、ランチャーメニューの回線種別選択で、通常使用する回線インターフェースに「IP」が選択された状態にできます。

◆ 詳しい設定のしかたは、「通信モード設定メニュー」（33ページ）をご覧ください。

LAN（NAT環境での接続）

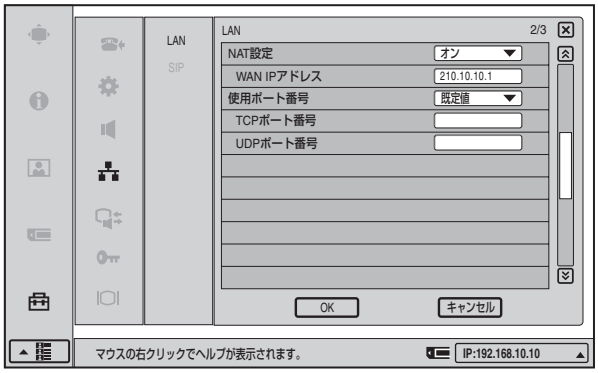
NATを使用すると、LAN上の複数のコンピューターが1つのIPアドレスを共有できます。ここでは、NAT環境とグローバルIP環境とのビデオ会議のための設定を説明します。

構成例



1 LAN設定メニュー1ページ目で、「DHCPモード」を「オフ」にして「ホストネーム」に任意の名称を、「IPアドレス」、「ネットワークマスク」、「ゲートウェイアドレス」にそれぞれ適切な値を入力する。

2 LAN設定メニュー2ページ目で「NAT設定」を「オン」、「WAN IPアドレス」に適切な値を入力する。



3 相手側で、LAN設定メニュー1ページ目を同様に設定する。

ご注意

相手側がNAT環境ではない場合は、LAN設定メニュー－NATの設定を行う必要はありません。

ビデオ会議を行うには

回線インターフェースに「IP」を選択し、番号入力欄に相手側のIPアドレスを入力して、ダイヤルします。
通信モード設定メニュー－発信の「回線種別」で「IP」を選択しておくと、ランチャーメニューの回線種別選択で、通常使用する回線インターフェースに「IP」が選択された状態にできます。

◆ 詳しい設定のしかたは、「通信モード設定メニュー」（33ページ）をご覧ください。

ご注意

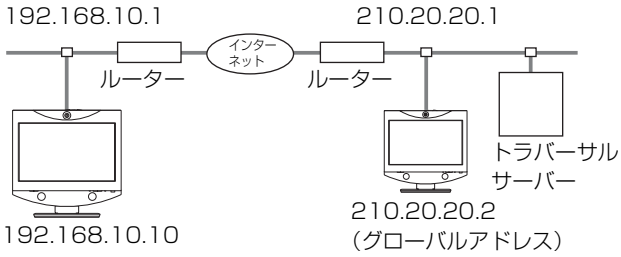
NAT環境で本機を使用する場合、本機から相手側（グローバルIP）への発信は可能ですが、相手側から本機への発信

はルーターの設定を行う必要があります。ルーターの設定について詳しくは、ネットワーク管理者などにご相談ください。

LAN（H.460 を使用したファイアウォール越えでの接続）

H.460 を使用すると、ファイアウォールを越え、別のネットワーク上にある端末との会議を行うことができます。

構成例



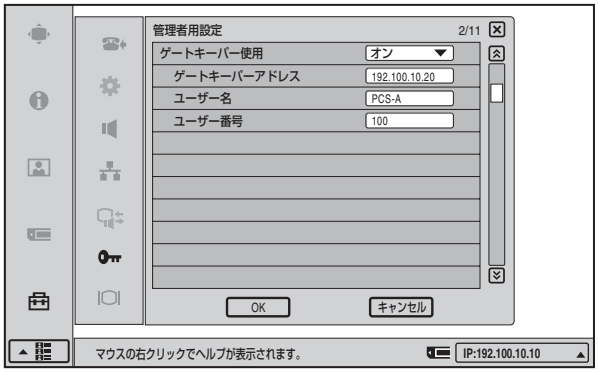
1 LAN 設定メニュー 3 ページ目で「NAT/ ファイアウォール越え」を「オン（H.460）」に設定する。

ご注意

この機能を使用する際には、ゲートキーパーの設定が必要です。

2 LAN 設定メニュー 1 ページ目で、「DHCP モード」を「オフ」にして「ホストネーム」に任意の名称を、「IP アドレス」、「ネットワークマスク」、「ゲートウェイアドレス」にそれぞれ適切な値を入力する。

3 管理者用設定メニュー 2 ページ目で「ゲートキーパー使用」を「オン」にし、「ゲートキーパーアドレス」、「ユーザー名」、「ユーザー番号」にそれぞれ適切な値を入力する。



設定した IP アドレスがランチャーメニューに表示され、ステータス＆情報の 3 ページ目「ゲートキーパー」に「登録成功」と表示されていれば、正しく設定できています。

ご注意

ランチャーメニューに表示される情報は、機器設定メニューの「番号表示」の設定によって異なります。また、番号表示部分をクリックすると、表示させる情報をリストから選択できます。

ビデオ会議を行うには

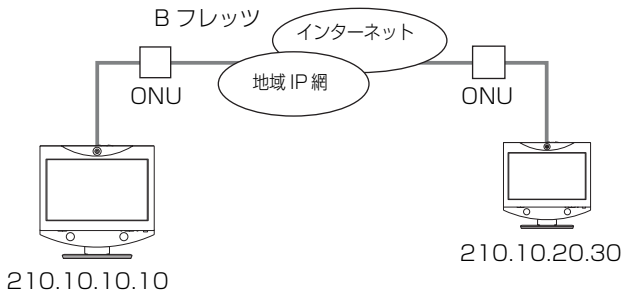
回線インターフェースに「IP」を選択し、番号入力欄に相手側の IP アドレスを入力して、ダイヤルします。
通信モード設定メニュー－発信の「回線種別」で「IP」を選択しておくと、ランチャーメニューの回線種別選択で、通常使用する回線インターフェースに「IP」が選択された状態にできます。

◆ 詳しい設定のしかたは、「通信モード設定メニュー」（33 ページ）をご覧ください。

LAN（PPPoE による接続）

PPPoE を使用すると、ルーターを使用せずに、フレッツ ADSL または B フレッツを利用できます。
フレッツ ADSL の場合、モデム（ブリッジモードで使用）が必要になります。

構成例



1 管理者用設定メニュー 9 ページ目で、「PPPoE」を「オン」にし、「PPPoE ユーザー名」、「PPPoE パスワード」にそれぞれプロバイダーから取得したものを入力する。
プロバイダーから固定 IP を取得している場合は「PPPoE 固定 IP」を「オン」にし、「PPPoE 固定 IP アドレス」に取得した IP アドレスを入力する。

ランチャーメニューに設定した IP アドレスが表示されていれば、正しく設定できています。

ご注意

- プロバイダーによって固定の DNS サーバアドレスが指定されている場合は、「PPPoE DNS」を「設定する」にし、指定されたアドレスを「DNS プライマリ」、「DNS セカンダリ」に入力してください。
- ランチャーメニューに表示される情報は、機器設定メニューの「番号表示」の設定によって異なります。また、番号表示部分をクリックすると、表示させる情報をリストから選択できます。

2 相手側も同様に設定する。

ビデオ会議を行うには

回線インターフェースに「IP」を選択し、番号入力欄に相手側の IP アドレスを入力して、ダイヤルします。
通信モード設定メニュー－発信の「回線種別」で「IP」を選択しておくと、ランチャーメニューの回線種別選択で、通常使用する回線インターフェースに「IP」が選択された状態にできます。

◆ 詳しい設定のしかたは、「通信モード設定メニュー」（33 ページ）をご覧ください。

日常の会議

第3章

この章では、管理者が第2章のシステムの登録と設定をすませていることを前提に、日常の会議の行いかたを説明します。
この章では、LANを使って接続する2地点間のビデオ会議について説明します。

◆ “メモリースティック”や別売りの機器を使った会議を行うには、第4章をご覧ください。

◆ 別売りのデータソリューションモジュールPCSA-DSM1を使ったデータ会議を行うには、第5章をご覧ください。

◆ LAN暗号化会議を行うには、第6章をご覧ください。

◆ SIPを使った会議を行うには、第7章をご覧ください。

自分側から会議を始める

自分側から会議を始めるときは、会議を行う相手に電話をかけます（ダイヤルします）。相手とつながると、通常の電話で音声による会話を行うのと同じように、映像と音声による会議が始まります。
まず、相手を呼び出す方法を説明します。

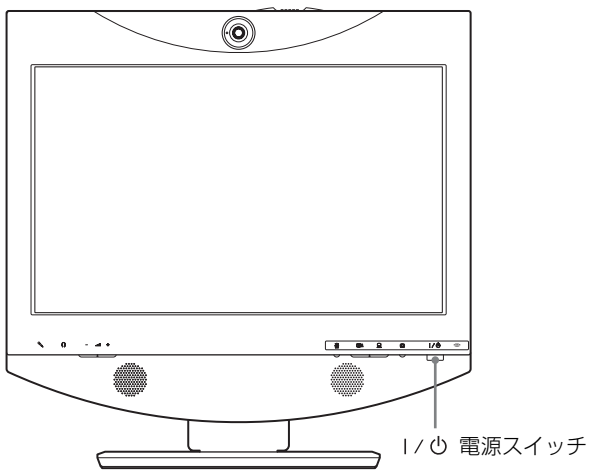
◆ PCモード時の発信のしかたは、「PC画面での発信と着信」（93ページ）をご覧ください。

電源を入れる

1 会議で使用する機器の電源を入れる。

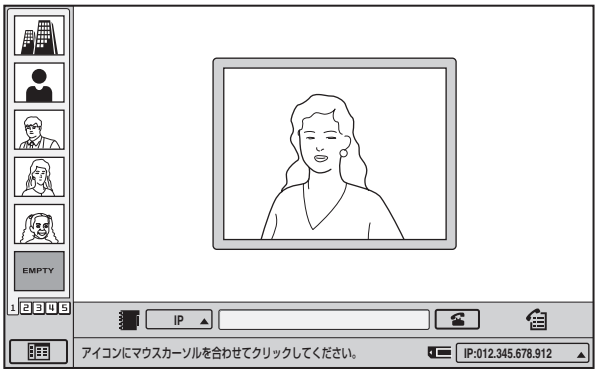
2 本機のI/⏻（電源）スイッチを押す。

スイッチのインジケーターがオレンジ色に点灯し、本機の電源が入ります。起動が完了すると緑色に点灯します。
ディスプレイにはランチャーメニューが表示され、自分側のカメラが写している映像も表示されます。



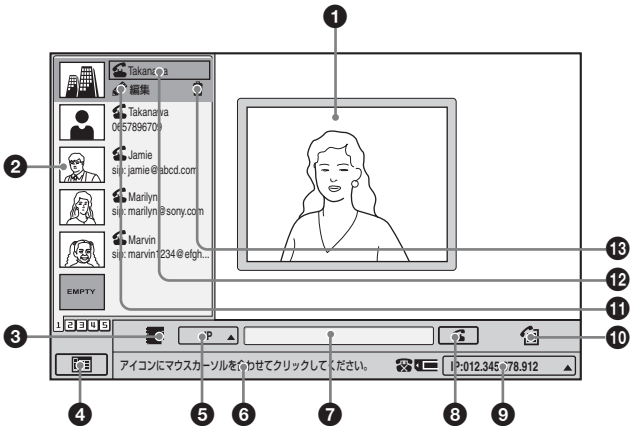
3 カメラのレンズカバーが開いていることを確認する。

閉じている場合は上面のレンズカバー開閉レバーを右へスライドさせて開いてください。
ランチャー画面にカメラに映った映像が表示されます。



ランチャーメニューの見かた

電源を入れたときなど通信中でないときは、ランチャーメニューが画面に表示されます。ランチャーメニューには、自分側のカメラの映像や、自分側のシステムの状況、メニュー操作用のボタン、ワンタッチダイヤルリストなどが表示されています。



❶ スクリーン
自分側のカメラの映像が表示されます。

❷ ワンタッチダイヤルリスト
マウスカーソルを合わせると、ダイヤル・編集・削除ボタンが表示されます。

❸ アドレス帳ボタン
クリックすると、アドレス帳が表示されます。
プライベートアドレス帳が保存されている“メモリースティック”が挿入されている場合は、プライベートアドレス帳が表示されます。

❹ メニューバー表示ボタン
クリックすると、ランチャーメニューと、設定メニュー画面が切り替わります。

❺ 回線種別選択
発信の際の回線インターフェースを選択するときにクリックします。

❻ メッセージ表示
操作説明などのメッセージが表示されます。

❼ 番号入力欄
この欄に直接、IP アドレスを入力してダイヤルできます。

❽ ダイヤルボタン
番号入力欄に入力した番号に発信するとき、このボタンをクリックします。

❾ システム状況インジケーター
自分側のシステムの状況をインジケーターで表示します。
☎：着信拒否が設定されています。
▭：“メモリースティック”が挿入されています。
番号表示：本機の回線情報が表示されます。表示されるのは、機器設定メニューの「番号表示」で設定した情報です。番号表示部分をクリックすると、表示させる情報をリストから選択できます。

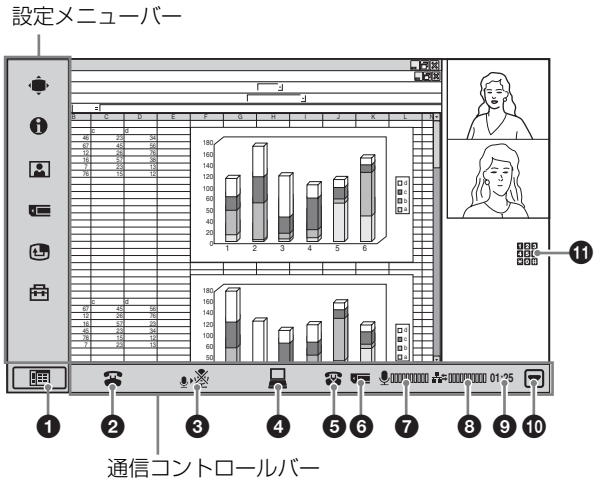
❿ 履歴ボタン
クリックすると、発信 / 着信履歴が表示されます。

⓫ 編集ボタン
クリックすると、選択した相手のリスト編集メニューが表示されます。

⓬ ダイヤルボタン
クリックすると、選択した相手に発信します。

⓭ 削除ボタン
クリックすると、選択した相手がワンタッチダイヤルリストから削除されます。

通話中画面の見かた



❶ 設定メニューバー表示ボタン
クリックするごとに、設定メニューバーの表示 / 非表示が切り替わります。

❷ 切断ボタン
クリックすると通話が切断されます。

❸ マイクオン / オフボタン
クリックするごとにマイクのオン / オフが切り替わります。マイクレベルインジケーターと本体の（マイクオフ）ボタンのインジケーターも変わります。

❹ DSM 送信ボタン
データソリューションモジュール PCSA-DSM1 を取り付けている場合のみ表示されます。
クリックするごとにデータの送信 / 解除を行います。

❺ 着信拒否表示
着信設定メニューの着信拒否を「オン」にしたときに表示されます。

❻ メモリースティック挿入表示
“メモリースティック”がメモリースティックスロットに入っているときに表示されます。

❼ マイクレベルインジケーター
マイクの入力レベルを表示します。マイクがオフのときは表示がに変わります。

❽ パケットロスインジケーター
回線の状況を表示します。

❾ 経過時間表示
通話開始からの時間を表示します。

❿ 通信コントロールバー表示 / 非表示ボタン
このボタンをクリックすると、通信コントロールバーを表示、非表示できます。
：非表示にしたいとき。
：表示したいとき。

⓫ DTMF 表示アイコン
DTMF 用ソフトキーボードを表示したいときにクリックします。

ご注意

DTMF 表示アイコンは、管理者用設定メニュー 10 ページ目の「DTMF 表示アイコンの設定」が「オン」の場合に表示されます。

詳細な機器情報を表示するには
メニューバー表示ボタンをクリックしてメニュー選択画面を表示し、設定メニューから「ステータス＆情報」をクリックすると、自分側のシステムの状況や通信状態がわかるステータス＆情報メニューが表示されます。

ステータス＆情報

ご注意

非通話中は最初に 4 ページ目が表示され、通信状態は前回通話時のデータが表示されます。
ただし、一度電源を切ると前回通話時のデータが消去されるため、電源を入れてから一度も通話をしていない場合は前回通話時の通信状態は表示されません。またこの場合、3 ページ目と 4 ページ目のみが表示されます。

1 ページ目（Page 1/ 4）

回線 I/F
会議中のみ表示され、使用している回線接続方式を表示します。

遠隔カメラ制御

会議中のみ表示され、相手のカメラをコントロールできるかどうかを表示します。

音声符号化方式

現在の音声符号化方式を表示します。

映像符号化方式

現在の映像符号化方式を表示します。

ご注意

実際の通信に使用される音声符号化方式と映像符号化方式は、接続先のビデオ会議システムの状態により、本機で設定した方式と異なる場合があります。

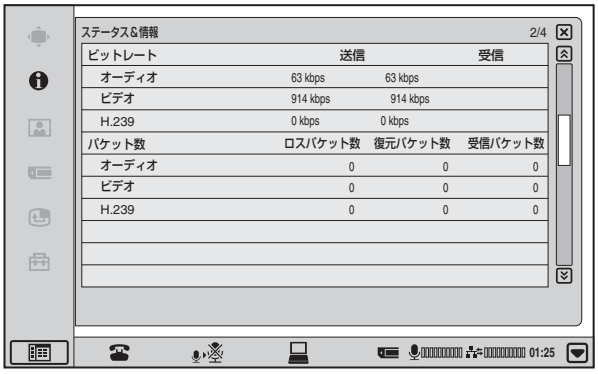
映像フレームレート

動画のフレームレートをリアルタイムで表示します。

回線レート

通信中の伝送レートをリアルタイムで表示します。
表示開始から 5 秒間程度は設定値を表示します。

2 ページ目（Page 2/ 4）



ビットレート―送信

送信時の伝送レートが、オーディオ（音声）、ビデオ（映像）、H.239（プレゼンテーション）の種別ごとに表示されます。

ビットレート―受信

受信時の伝送レートが、オーディオ（音声）、ビデオ（映像）、H.239（プレゼンテーション）の種別ごとに表示されます。

パケット数―ロスパケット数

相手からの伝送中にネットワーク上で欠落したパケット数が、オーディオ（音声）、ビデオ（映像）、H.239（プレゼンテーション）の種別ごとに表示されます。

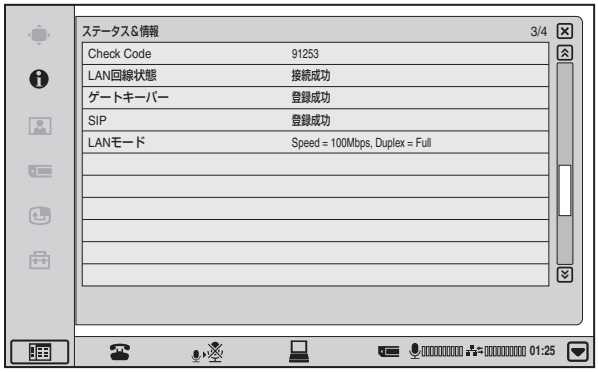
パケット数―復元パケット数

ロスパケット数のうち本機の QoS 機能で復元されたパケット数が、オーディオ（音声）、ビデオ（映像）、H.239（プレゼンテーション）の種別ごとに表示されます。

パケット数―受信パケット数

通信中に受信したパケット数が、オーディオ（音声）、ビデオ（映像）、H.239（プレゼンテーション）の種別ごとに表示されます。

3 ページ目（Page 3/ 4）



Check Code

H.235 暗号化標準方式を使用しているときに表示します。

LAN 回線状態

LAN 回線の状態を表示します。

ゲートキーパー

ゲートキーパーの状態を表示します。

SIP

SIP の状態を表示します。

ご注意

SIP ソフトウェア PCSA-SP1（別売り）インストール時のみ表示します。

LAN モード Speed

LAN の速度を表示します。

LAN モード Duplex

LAN の通信が全二重（Full）か半二重（Half）かを表示します。

4 ページ目（Page 4/ 4）

ホストバージョン
本機のソフトウェアバージョンを表示します。

DSP バージョン
内蔵の映像・音声コーデック DSP（Digital Signal Processor）のソフトウェアバージョンを表示します。

LCD バージョン
本機のディスプレイ部のソフトウェアバージョンを表示します。

カメラバージョン
本機のカメラのソフトウェアバージョンを表示します。

AEC バージョン
エコーキャンセラーのバージョンを表示します。

DSM バージョン
データソリューションモジュール PCSA-DSM1 を取り付けている場合、DSM のバージョンを表示します。

ホストネーム
ホストネームを表示します。

IP アドレス
IP アドレスを表示します。

MAC アドレス
MAC アドレスを表示します。

シリアルナンバー
シリアル番号を表示します。

通信状態
本機の通信状態を表示します。

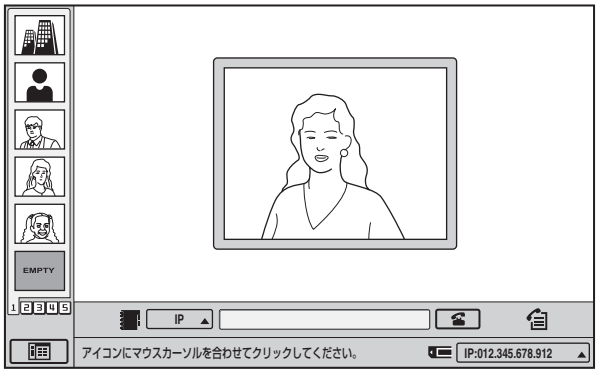
ワンタッチダイヤルで相手を呼び出す

あらかじめワンタッチダイヤルリストに登録してある相手を呼び出す場合です。

◆ ワンタッチダイヤルリストへの登録のしかたは、46 ページをご覧ください。

1 呼び出したい相手を登録しているワンタッチグループのタブをクリックする。

ワンタッチグループが切り替わります。



2 呼び出したい相手にマウスカーソルを合わせ、「ダイヤル」をクリックする。

選択した相手にダイヤルが始まります。ディスプレイに「発信中です。」と表示されます。
相手とつながると「コミュニケーションを始めます。」と表示されます。
これで会議を始めることができます。

相手につながる前にダイヤルを中止するには

「キャンセル」をクリックしてください。

プライベートアドレス帳からワンタッチダイヤルするには

プライベートアドレス帳が登録されている“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込むと、ランチャーメニューのワンタッチダイヤルリストがプライベートアドレス帳から登録されたワンタッチダイヤルの内容に切り替わります。
操作のしかたは、上記の「ワンタッチダイヤルで相手を呼び出す」の手順と同じです。

ランチャーメニューで IP アドレスを入力して呼び出す

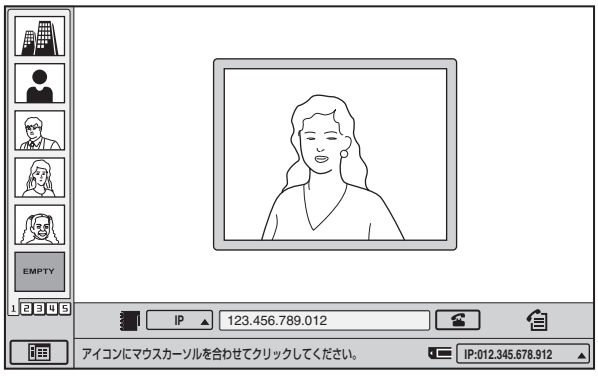
1 回線インターフェースに「IP」を選択し、相手の IP アドレスを番号入力欄に入力する。

番号入力欄をクリックし、ソフトキーボードで数字を入力します。

ヒント

- 「前削除」をクリックすると、カーソルの前の数字が1つ消えます。
- 「全クリア」をクリックすると、入力した数字がすべて消えます。

2 ☎（ダイヤル）アイコンをクリックする。



入力した相手にダイヤルが始まります。ディスプレイに「発信中です。」と表示されます。
相手とつながると「コミュニケーションを始めます。」と表示されます。
これで会議を始めることができます。

相手につながる前にダイヤルを中止するには

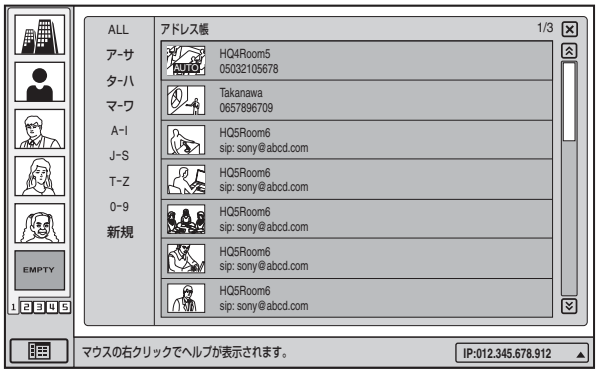
「キャンセル」をクリックしてください。

アドレス帳に登録している相手を呼び出す

あらかじめアドレス帳に登録してある相手を呼び出す場合です。

◆ アドレス帳への登録のしかたは、42 ページをご覧ください。

1 ランチャーメニューの（アドレス帳）アイコンをクリックする。



アドレス帳メニューが表示されます。

2 呼び出したい相手にマウスカーソルを合わせ、「ダイヤル」をクリックする。

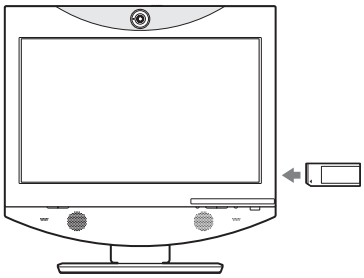
選択した相手にダイヤルが始まります。ディスプレイに「発信中です。」と表示されます。
相手とつながると「コミュニケーションを始めます。」と表示されます。
これで会議を始めることができます。

相手につながる前にダイヤルを中止するには

「キャンセル」をクリックしてください。

プライベートアドレス帳から相手を呼び出すには

1 プライベートアドレス帳が登録されている“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込む。



アドレス帳の内容がプライベートアドレス帳に切り替わります。

2 呼び出したい相手にマウスカーソルを合わせ、「ダイヤル」をクリックする。

選んだ相手にダイヤルされます。

ヒント

プライベートアドレスの自動発信機能が「オン」になっているときは、“メモリースティック”を差し込むだけであらかじめ設定したアドレスに自動的にダイヤルが始まります。設定方法は、「プライベートアドレス帳のリストの1つに自動発信するには」（44ページ）をご覧ください。

アドレス帳を検索するには

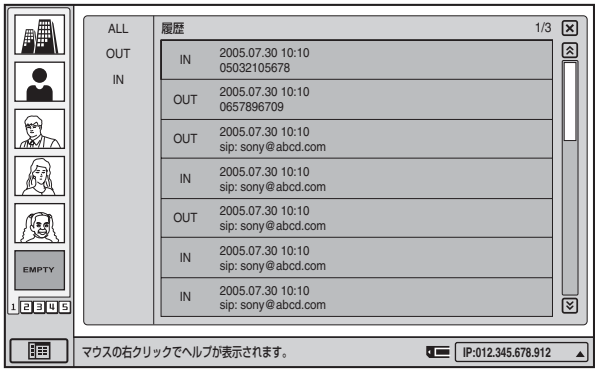
アドレス帳のリストには一度に7件表示できます。
「ALL」を選ぶと、アドレス帳の最初から7件表示されます。
「ア―サ」、「タ―ハ」、「マ―ワ」、「A―I」、「J―S」、「T―Z」、「0―9」の項目を選ぶと、そのカナ、アルファベットまたは数字で始まる相手から7件表示されます。

複数のページがあるときは、画面右側にスクロールバーが表示されます。次のページに進むにはスクロールバー下側のページ送りボタン、前のページに戻るときはスクロールバー上側のページ送りボタンをクリックしてください。
また、スクロールバーをマウスでドラッグして上下に移動することで、ページを切り換えることもできます。

発信・着信履歴から相手を呼び出す

履歴メニューから相手を呼び出す場合です。

1 ランチャーメニューの（履歴）アイコンをクリックする。



履歴メニューが表示されます。

2 呼び出したい相手にマウスカーソルを合わせ、「ダイヤル」をクリックする。

選択した相手に発信が始まります。ディスプレイに「発信中です。」と表示されます。
相手とつながると「コミュニケーションを始めます。」と表示されます。
これで会議を始めることができます。

相手につながる前にダイヤルを中止するには

「キャンセル」をクリックしてください。

相手から会議に呼び出される

相手から呼び出しを受けたとき（着信）、自動着信に設定してあるか手動着信に設定してあるかによって、操作の方法が異なります。

自動着信

相手からの呼び出しを自動的に受け、会議を始めます。
いちいち操作をする手間が省けますが、自動的につながってしまうので、準備をしていないときでも、自分側の様子がすぐに相手側に伝わってしまいます。

手動着信

呼び出しを受けると、呼び出し音が鳴ります。回線をつなぐ操作をすることにより会議が始まります。
会議を始めてよいか確認をしてから相手とつなぐことができます。

ご注意

本機の電源が入っていないと、着信できません。

◆ 着信方法の設定については、「着信設定メニュー」の「自動着信」、「ビデオ会議ボタン着信」（28 ページ）をご覧ください。

◆ PC モード時の着信のしかたは、「PC 画面での発信と着信」（93 ページ）をご覧ください。

相手から呼び出される

自動着信のときは

相手から呼び出しを受けると、本機から呼び出し音が鳴り、ディスプレイに「着信中です。」と表示されます。
自動的に接続すると、相手の映像がディスプレイに映り、相手の音声も聞こえるようになります。この時点でこちらの映像と音声が相手に送られます。
ディスプレイには「コミュニケーションを始めます。」と表示されます。
これで会議を始めることができます。

ご注意

相手から呼び出されたときに本機をコンピューターディスプレイとして使用していたときは、相手側の映像が子画面に表示されます。

ヒント

会議中に音声やカメラを調節する方法は、61 ～ 64 ページをご覧ください。

手動着信のときは

相手から呼び出しを受けると、本機から呼び出し音が鳴り、ディスプレイに「着信があります。応答しますか？」というメッセージが表示されます。

「OK」をクリックしてください。
回線の接続が始まります。
接続すると、相手の映像がディスプレイに映り、相手の音声も聞こえるようになります。この時点でこちらの映像と音声が相手に送られます。
ディスプレイには「コミュニケーションを始めます。」と表示されます。
これで会議を始めることができます。
着信設定メニューの「ビデオ会議ボタン着信」が「オン」になっている場合は、本体の（ビデオ会議）ボタンを押すと、回線の接続を始めることができます。

ヒント

会議中に音声やカメラを調節する方法は、61 ～ 64 ページをご覧ください。

回線をつなぎたくないときは

「キャンセル」をクリックしてください。呼び出し音が止まります。
着信設定メニューの「ビデオ会議ボタン着信」が「オン」になっている場合は、本体の（PC）ボタンを押すと、キャンセルできます。

ご注意

本体の（PC）ボタンでキャンセルした場合は、画面が PC モードに切り替わります。元の画面に戻るには本体の（ビデオ会議）ボタンを押してください。

通話時間表示について

機器設定メニューの「経過時間表示」を「オン」に設定しておくと、通信中、ディスプレイに通話時間が表示されます。
通話時間を表示しないときは「オフ」に設定してください。

◆「経過時間表示」の設定については、「機器設定メニュー」（28 ページ）をご覧ください。

会議を終了する

1 ☎（切断）ボタンをクリックする。

ディスプレイに「切断しますか？」と表示されます。

2 「OK」をクリックする。

これで、回線が切れます。

ご注意

回線を切っても、本機の電源は入ったままです。

回線を切らないときは

「キャンセル」をクリックしてください。

接続していた相手をアドレス帳に登録するには

機器設定メニューの「会議終了後のリスト登録」が「オン」に設定されていれば、会議終了後に相手がアドレス帳に登録されていない場合、「この相手をアドレス帳リストに登録しますか？」のメッセージが表示されます。「OK」をクリックするとリスト編集メニューが表示されます。

ご注意

- 「会議終了後のリスト登録」が「オフ」になっていると、「この相手をアドレス帳リストに登録しますか？」のメッセージは表示されません。
- プライベートアドレス帳の“メモリースティック”が挿入されている場合は、プライベートアドレス帳に登録されます。
- メッセージ表示後「OK」をクリックせずにいると、約30秒後に自動的にメッセージが消え、リストへの登録はされません。

◆「会議終了後のリスト登録」の設定については、「機器設定メニュー」（28ページ）をご覧ください。

多地点会議に参加する

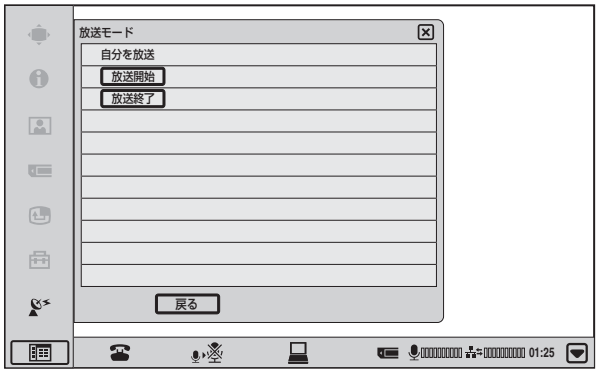
本機は、MCU（Multipoint Control Unit）の子端末として、多地点会議に参加できます。
発着信のしかたは、2地点会議の場合と同様です。詳しくは、「自分側から会議を始める」（52ページ）と「相手から会議に呼び出される」（59ページ）をご覧ください。

ご注意

本機には、MCU機能がないため、多地点会議の親機にはなれません。

放送モードについて

多地点会議に参加しているときは、自分の映像を多地点会議の全相手に放送できます。
自分の映像を放送するには、メニューバーの一番下に現れる「放送モード」をクリックし、放送モードメニューで「放送開始」をクリックします。
放送中は画面右下にインジケーターが表示されます。
放送を終了するときは、放送モードメニューで「放送終了」をクリックしてください。



ご注意

放送中に放送モードメニューを閉じたいときは、「戻る」または☒ボタンをクリックしてください。放送を終了したいときは、再度メニューバーの一番下の「放送モード」をクリックして放送モードメニューを表示させ、「放送終了」をクリックします。

画質・音声を調節する

画質を調節する

詳しい調節のしかたは、「ディスプレイの画質を調節する」（93 ページ）をご覧ください。

音量を調節する

会議中に本機から聞こえる音量を調節することができます。
本体の音量＋ボタンを押すと音量が大きくなり、音量－ボタンを押すと小さくなります。
ビデオ会議、コンピューター映像のそれぞれについて、音量調整を行い、その内容を保持することができます。

ご注意

音量を大きくしすぎるとハウリングが起こることがあります。その場合は音量を小さくしてください。

音声の送信を一時的にカットする－マイクオフ機能

会議中にこちらから相手に送る音声を一時的にカットすることができます。
本体の（マイクオフ）ボタンを押すか、ディスプレイの（オフ）ボタンをクリックすると、相手に送られる音声がカットされ、相手に聞こえなくなります。

音声の送信を再開するときは

本体の（マイクオフ）ボタンを再度押すか、ディスプレイの（オン）ボタンをクリックします。

着信時の音声の送信をカットする－着信時マイクオフ

相手から呼び出しを受けたとき、こちら側の音声が相手に送信されないように設定することができます。
着信設定メニューの「着信時マイク」を「オフ」に設定しておくと、着信時に映像のみが相手に送信されます。

◆「着信時マイク」の設定については、「着信設定メニュー」（28 ページ）をご覧ください。

相手に音声を送信するには

本体の（マイクオフ）ボタンを押すか、ディスプレイの（オン）ボタンをクリックします。

送信する映像と音声の時間差を調整する－リップシンク機能

会議を行う際に、音だけが早く届き、その後で映像が届くことがあります。その結果、映像の口の動きと音声が一致せず、対話がスムーズに運ばなくなることがあります。
リップシンク機能を使うと、相手に届く映像と音声がほぼ一致するように自動的に調整されます。ただし、映像に合わせて音声も遅れて届くようになることがあります。
通信モード設定メニューの「リップシンク」を「オン」に設定しておくと、リップシンク機能が動作します。

◆「リップシンク」の設定については、「通信モード設定メニュー」（33 ページ）をご覧ください。

ご注意

相手から送られてくる映像と音声にリップシンク機能による調整が必要な場合は、相手側に、リップシンク機能を使うよう依頼してください。

エコーを軽減する－エコーキャンセラー

本機には、音声の双方向通話時に発生するエコーを消すエコーキャンセラー機能があります。

カメラを調節する

相手に送っている自分側のカメラの映像を希望の状態に調節することができます。
また、通信中に相手側のカメラを操作して、送られてくる映像を調節することもできます。

ズームとアングルを調節する

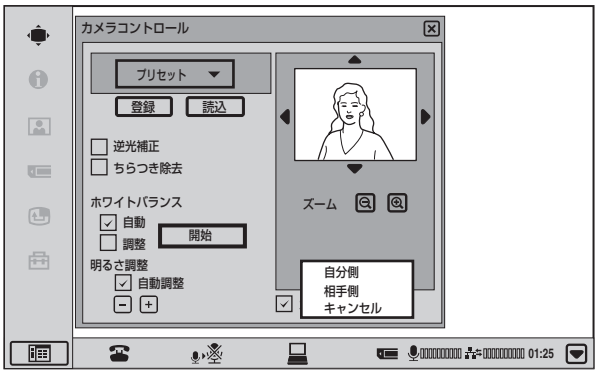
ズームとアングルの調節は、カメラコントロールメニュー、通信中画面のカメラ画像上、または非通信中のランチャー画面で行います。

カメラコントロールメニューで調節するには

相手側のカメラは、通信中のみ調節できます。
相手側のカメラの調節画面には、フォーカス調整用ボタンが表示され、フォーカスを調節できる場合があります。

1 メニュー選択画面で、「カメラコントロール」をクリックする。

カメラコントロールメニューが表示されます。

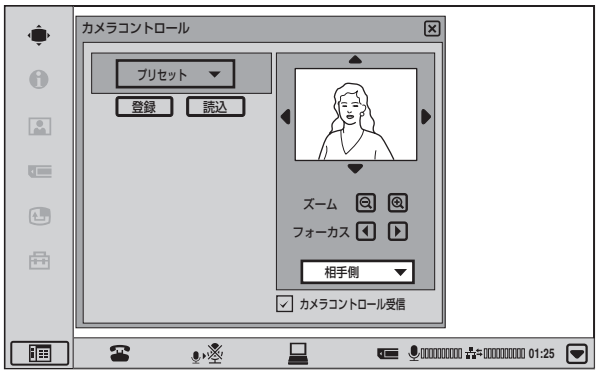


2 カメラコントロールで操作したいカメラ（「自分側」または「相手側」）を選択する。

3 画像の下にある ⊖ ⊕ をクリックして、ズームを調節する。

4 画像の周りにある ▲/▼/◀/▶ をクリックして、カメラアングルを調節する。

5 相手側のカメラを選択した場合は、◀/▶ をクリックしてフォーカスを調節する。



6 ⊠ またはメニューバーをクリックする。

カメラコントロールメニューが閉じます。

ご注意

- 相手側のカメラを操作するときは、自分側の通信モードメニューの「遠隔カメラ制御」を「オン」に設定し、かつ相手側がカメラコントロールコマンドを受信できる状態になっている必要があります。相手側の設定方法について詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- 通信中のカメラ遠隔操作方式が H.281 でない場合、相手側のカメラを操作することはできません。相手側のカメラを操作できない場合は、相手のカメラの遠隔操作方式をご確認ください。
- 自分側と相手側から同時に同じカメラを操作すると、正常に動作しない場合があります。

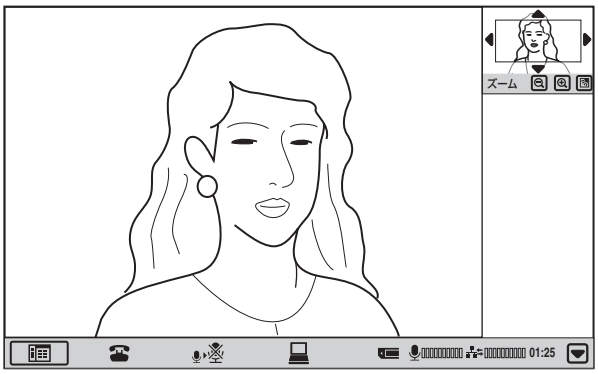
通信中画面で調節するには

1 相手または自分のカメラ画像を右クリックする。

ズーム調節用のボタンとアングル調節用のスクロールバーが表示されます。

ご注意

自分側のカメラの場合は、（逆光補正）ボタンが表示されます。クリックするたびに、逆光補正機能のオン、オフが切り替わります。



2 画像の下にある ⊖ ⊕ をクリックして、ズームを調節する。

3 画像の周りにある ▲/▼/◀/▶ をクリックして、カメラアングルを調節する。

画像の上で右クリックすると、ズーム調節用のボタンとアングル調節用のスクロールバーが消え、ランチャー画面に戻ります。

非通信中にランチャーメニューで調節するには

通信中の調節時と同様に、カメラ画像を右クリックすると、ズーム調節用のボタンとアングル調節用のスクロールバーが表示されます。調節のしかたについて詳しくは、上記の「通信中にディスプレイで調節するには」をご覧ください。

ご注意

レンズカバーが閉まっている場合は、カメラの調節はできません。

カメラコントロール受信について

相手からの自分側カメラのコントロールを不許可にする場合は、「カメラコントロール受信」のチェックをはずします。

ご注意

相手側のカメラを遠隔調整するかどうかは通信モード設定 - 発信の遠隔カメラ制御で選択します。

画像の明るさを調節する

明るさの調節はカメラコントロールメニューで行います。
通常、画像の明るさ（ブライトネス）は、自動的に調整されますが、手動で調整することもできます。
通常は自動調整にしておいてください。最適なブライトネスが得られます。

ご注意

調節できるのは、自分側カメラだけです。

画像の明るさを調節するには

画面の明るさを手動で調整するには、「明るさ調整」の「自動調整」のチェックをはずし、⊕または⊖ボタンをクリックして、明るさを調節します。
⊕で明るく、⊖で暗くなります。

逆光補正機能を使用するには

背景が明るすぎて、被写体が暗めになるときは、逆光補正機能を使用してください。
「逆光補正」にチェックを入れると、逆光補正機能が動作します。
自分側カメラの場合は、ランチャーメニューまたは通信中画面のカメラ調節時に ☒ をクリックしても、逆光補正機能のオン、オフが切り替わります。

ご注意

「明るさ調整」の「自動調整」のチェックをはずしている場合は逆光補正機能は動作しません。

ちらつきを除去するには

本機と同じ電源系統に蛍光灯が接続されていると、カメラの映像にちらつきが起きることがあります。
ちらつきを除去するには、「ちらつき除去」にチェックを入れてください。

ホワイトバランスを固定するには

初期設定では、ホワイトバランスは自動調整されます。
ホワイトバランスを手動で調整したいときは、「調整」を選択してください。白い紙などをカメラの前にかざしながら「開始」をクリックすると、周囲の環境に合わせて調整を行い、ホワイトバランスを固定します。ホワイトバランスの固定は、「開始」をクリックするたびに何度でも行われます。

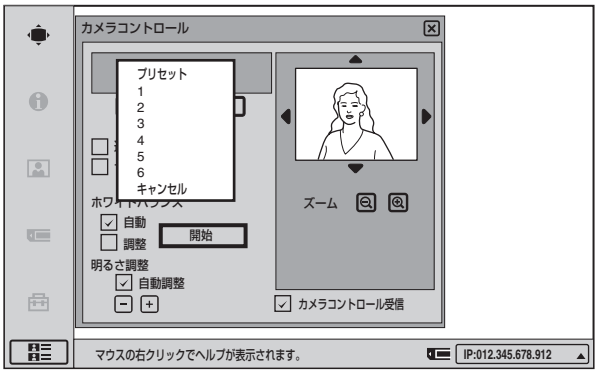
固定を解除するには

「ホワイトバランス」で「自動」を選択してください。

ズームとアングルの設定をプリセットする

カメラコントロールメニューでズームとアングルの設定を6つまでプリセット登録しておくことができます。一度プリセット登録しておくと、その設定を簡単に呼び出してカメラを移動できます。

1 カメラコントロールメニューの「プリセット」で、設定をプリセットしたい番号（1 ～ 6）をクリックする。



ご注意

通信中の場合は、相手側のカメラを選べます。

◆ カメラコントロールメニューの表示のしかた、カメラの選びかたは、「ズームとアングルを調節する」（62 ページ）をご覧ください。

2 ズームとアングルを調節する。

◆ ズームとアングルの調節のしかたは、「ズームとアングルを調節する」（62 ページ）をご覧ください。

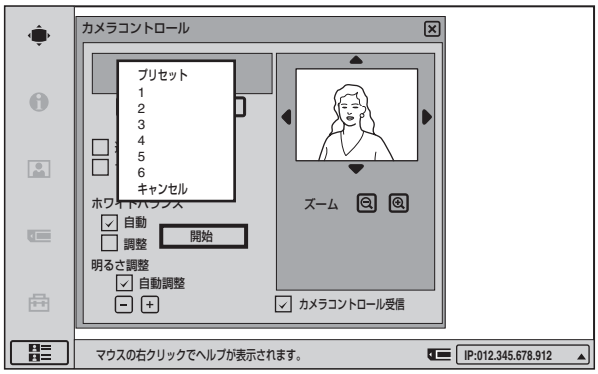
3 「登録」をクリックする。

選択した番号に設定値が登録されます。

プリセットしたズームとアングルの設定を呼び出す

カメラコントロールメニューでプリセットしたズームとアングルの設定を呼び出してカメラを移動できます。

1 カメラコントロールメニューのプリセット番号のリストから、設定を呼び出したい番号（1 ～ 6）をクリックする。



ご注意

通信中の場合は、相手側のカメラを選べます。

◆ カメラコントロールメニューの表示のしかた、カメラの選びかたは、「ズームとアングルを調節する」（62 ページ）をご覧ください。

2 「読込」をクリックする。

選んだプリセット番号の設定値が呼び出され、カメラが移動します。

設定値の保存について

本機は、カメラのズームとアングル、明るさ（ブライトネス）、逆行補正機能のオン / オフ、ちらつき除去機能のオン / オフを不揮発性メモリーに保存しています。
このため、電源を切っても、次に電源を入れたとき、前回の設定値でカメラが調節されます。

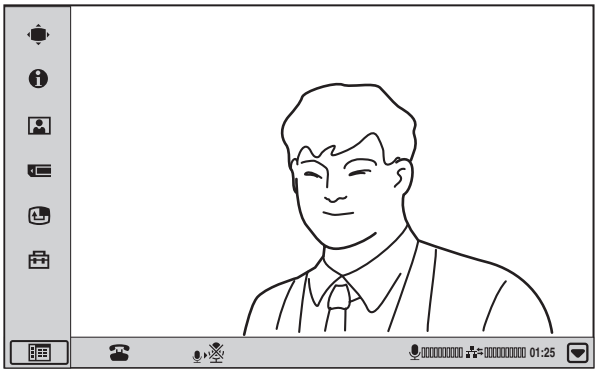
画面レイアウトを設定する

画面レイアウト設定メニューでは、通信中の画面のレイアウトを選択できます。

画面レイアウト設定メニューを表示する

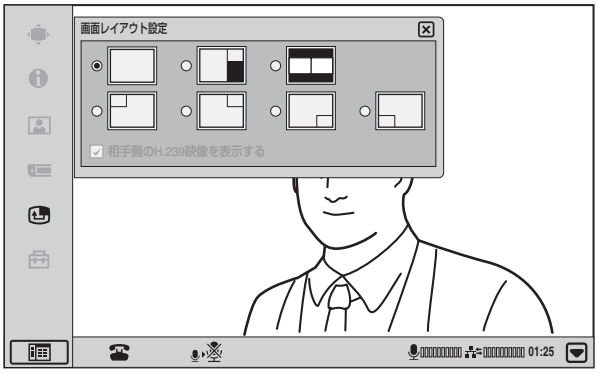
1 会議中にメニューバー表示ボタンをクリックする。

メニューバーが表示されます。

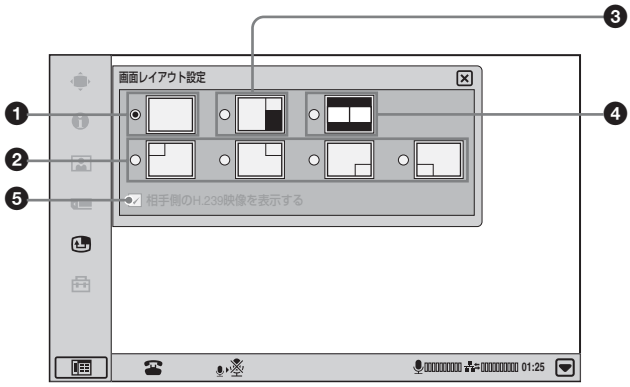


2 メニューバーから（画面レイアウト設定）アイコンをクリックする。

画面レイアウト設定メニューが表示されます。
希望のレイアウトを選択すると、画面が切り替わります。



画面表示を切り換える



❶ 全画面表示

相手画面のみが全画面で表示されます。
静止画の送受信時、プレゼンテーションデータの受信時、（PC）ボタンを押して PC 画面を表示したときは、ピクチャーアンドピクチャー表示に切り替わり、それらの画像が全画面に、相手画面と自画面がそれぞれ子画面に表示されます。
なお、「相手側の H.239 映像を表示する」のチェックをはずしている場合は、受信したプレゼンテーションデータは本機の画面には表示されません。

❷ ピクチャーインピクチャー表示

相手画面が全画面に、自画面が子画面に表示されます。
静止画の送受信時、プレゼンテーションデータの受信時、（PC）ボタンを押して PC 画面を表示したときは、それらの画像が全画面に、相手画面が子画面に表示されます。
子画面の表示位置は、左上、右上、右下、左下の 4 箇所が選べます。

なお、「相手側の H.239 映像を表示する」のチェックをはずしている場合は、受信したプレゼンテーションデータは本機の画面には表示されません。

❸ ピクチャーアンドピクチャー表示

相手画面が全画面で左側に、自画面が子画面で右側に表示されます。
静止画の送受信時、プレゼンテーションデータの受信時、(PC) ボタンを押して PC 画面を表示したときは、それらの画像が全画面に、相手画面と自画面がそれぞれ子画面に表示されます。
なお、「相手側の H.239 映像を表示する」のチェックをはずしている場合は、受信したプレゼンテーションデータは本機の画面には表示されません。

❹ サイドバイサイド表示

相手画面が左側に、自画面が右側に、同じ大きさで表示されます。
静止画の送受信時、プレゼンテーションデータの受信時、(PC) ボタンを押して PC 画面を表示したときは、それらの画像が左画面に、相手画面が右画面に表示されます。
なお、「相手側の H.239 映像を表示する」のチェックをはずしている場合は、受信したプレゼンテーションデータは本機の画面には表示されません。

❺ 相手側の H.239 映像を表示する

本機にデータソリューションモジュール PCSA-DSM1 を取り付けている場合に選択できます。
チェックをはずすと、受信したプレゼンテーションデータはデータソリューションモジュールの RGB OUT にのみ出力されるので、本機の画面には相手画面を全画面（サイドバイサイド表示の場合は左側）に表示できます。

いろいろな機器を使った会議　第4章

この章では、ビデオコミュニケーションシステム PCS-TL30 に含まれている構成機器以外に別売りの機器をプラスしてできるいろいろな会議のしかたを説明します。

◆ 別売りのデータソリューションモジュール PCSA-DSM1 を使ったデータ会議を行うには、第 5 章をご覧ください。

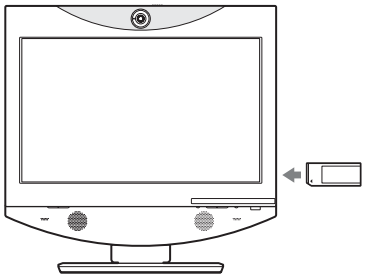
“メモリースティック”の静止画を会議に使う

別売りの“メモリースティック”に保存されている静止画をディスプレイに表示したり、相手に送信することができます。

“メモリースティック”の静止画を表示する

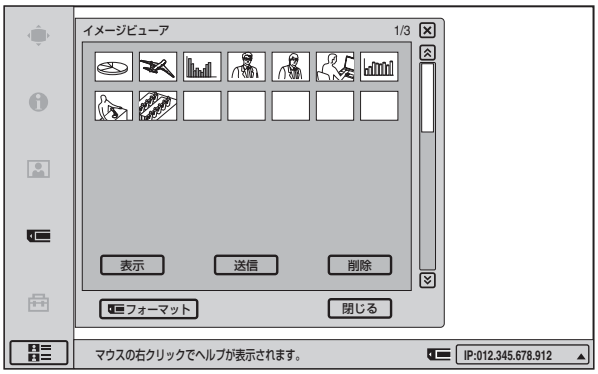
1 静止画が保存されている“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込む。

“メモリースティック”の表側を手前に、上面に書いてある矢印の向きに差し込んでください。



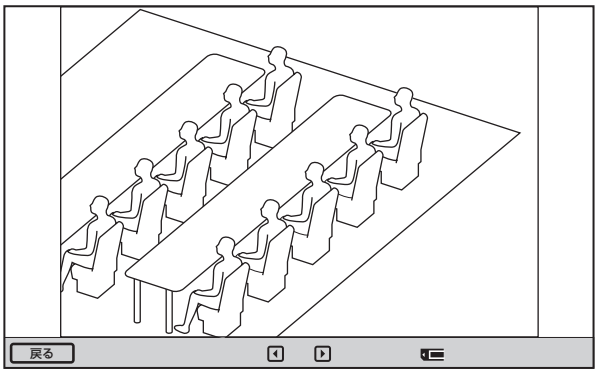
2 イメージビューアメニューを表示する。

メニューバー表示ボタンをクリックしてメニュー選択画面を表示し、「イメージビューア」をクリックします。



3 表示したい静止画を選び、「表示」をクリックする。

メニューが消え、選んだ静止画が表示されます。



別の静止画を表示するには

静止画が表示されているときに、◀ をクリックすると前の静止画が、▶ をクリックすると次の静止画が表示されます。

静止画を削除するには

イメージビューアメニューで、削除したい映像を選んで「削除」をクリックします。
「ファイルを削除しますか？」というメッセージが表示されるので「OK」をクリックすると、静止画が“メモリースティック”から削除されます。

“メモリースティック”を取り出すには

“メモリースティック”を一度押し込んで少し飛び出させてから取り出してください。

“メモリースティック”の静止画を送信する

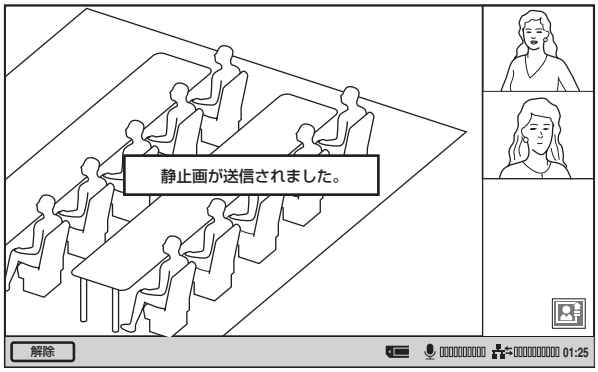
通信中、“メモリースティック”に保存されている静止画を相手に送信することができます。

1 “メモリースティック”をメモリースティックスロットに入れ、イメージビューアメニューを表示する。

◆“メモリースティック”の入れかたとイメージビューアメニューの表示のしかたは、「“メモリースティック”の静止画を表示する」（67 ページ）をご覧ください。

2 送信したい静止画を選び、「送信」をクリックする。

選んだ静止画が表示され、静止画が送信されます。送信が終わると「静止画が送信されました。」というメッセージが表示されます。



静止画表示を解除するには

「解除」をクリックしてください。

“メモリースティック”について

“メモリースティック”とは？

“メモリースティック”は、小さくて軽く、しかもフロッピーディスクより容量が大きい新世代の IC 記録メディアです。“メモリースティック”対応機器間でデータをやりとりするのにお使いいただけるだけでなく、着脱可能な外部記録メディアの１つとしてデータの保存にもお使いいただけます。
“メモリースティック”には、標準サイズのものとその小型サイズの“メモリースティックデュオ”があります。“メモリースティックデュオ”にメモリースティック デュオ アダプターを装着すると、標準サイズの“メモリースティック”と同じサイズになり、標準サイズの“メモリースティック”対応機器でもお使いいただけます。

“メモリースティック”の種類

“メモリースティック”には、用途に応じて以下の５種類があります。

- “メモリースティック PRO”
  “メモリースティック PRO”対応機器の高速データ転送をお使いいただける“メモリースティック”です。著作権保護技術（マジックゲート）を搭載しています。
- “メモリースティック -R”
  いったん記録されたデータが上書きされない“メモリースティック”です。“メモリースティック -R”対応機器でのみデータを記録できます。著作権保護技術（マジックゲート）が必要なデータは記録できません。
- “メモリースティック”
  著作権保護技術（マジックゲート）が必要なデータ以外の、あらゆるデータを記録できる“メモリースティック”です。
- “マジックゲートメモリースティック”
  著作権保護技術（マジックゲート）を搭載した“メモリースティック”です。
- “メモリースティック -ROM”
  あらかじめデータが記録されている、読み出し専用の“メモリースティック”です。データの記録や消去はできません。
- “メモリースティック”（メモリーセレクト機能付き）
  内部に複数のメモリー（128 MB）を搭載している“メモリースティック”です。
  “メモリースティック”本体裏面のメモリーセレクトスイッチにより、用途に応じてご使用になるメモリーを選択できます。各メモリーを同時に、また連続でご使用することはできません。

使用可能なメモリースティック

本機では、“メモリースティック PRO”“メモリースティック”および“マジックゲート メモリースティック”がご使用いただけます。ただし、本機はマジックゲート規格に対応していないため、本機で表示するデータはマジックゲートによる著作権の保護の対象にはなりません。

“メモリースティック デュオ”について

- “メモリースティック　デュオ”を本機でお使いの場合は、必ず“メモリースティックデュオ”をメモリースティック デュオ アダプターに入れてからお使いください。
- “メモリースティック デュオ ”をメモリースティック デュオ アダプターに入れるときは、正しい挿入方向をご確認ください。
- “メモリースティック デュオ ”をメモリースティック デュオ アダプターに装着して本機でご使用になるときは、正しい挿入方向をご確認の上ご使用ください。間違ったご使用は機器の破損の原因となりますのでご注意ください。
- メモリースティック デュオ アダプターに“メモリースティック デュオ”が装着されていない状態で、“メモリースティック”対応機器に挿入しないでください。このような使いかたをすると、機器に不具合が生じることがあります。

マジックゲートとは？

マジックゲートは、暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。

本機で表示できるファイル形式

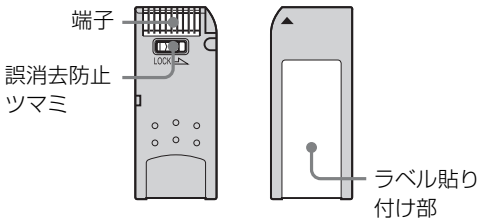
以下の形式で“メモリースティック”に保存されているファイルのみ表示できます。

- JPEG（Joint Photographic Experts Group）方式で圧縮した画像ファイル（DCF 準拠）。ファイル拡張子は「.jpg」です。
- 画像ファイルは最大 2048 × 1536（画素）まで表示できます。

ご注意

プログレッシブ JPEG 画像はサポートしていません。

“メモリースティック”について



- 誤消去防止ツマミを「LOCK」にすると記録や編集、消去ができなくなります。
- “メモリースティック デュオ”の誤消去防止スイッチを動かすときは、先の細いもので動かしてください。
- 以下の場合、データが破壊されることがあります。
  - 読み込み中、書き込み中に“メモリースティック”を取り出したり、本機の電源を切った場合
  - 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合

ご注意

- ラベル貼り付け部には、専用ラベル以外は貼らないでください。
- ラベルを貼るときは所定のラベル貼り付け部に貼ってください。はみ出さないようにご注意ください。
- “メモリースティック デュオ”のメモエリアに書き込むときは、あまり強い圧力をかけないでください。
- 持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
- 端子部には手や金属などで触れないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。
- 以下のような場所でのご使用や保管は避けてください。
  - 高温になった車の中や炎天下など気温の高い場所
  - 直射日光のあたる場所
  - 湿気の多い場所や腐食性のある場所

- Memory Stick Duo（“メモリースティック デュオ”）および MEMORY STICK DUO は、ソニー株式会社の商標です。
- Memory Stick（“メモリースティック”）および MEMORY STICK は、ソニー株式会社の商標です。
- MagicGate Memory Stick（“マジックゲート メモリースティック”）およびMAGICGATE は、ソニー株式会社の商標です。
- Memory Stick-ROM（“メモリースティック-ROM”）およびMEMORY STICK-ROM は、ソニー株式会社の商標です。
- Memory Stick PRO（“メモリースティック PRO”）およびMEMORY STICK PRO は、ソニー株式会社の商標です。
- Memory Stick-R（“メモリースティック-R”）および MEMORY STICK-R は、ソニー株式会社の商標です。

“メモリースティック”をフォーマットする

ご注意

- コンピューターでフォーマットした“メモリースティック”は、本機での動作を保証いたしません。必ず、本機でフォーマットした“メモリースティック”をお使いください。
- “メモリースティック”をフォーマットすると、“メモリースティック”に保存されている画像やアドレス帳などのデータはすべて消去されます。
- “メモリースティック”の種類によって、挿入してから、使用できるようになるまでに時間がかかることがあります。

“メモリースティック”をフォーマットするには

イメージビューアメニューの「メモリースティックフォーマット」をクリックすると「メモリースティックをフォーマットしますか？」というメッセージが表示されます。ここで「OK」をクリックすると、“メモリースティック”がフォーマットされます。

カメラ映像を静止画にして送信する

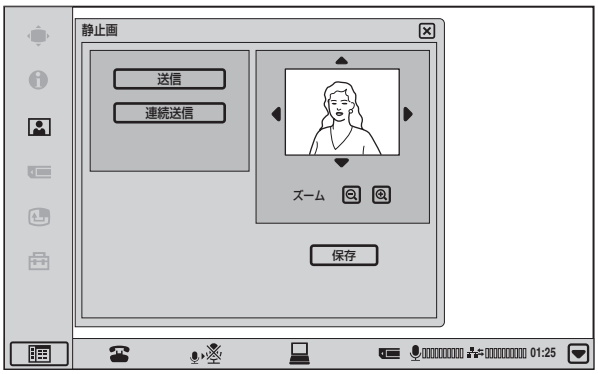
カメラで撮影した動画を静止画として、送信することができます。
文字の多い画像などは、静止画として送ったほうが、画像がはっきりし、文字などが読みやすくなります。

静止画メニューから送信する

通信中、自分側のカメラで撮影した動画を静止画にして相手に送信することができます。静止画は1枚だけ送信したり、連続して送信することもできます。

1 静止画メニューを表示する。

メニューバー表示ボタンをクリックしてメニュー選択画面を表示し、「静止画」をクリックします。

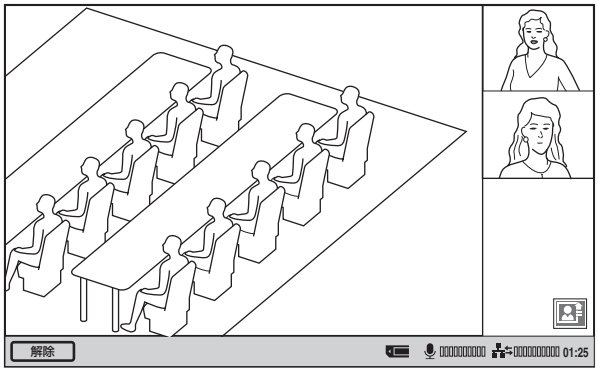


2 カメラのズームとアングルを調節する。

3 画像の下にある 🔍 🔍 をクリックして、ズームを調節する。

4 画像の周りにある ▲/▼/◀/▶ をクリックして、カメラアングルを調節する。

5 「送信」または「連続送信」をクリックする。



ディスプレイの動画が静止画になり、相手に送信されます。
「送信」を選んだときは、静止画が1枚だけ送信されます。送信が終わると「静止画が送信されました。」というメッセージが表示されます。
「連続送信」を選んだときは、静止画が次々と送信されます。静止画が送信される間隔は、通信速度と画像によって変わります。

連続送信を中止するには

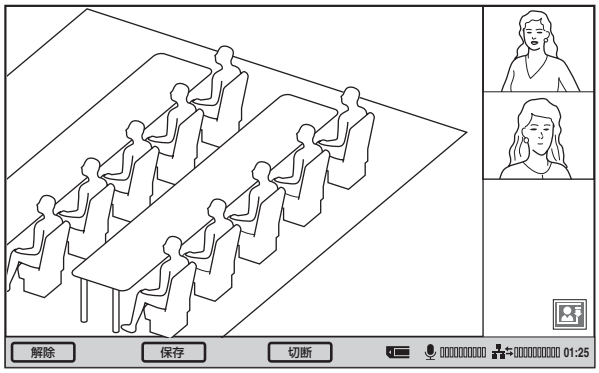
「解除」をクリックしてください。

静止画表示を解除するには

「解除」をクリックしてください。

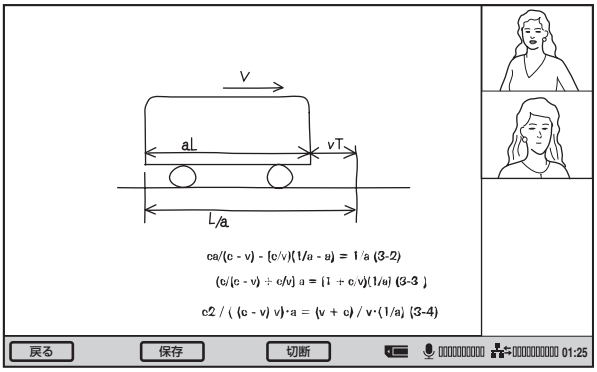
静止画を受信する

相手から送信された静止画を受信すると、優先画面として表示されます。
静止画を“メモリースティック”に保存するには「保存」をクリック、通話中画面に戻るには「解除」をクリックします。



ホワイトボードの画像を受信する

会議中の相手がホワイトボードを使用している場合に、相手から送信されたホワイトボード画像を受信すると、優先画面に表示されます。
受信したホワイトボード画像を“メモリースティック”に保存するには「保存」をクリックします。
「戻る」をクリックすると、通常の通話中画面に戻ります。
再度ホワイトボード画像を表示させるには、（ホワイトボード）アイコンをクリックしてください。
（ホワイトボード）アイコンは、ホワイトボード画像を受信中のみ、通話中画面右下に表示されます。



会議中の静止画を保存する

あらかじめ“メモリースティック”をメモリースティックスロットに入れておけば、会議中の相手から送信された映像や自分側のカメラ映像を静止画として“メモリースティック”に保存することができます。
保存した画像は、ワンタッチダイヤルボタンやアドレス帳に登録することができます。

自動的に相手側の映像を保存する－自動静止画キャプチャー機能

本機は、通信開始から5秒おきに10回、自動的に相手側の画像をキャプチャーして本機内のメモリーに保存します。
本機のメモリーに保存された静止画は、次回の通信開始時または電源オフ時まで保存されます。
この機能は“メモリースティック”が挿入されていなくても動作します。
保存された画像は、ワンタッチダイヤルやアドレス帳のサムネイル画像として使うことができます。

ご注意

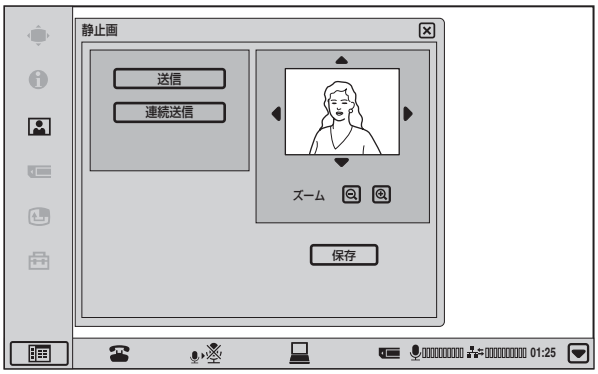
発信後、接続までに時間がかかった場合、はじめの数枚が黒い画像になることがありますが、故障ではありません。

静止画メニューから保存する

1 静止画メニューを表示する。

メニューバー表示ボタンをクリックしてメニュー選択画面を表示し、「静止画」をクリックします。

2 「保存」をクリックする。



ディスプレイに表示された映像が静止画として“メモリースティック”に保存されます。

ご注意

- データの書き込みが終了するまでは、“メモリースティック”を抜かないでください。“メモリースティック”が壊れたり、本機が誤動作します。
- 静止画ファイルは、すべて新規ファイルとして保存されます。上書きはされません。

“メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていると

「メモリースティックが書き込み禁止です。」というメッセージが表示され、静止画を保存することはできません。

“メモリースティック”の容量がいっぱいのときは

「メモリースティックの空き領域が不足しています。」というメッセージが表示され、静止画を保存することはできません。

“メモリースティック”に保存される画像の形式

画像のファイル名

本機で保存する画像は、“メモリースティック”のディレクトリー「¥DCIM¥100MSDCF」の下に「DSCXXXXX.JPG」のファイル名で保存されます。

画像の圧縮形式

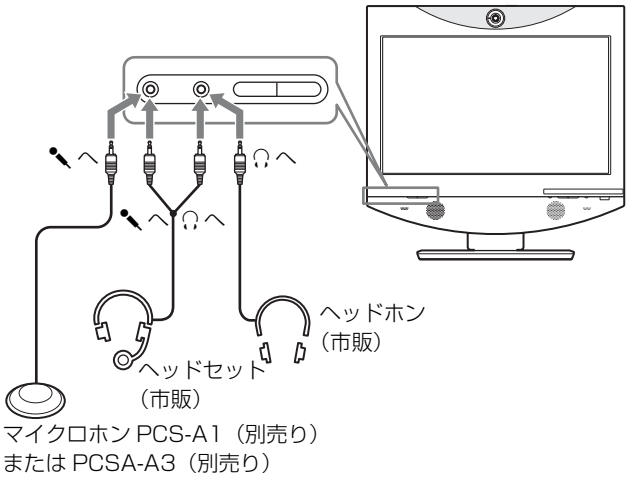
本機は、撮影した画像データを JPEG（Joint Photographic Experts Group）方式で圧縮・記録しています。ファイル拡張子は「.jpg」です。

ご注意

- プログレッシブ JPEG には対応していません。
- すでに「¥DCIM¥101MSDCF」など 100 より大きい数字のフォルダが存在する場合には、数字の大きなフォルダに保存されます。

外部マイクやヘッドホンを使う

本機に内蔵されているマイクは、パーソナルな使用を想定しています。別売りのマイクロホン PCS-A1 や PCSA-A3 の接続も可能です。
また、本機にはヘッドホンやヘッドセットの接続も可能です。



ご注意

- 外部マイクを接続すると、内蔵マイクは使用できなくなります。
- ヘッドホンを接続すると、内蔵スピーカーは切れます。

マイクロホン PCS-A1、PCSA-A3 を設置するときのご注意

- マイクは、本機から 1 m 以上離して設置してください。
- 参加者とマイクの間隔が 50 cm 程度になるように設置してください。
- できるだけ静かで、音が反響しにくい場所に設置してください。
- ノイズの発生源となるような機器の近くには設置しないでください。
- 紙などでマイクを覆ったり、動かしたりしないでください。ノイズとエコーが相手側へ一時的に大きく伝わることがあります。

トーン信号で相手のシステムを制御する－ DTMF の送信

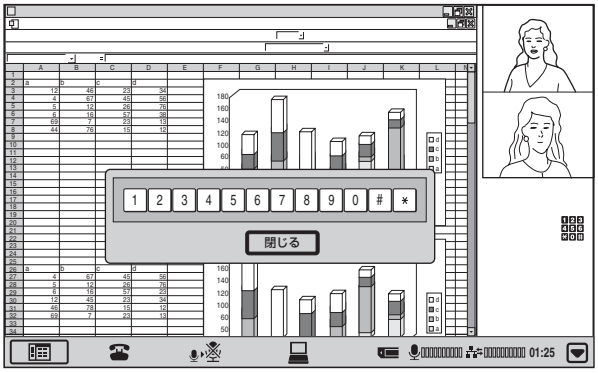
ダイヤル発信する際の各数字（0 ～ 9、#、*）に割り当てられているトーン信号（二重トーン多重周波数）を送信できます。それにより、相手側に接続されているシステムを遠隔制御できる場合があります。

1 通信中に本体の（メニュー）ボタンを 3 秒間押し続けます。

ディスプレイに DTMF 用ソフトキーボードが表示されます。

ヒント

管理者用設定メニュー 10 ページ目の「DTMF ボタン表示」の設定が「オン」の場合は、通信中画面右側に DTMF ボタンが表示されます。DTMF ボタンをクリックして、DTMF 用ソフトキーボードを表示させることもできます。



2 送信したい数字ボタン（0 ～ 9、#、*）をクリックする。

数字ボタンをクリックすると、トーン信号が相手に送られます。

3 終了するには、「閉じる」をクリックする。

ディスプレイの DTMF 用ソフトキーボードが消えます。

外部から本機にアクセスする

本機は下記のような外部アクセスが可能です。いずれの場合も、詳しい内容については、お買い上げ店にご相談ください。

Web モニター機能を使用する

Web ブラウザから、本機の映像をモニターすることができます。
本機の映像をモニターするには、管理者用設定メニューの「Web モニター」を「オン」に設定してください。（36 ページ）

◆ アクセス権やパスワードについては、「管理者用設定メニュー」（35 ページ）をご覧ください。

Web ブラウザを使用する

Web ブラウザから本機の IP アドレスにアクセスして、本機を操作したり、本機の設定を変更することができます。
本機へのアクセスを可能にするには、管理者用設定メニューの「Web アクセス」を「オン」に設定してください。（36 ページ）

◆ アクセス権やパスワードについては、「管理者用設定メニュー」（35 ページ）をご覧ください。

Telnet を使用する

Telnet により、本機の IP アドレスにアクセスして、本機を操作したり、本機の設定を変更することができます。
本機へのアクセスを可能にするには、管理者用設定メニューの「Web アクセス」を「オン」に設定してください。（36 ページ）

◆ アクセス権やパスワードについては、「管理者用設定メニュー」（35 ページ）をご覧ください。

データソリューションモジュールを使ったデータ会議

第5章

この章では、別売りのデータソリューションモジュール PCSA-DSM1 を使い、コンピューターなどの画像を会議に使用する方法を説明します。
データソリューションモジュール PCSA-DSM1 は、本機に取り付けて使用する内蔵型の機器で、本機に接続したコンピューターの画像を会議の相手に伝送できます。また、データソリューションモジュールにプロジェクターを接続して、相手の送ってくる高解像度のコンピューター画像を高速に表示することができます。

受信側は、データソリューションモジュールがなくても、また PCS-1 や PCS-11、PCS-TL33、PCS-TL50、PCS-G50、PCS-G70、PCS-1600 など他のビデオ会議装置でも、送られてきたコンピューター画像を見ることができます。ただし、端末の構成により、受信画像品質は異なります。受信側もデータソリューションモジュールまたはデータソリューションボックスを使用すると、本機だけのときに比べて 1 秒あたりのコマ数をより多く表示できるので、動きのある高解像度のコンピューター画像を見ることが可能です。PC モードで通信中の場合に送られてきたコンピューター画像を表示させるには、本体の（ビデオ会議）ボタンを押して、ビデオ会議モードに切り換えます。

◆ 端末構成による画像品質は「データソリューションモジュールの画像品質」（79 ページ）をご覧ください。

◆ RGB 入出力信号の仕様について詳しくは、「仕様」の「RGB 入出力仕様」（120 ページ）をご覧ください。

ご注意

受信した画像の表示位置がずれている場合には、1 度 PC モードに切り換えてからビデオ会議モードに戻すと解消されます。

データソリューションモジュール使用時の IP アドレスの制限について

データソリューションモジュール PCSA-DSM1 使用時に本機で使用できる IP アドレスには制限があります。また、データソリューションモジュールと本機間での通信用に使用しているネットワークは、別のセグメントに設定する必要があります。
したがって、本機で使用できないアドレスは、データソリューションモジュールの通信用アドレスと使用するネットワークマスクの AND を取った値となります。
（本機で使用できないアドレス）＝（DSM 通信用アドレス）&（ネットワークマスク）
ここで DSM 通信用アドレスは、「192.254.1.2」の固定アドレスです。たとえばネットワークマスクが「255.255.0.0」だとすると、このときに使用できないアドレスは、

192.254.m.n（0 ≦ m ≦ 255, 0 ≦ n ≦ 255）

となります。

データソリューションモジュール使用時のカメラ画像について

データソリューションモジュールを使って送信中は、カメラ画像のコマ数が少なくなり、画質が悪くなります。

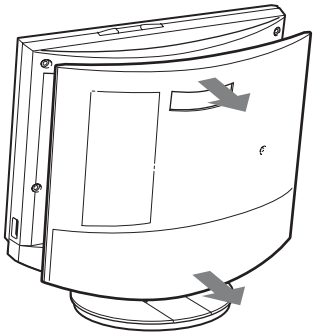
データソリューションモジュールの取り付け

ご注意

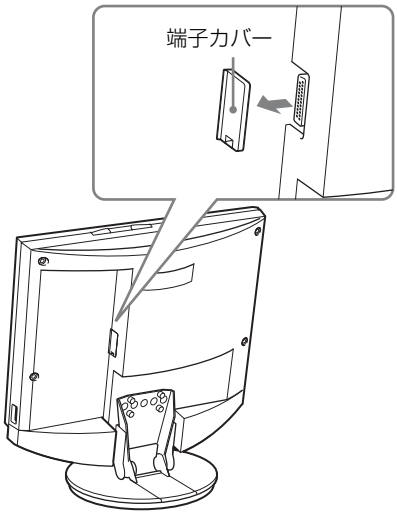
- 取り付けるときは、必ず各機器の電源を切ってから行ってください。
- データソリューションモジュールを初めて本機に接続して使用するとき、本機が自動的にデータソリューションモジュールのソフトウェアをバージョンアップすることがあります。画面にバージョンアップ中のメッセージが表示されている間は故障の原因となりますので、絶対に電源を切らないでください。

1 リアカバーをはずす。

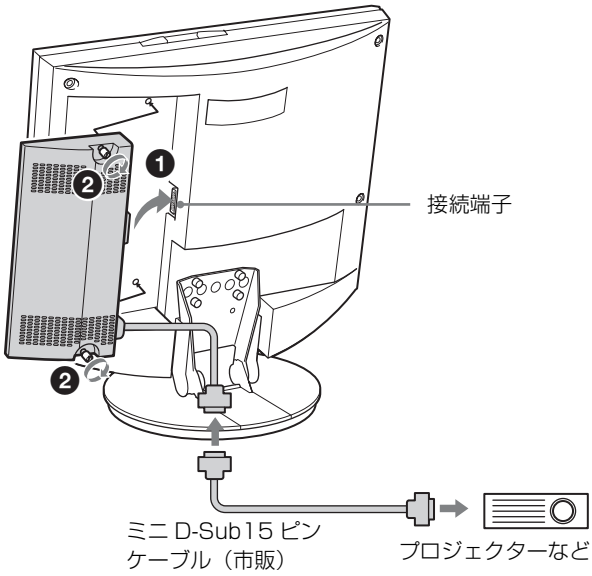
手前に引っぱります。



2 DSM 接続端子の端子カバーをはずす。

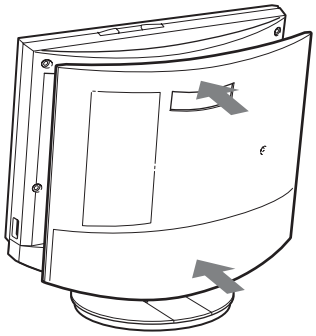


3 データソリューションモジュールの本体接続用端子を本機の DSM 接続端子に接続し、本体固定用ネジを締める。



4 PCS-TL30 のリアカバーを元通りに取り付ける。

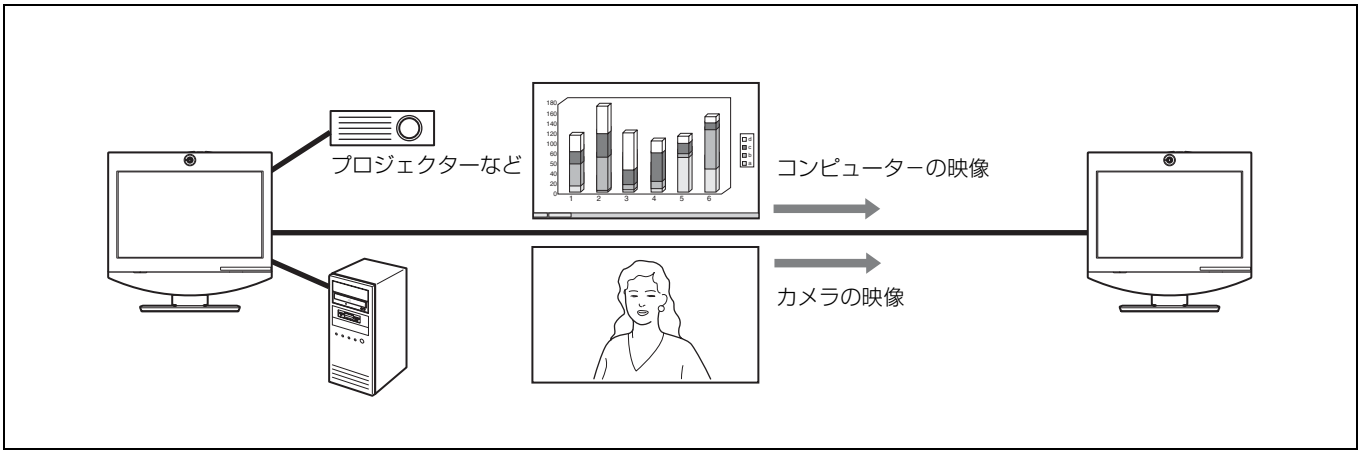
4 か所の突起を合わせ、押し付けます。



データソリューションモジュールを使用した接続例

ご注意

- 接続するときは、必ず各機器の電源を切ってから行ってください。
- 本機、データソリューションモジュールの故障の原因となりますので、電源を入れたままインターフェースケーブルを抜き差ししないでください。



接続例について

データソリューションモジュールの RGB OUT 端子にプロジェクターなどを接続すると、以下のことが可能になります。

– 受信したコンピューター画像を、もっとも良い画像品質で出力できます。
– 自分側に接続しているコンピューターの映像を出力できます。

接続機器の映像を会議に使う

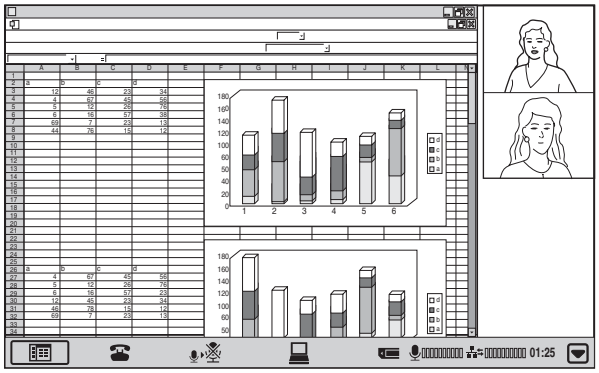
会議中の操作

コンピューターの画像を送信するには

はじめに、（PC）ボタンを押して、入力された PC 画像が画面に表示されることと、データソリューションモジュールの RGB IN 信号仕様に対応していることを確認してください。
なお、WXGA は画面に表示できますが、送信はできませんので、ご注意ください。

◆ データソリューションモジュールの RGB IN 信号仕様については、「データソリューションモジュール PCSA-DSM1 RGB IN 信号仕様（本体接続端子の一部）」（121 ページ）をご覧ください。

（メニュー）ボタンまたは（ビデオ会議）ボタンを押して通信コントロールバーを表示させ、（送信）ボタンをクリックします。
コンピューターの画像が、データソリューションモジュールの RGB OUT 端子に接続されたプロジェクターや本機に表示され、会議の相手にもコンピューターの画像が送信されます。
送信を解除するには同じ（解除）ボタンをクリックします。



プロジェクターや本機に表示されている送信中のコンピューター画像は、データソリューションモジュールに入力している画像がそのまま表示されます。相手に送られている画像は、細かな部分が見にくくなる場合があります。また、コマ数が落ちます。

◆ 画像品質について詳しくは、「データソリューションモジュールの画像品質」（79 ページ）をご覧ください。

ご注意

コンピューター画像を送信中は、他の端末からの静止画およびコンピューター画像を受信できません。送信を終了すると受信できます。また、他の端末から静止画およびコンピューター画像を受信中は、静止画およびコンピューター画像を送信することはできません。

データソリューションモジュールの画像品質

相手側の端末や接続方法、モニター出力（サブモニター出力）の設定により、データソリューションモジュールから送信された画像の受信品質が異なります。
相手側でもデータソリューションモジュールを使用すれば、動きのある高画質のコンピューター画像を見ることが可能です。

受信端末が PCS-TL33、PCS-TL30 の場合

データソリューションモジュール装着の有無	解像度	コマ数	画像品質
なし（本体ディスプレイ）	◎	○	VGA/SVGA/XGA で伝送した画像を XGA で出力するので、高解像度の画像を表示できます。 回線レートにもよりますが、1 秒あたり 1 枚程度の画像を見ることができます。
あり	◎	◎	VGA/SVGA/XGA で伝送した画像を XGA で出力するので、高解像度の画像を表示できます。本体のディスプレイ使用時より動きのある画像を見ることができます。回線レートにもよりますが、1 Mbps のとき 1 秒あたり 5 枚程度です。 **ご注意** XGA で伝送した画像は 3 枚程度の表示になります。

◎高、○中、△低

受信端末が PCS-TL50 の場合

受信端末の出力先	解像度	コマ数	画像品質
本体ディスプレイ	◎	○	VGA/SVGA/XGA で伝送した画像を XGA で出力するので、高解像度の画像を表示できます。 回線レートにもよりますが、1 秒あたり 1 枚程度の画像を見ることができます。
データソリューションボックス PCSA-DSB1S の RGB OUT 端子（PCSA-DSB1S 使用時のみ）	◎	◎	VGA/SVGA/XGA で伝送した画像を XGA で出力するので、高解像度の画像を表示できます。本体の RGB OUT 端子使用時より動きのある画像を見ることができます。回線レートにもよりますが、1 Mbps のとき 1 秒あたり 5 枚程度です。 **ご注意** XGA で伝送した画像は 3 枚程度の表示になります。

◎高、○中、△低

受信端末が PCS-1、PCS-G70、PCS-G50 の場合

データソリューションボックスの映像を表示するモニター	受信端末のコンピューター画像の出力端子	解像度	コマ数	画像品質
本体 VIDEO	コミュニケーションターミナルの VIDEO OUT 1 または VIDEO OUT 2 端子	○	○	VGA/SVGA/XGA で伝送した画像を 4CIF に変換して出力するため、本来の解像度では表示できません。細かな部分は見にくくなります。 回線レートにもよりますが、1 Mbps のとき 1 秒あたり 1 枚程度の画像を見ることができます。
本体 RGB	コミュニケーションターミナルの RGB OUT 端子	◎	○	VGA/SVGA/XGA で伝送した画像を XGA で出力するので、高解像度の画像を表示できます。回線レートにもよりますが、1 Mbps のとき 1 秒あたり 1 枚程度の画像を見ることができます。
DSB RGB	データソリューションボックス PCSA-DSB1S の RGB OUT 端子（PCSA-DSB1S 使用時のみ）	◎	◎	VGA/SVGA/XGA で伝送した画像を XGA で出力するので、高解像度の画像を表示できます。本体の RGB OUT 端子使用時より動きのある画像を見ることができます。回線レートにもよりますが、IP 接続で 1 Mbps のとき 1 秒あたり 5 枚程度（XGA で伝送した場合は 3 枚程度）です。

◎高、○中、△低

◆ それぞれの出力端子から画像を出力するための設定は、PCS-1、PCS-G70、PCS-G50 の取扱説明書をご覧ください。

受信端末が PCS-11 の場合

解像度	コマ数	画像品質
○	○	VGA/SVGA/XGA で伝送した画像を 4 CIF に変換して出力するため、本来の解像度では表示できません。細かな部分は見にくくなります。 回線レートにもよりますが、1 Mbps のとき 1 秒あたり 1 枚程度の画像を見ることができます。

◎高、○中、△低

受信端末が PCS-1600 など他のビデオ会議装置の場合

解像度	コマ数	画像品質
○	△	4 CIF で伝送するため、本来の解像度では表示できません。細かな部分は見にくくなります。回線レートにもよりますが、数秒に 1 枚程度の画像になります。

◎高、○中、△低

LAN 暗号化会議

第 6 章

機密性の高い会議をしたいときやインターネットを介して会議を行う場合に、映像や音声、データを暗号化して会議を行うことができます。この会議のしかたを LAN 暗号化会議と呼びます。
この章では、LAN 暗号化会議のしかたを説明します。
LAN 暗号化会議を行うことができるのは、PCS-TL30 同士の場合、およびソニービデオコミュニケーションシステム PCS-1、PCS-11、PCS-TL33、PCS-TL50、PCS-G50、PCS-G70 を接続した場合、または、H.235 に準拠した他社のビデオ会議システムを接続した場合です。
LAN 接続による多地点会議の場合（カスケード接続を含む）でも暗号化会議はできます。

ご注意

LAN 暗号化会議では、映像、音声、コンピューターの画像のみが暗号化されます。相手のカメラをコントロールするためのデータは暗号化されません。

暗号化方式対応表

2 地点会議

回線種別 / 暗号化方式	LAN	SIP
独自方式	○	○
標準方式（H.233、H.234、H.235）	○	×

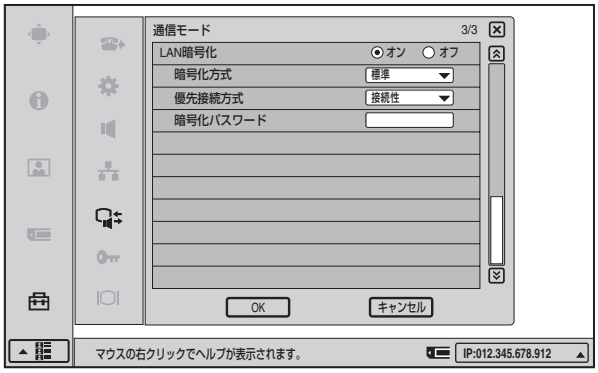
○：暗号化会議ができます。
×：暗号化会議ができません。通常の会議となります。

LAN 暗号化会議の準備

LAN 暗号化会議を開催するには、通信モード設定メニュー 3 ページ目の「LAN 暗号化」を「オン」にして「暗号化方式」の「標準」か「独自」を選択します。

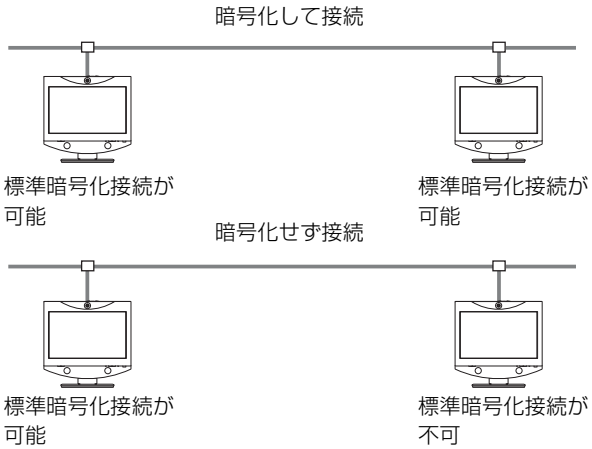
標準の場合

1 通信モード設定メニュー 3 ページ目の「暗号化方式」を「標準」にする。



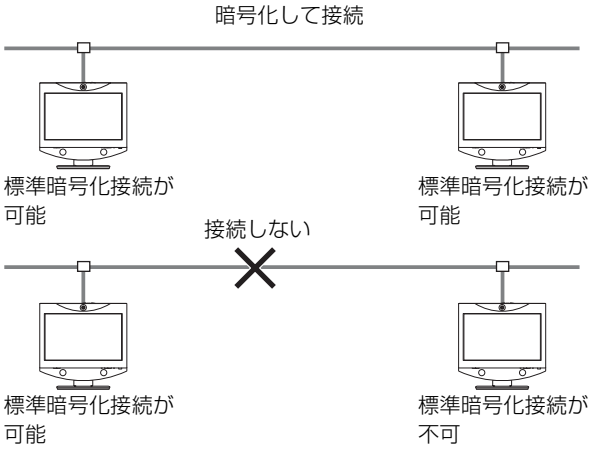
2 「優先接続方式」を選びます。

接続性優先
標準暗号化接続ができる相手とは暗号化接続します。標準暗号化接続ができない、またはオフになっている相手とは、暗号化せずに接続します。



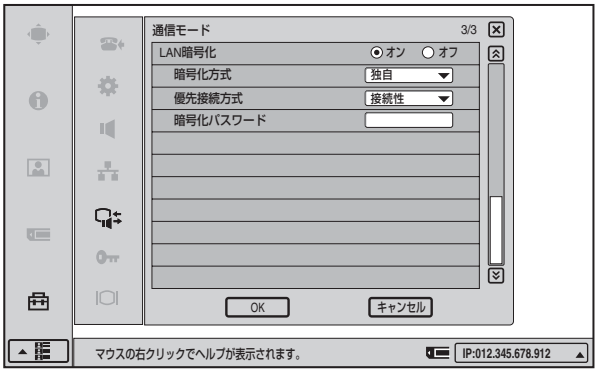
暗号化優先

標準暗号化接続ができる相手とのみ、接続します。



独自の場合

1 通信モード設定メニュー 3 ページ目の「暗号化方式」を「独自」にする。



2 「暗号化パスワード」欄に 13 ～ 20 文字のパスワードを半角英数字、記号で入力する。

◆ 詳しい設定のしかたは、「通信モード設定メニュー」（33 ページ）をご覧ください。

ご注意

- 「暗号化方式」を「標準方式」に設定している場合は、パスワードを設定する必要はありません。
- 「LAN 暗号化」が「オン」で暗号化優先の場合には、LAN 接続で暗号化機能を持たない端末や、「LAN 暗号化」が「オフ」になっている端末、また「暗号化パスワード」が異なる端末との接続はできません。

LAN 暗号化会議を始める

通常の会議と同じ方法で、暗号化会議をする相手を呼び出します。
LAN 暗号化会議中、モニター画面には、暗号化会議アイコン S または H が表示されます。
表示されるアイコンは、暗号化通信方式が「独自」の場合は S 、「標準」の場合は H になります。

ご注意

アイコンが表示されていないときは、送受信データは暗号化されていません。アイコンが表示されていることを確認してから会議を始めてください。

LAN 暗号化会議ができない場合は

以下の場合、LAN 暗号化会議はできません。相手を呼び出すと、以下のエラーメッセージが表示され、接続されません。

エラーメッセージ	原因
「相手側は暗号化に対応していません。」	相手側は暗号化非対応である。
「相手側の暗号化機能がオフになっています。」	相手側の暗号化機能がオフになっている。または、相手側と暗号化通信方式の設定が違う。
「暗号化のパスワードが違います。」	相手側の暗号化パスワードが本機と異なっている。
「こちら側の暗号化機能がオフのため、会議が開始できませんでした。」	自分側の暗号化機能がオフになっている。
「相手側の暗号化機能がオフのため会議が開始できませんでした。」	相手側の暗号化機能がオフになっている。
「相手側と暗号化通信方式が異なるため会議が開始できませんでした。」	相手側と暗号化通信方式の設定が違う。
「SIP 接続を含んだ標準方式の暗号化会議はできません。」	相手側と SIP で接続している。
相手が接続を拒否しました。	相手側と設定が異なっています。
相手側の暗号化機能がオンになっています。	自分側の暗号化機能がオフになっています。

SIP を使った会議

第 7 章

この章では、SIP（Session Initiation Protocol—セッション開始プロトコル）を使った会議を行う方法を説明します。SIP は、IETF（Internet Engineering Task Force）で標準化された、IP ネットワーク上で通信を開始するプロトコルです。SIP を使った会議を行うには、別売りの SIP ソフトウェア PCSA-SP1 を本機にインストールし、SIP サーバーを経由して IP 電話などの端末と接続します。

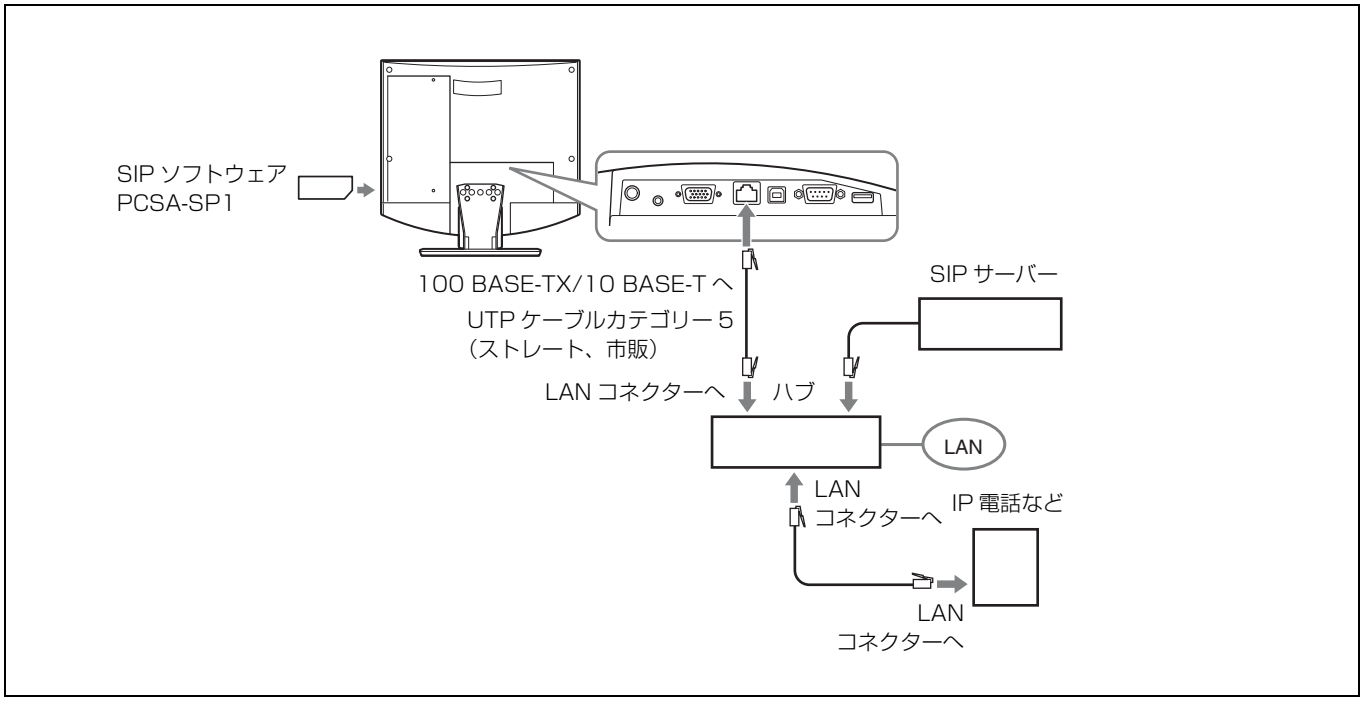
SIP ソフトウェア使用時の制限事項

- 設定メニューの設定は SIP 接続中は無効です。
- 「LAN 暗号化」を「オン」にして、「標準方式」を選択した場合は、SIP を使った接続はできません。

SIP を使った会議をするための接続例

2 地点間の接続例

ビデオコミュニケーションシステムに SIP ソフトウェア PCSA-SP1（別売り）をインストールし、ハブを介して IP 電話と SIP サーバーに接続します。



SIP を使った会議の準備

SIP ソフトウェアをインストールする

インストール時のご注意

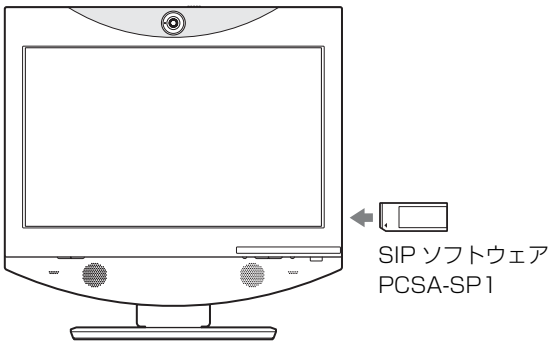
SIP ソフトウェアの入った“メモリースティック”の誤消去防止ツマミが「LOCK」になっているとインストールできません。

- 1個のSIPソフトウェアでインストールできるのは1回のみです。
- コンピューターなどで他の“メモリースティック”にコピーした SIP ソフトウェアはインストールできません。

1 本機の電源をオフにする。

2 SIP ソフトウェア PCSA-SP1 の入った“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込む。

“メモリースティック”の上面に書いてある矢印の向きに差し込んでください。



3 本機の電源をオンにする。

SIP ソフトウェアが本機にインストールされます。

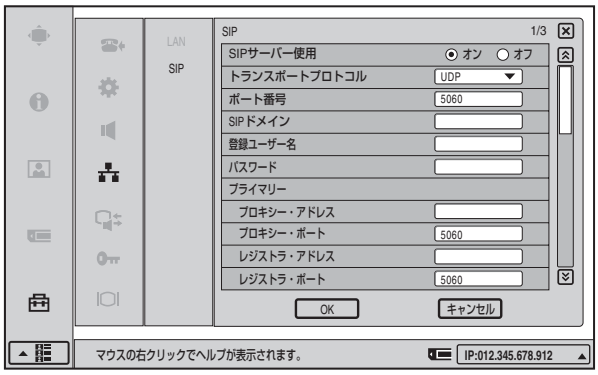
SIP の設定をする

ネットワーク設定メニューの「SIP」で、SIP を使用した会議の設定を行います。

1 ネットワーク設定メニューの「SIP」の 1 ページ目の「SIP サーバー使用」を「オン」にする。

ご注意

SIP ソフトウェアが正しくインストールされていないと、ネットワーク設定メニューに「SIP」が表示されません。



2 使用する SIP サーバー（プロキシサーバーまたはレジストラサーバー）のアドレスと、SIP ドメイン名を入力する。

ご注意

必要に応じて、その他の項目の設定、入力を行ってください。

3 接続する端末の「登録ユーザー名」と「パスワード」を入力する。

4 「OK」を選ぶ。

メニュー画面に SIP サーバーとの同期の情報が表示されます。
登録成功：正常に SIP サーバーと同期が取れた
登録失敗：SIP サーバーと同期が取れなかった

◆ 詳しい設定のしかたは、「ネットワーク設定メニュー」（30 ページ）をご覧ください

回線種別を選択する

通信モード設定メニュー－発信の「回線種別」で「SIP」を選択しておくと、ランチャーメニューの回線種別選択で、通常使用する回線インターフェースに「SIP」が選択された状態にできます。

◆ 詳しい設定のしかたは「通信モード設定メニュー」（33 ページ）をご覧ください。

会議の相手をアドレス帳に登録する

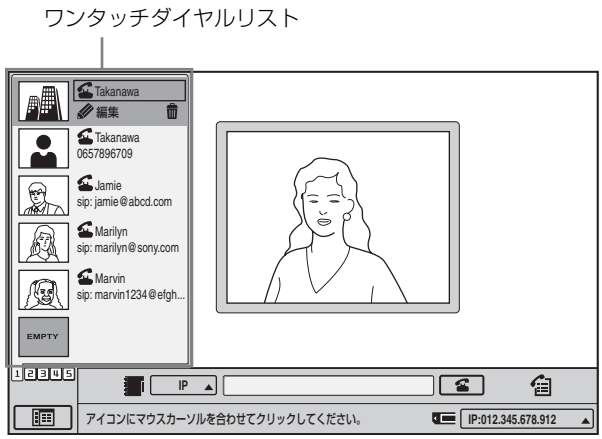
SIP 接続をする相手をアドレス帳へ登録する方法は、基本的には通常の 2 地点間の会議の場合と同じです。詳しくは、「新しい相手を登録する」（42 ページ）をご覧ください。

SIP を使った会議を始める

相手を呼び出す

ワンタッチダイヤルで相手を呼び出すには

基本的に、通常の 2 地点間の会議の場合と同じです。
ワンタッチグループの呼び出したい相手にマウスカーソルを合わせ、「ダイヤル」をクリックします。



選んだ相手にダイヤルが始まり、ディスプレイに「発信中です。」と表示されます。相手とつながると「コミュニケーションを始めます。」と表示されます。

アドレス帳に登録している相手を呼び出すには

基本的に、通常の 2 地点間の会議の場合と同じです。
アドレス帳メニューで呼び出したい相手にマウスカーソルを合わせ、☎（ダイヤル）ボタンをクリックします。

選んだ相手にダイヤルが始まり、ディスプレイに「発信中です。」と表示されます。相手側とつながると「コミュニケーションを始めます。」と表示されます。

◆ 詳しくは、「アドレス帳に登録している相手を呼び出す」（57 ページ）をご覧ください。

履歴メニューから相手を呼び出すには

基本的に、通常の 2 地点間の会議の場合と同じです。
履歴メニューで呼び出したい相手にマウスカーソルを合わせ、「ダイヤル」ボタンをクリックします。

選んだ相手にダイヤルが始まり、ディスプレイに「発信中です。」と表示されます。相手側とつながると「コミュニケーションを始めます。」と表示されます。

◆ 詳しくは、「発信・着信履歴から相手を呼び出す」（58 ページ）をご覧ください。

アドレス帳に登録していない相手を呼び出すには

基本的に、通常の 2 地点間の会議の場合と同じです。
回線インターフェースに「SIP」を選択し、番号入力欄に相手を指定するアドレスを入力して、「ダイヤル」ボタンをクリックします。

ご注意

SIP 設定で「SIP サーバー使用」が「オン」に設定されていることをご確認ください。

SIP で相手を指定するときのアドレスには以下のような形式があります。

- 4000（SIP サーバーから割り当てられた番号）
- 4000@sip.com
- 192.168.1.1（IP アドレス）

ご注意

IP アドレスで発信するときはネットワーク設定メニュー SIP の「SIP サーバー使用」を「オフ」にする必要があります。

指定した相手にダイヤルが始まり、ディスプレイに「発信中です。」と表示されます。
相手側とつながると「コミュニケーションを始めます。」と表示されます。

◆ 詳しくは、「ランチャーメニューで IP アドレスを入力して呼び出す」（57 ページ）をご覧ください。

相手から呼び出される

2 地点間のビデオ会議の操作と同じです。

◆ 詳しくは、「相手から会議に呼び出される」（59 ページ）をご覧ください。

会議を保留する

1 ☎（切断）ボタンをクリックする。

画面にメッセージが表示されます。

2 「保留」をクリックする。

画面に「保留中です。」とメッセージが表示され、会議が保留状態になります。
保留中は保留音が流れます。保留音が流れないようにするには、音声設定メニューの「効果音」を「オフ」にします。

◆ 音声設定メニューについて詳しくは、「音声設定メニュー」（30 ページ）をご覧ください。

保留を解除するには

「解除」をクリックします。

ご注意

相手側が保留操作を行った場合は、自分では保留の解除ができません。

会議を転送する

1 ☎（切断）ボタンをクリックする。

画面にメッセージが表示されます。

2 「転送」をクリックする。

3 転送する相手にダイヤルし、「切断」をクリックする。

ダイヤルは、ワンタッチダイヤル、アドレス帳または履歴からの選択、番号入力欄への入力のいずれかの方法で行います。
転送が終了すると、画面に「転送しました。」のメッセージが表示されます。

転送を中止するには

ダイヤル前の場合は、画面右下の「キャンセル」をクリックします。
ダイヤル後の場合は、「切断」をクリックします。

会議を終了する

☎（切断）ボタンをクリックし、表示されたメッセージにしたがって「切断」をクリックします。

コンピューターディスプレイ機能 第8章

ビデオ会議をしていないとき、本機のディスプレイをコンピューターディスプレイとして使用することができます。この章では、ビデオ会議をしていないときの本機の使いかたを説明します。

コンピューターディスプレイ機能

本機をコンピューターに接続し、コンピューターの映像を本機のディスプレイで見ることができます。

コンピューターと接続する

本機のリアカバーを外し、コンピューターを接続します。

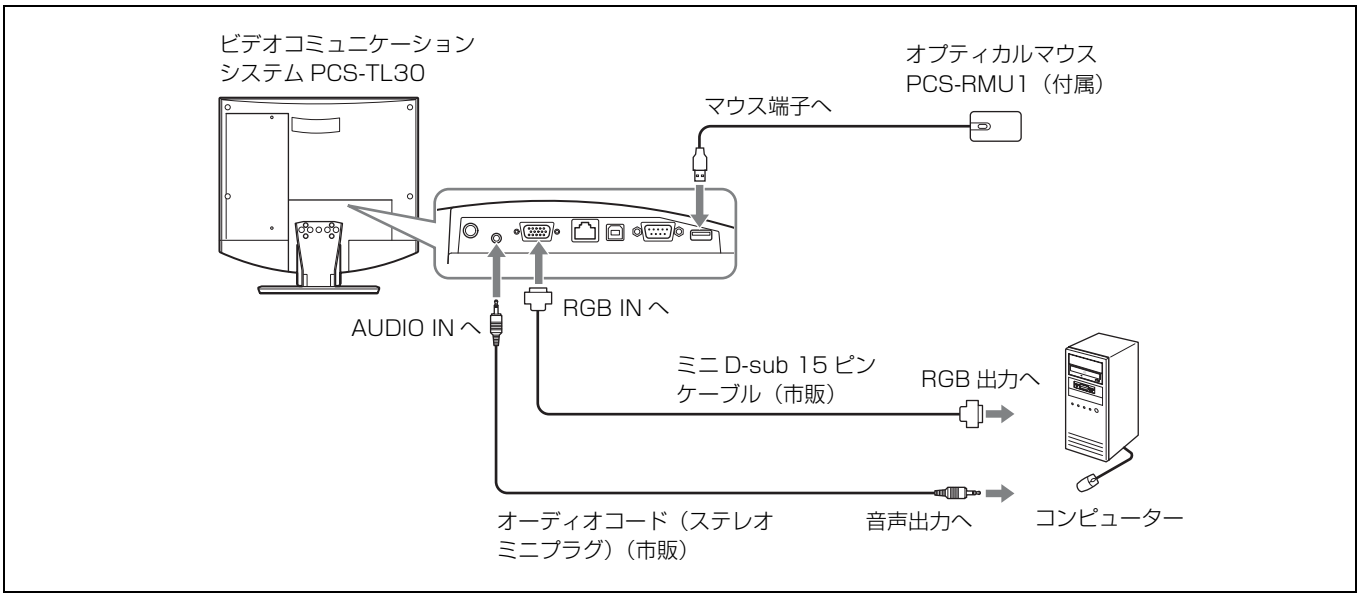
◆ リアカバーの外しかたは、17 ページをご覧ください。

コンピューターと接続する場合は、本機とコンピューターのそれぞれにマウスを接続するか、本機とコンピューターを USB ケーブル（市販）で接続することによってマウスを共用します。

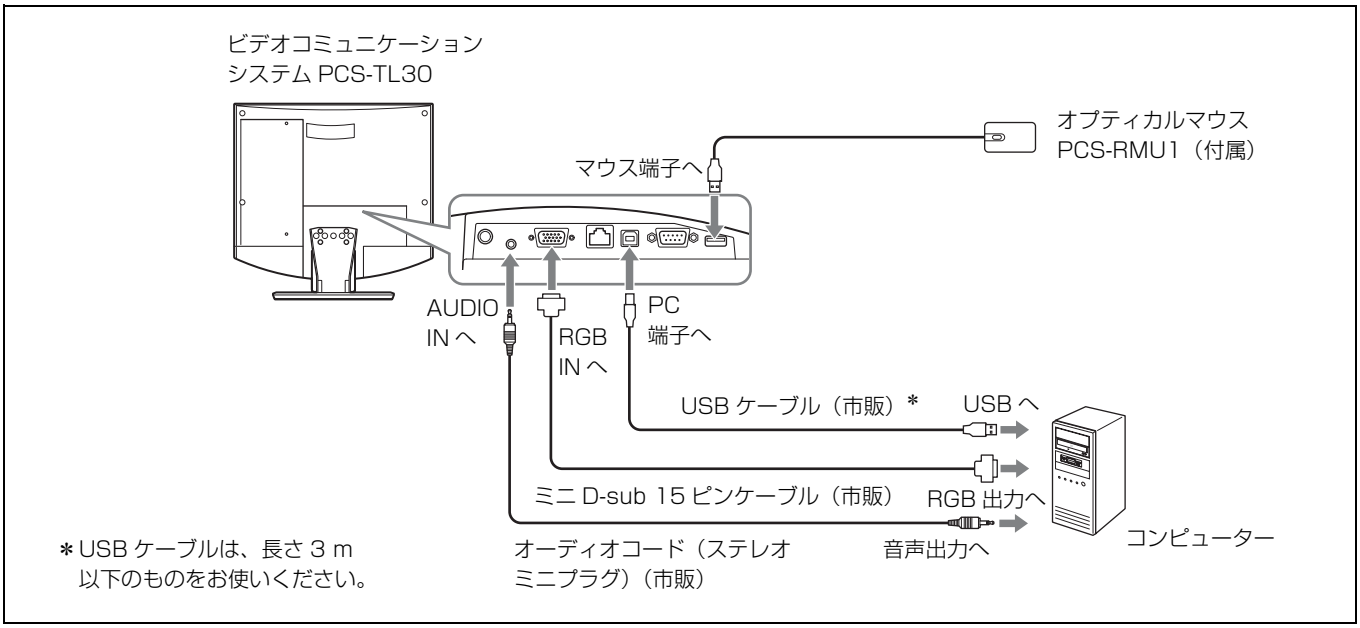
ご注意

USB ケーブルは、長さ 3 m 以下のものをお使いください。

マウスを個別に使用



マウスを共用



コンピューターの映像を見る

1 本機の（PC）ボタンを押す。

PC 画面に切り替わります。
PC 入力にすると、本機のスピーカーからコンピューターの音声がステレオで聞こえます（音声接続をしている場合）。

2 本機の（音量）ボタンを押して、コンピューターからの音量を調節する。

3 映像の画質調節をする。

◆ 調節のしかたは、「ディスプレイ設定メニュー」（40 ページ）をご覧ください。

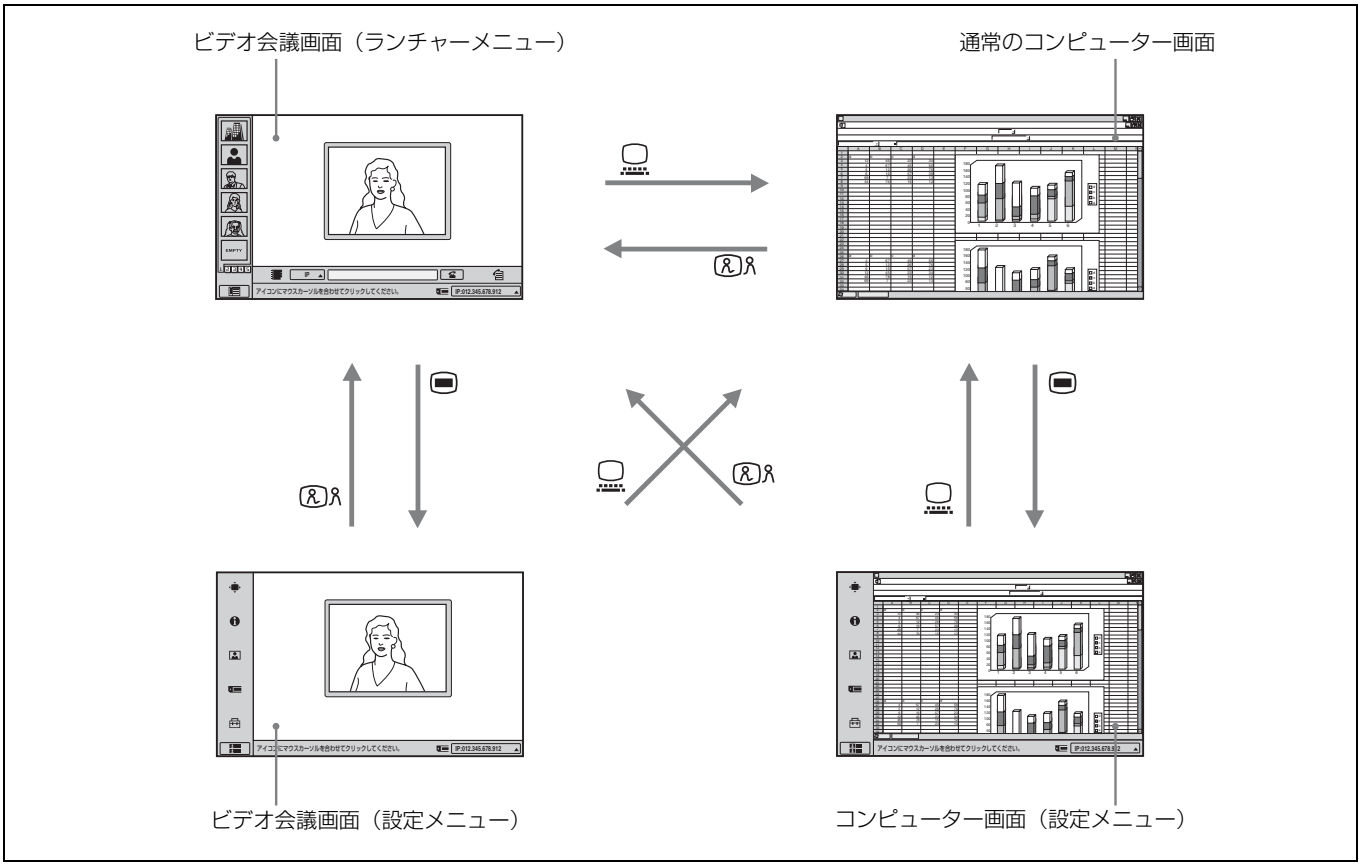
ビデオ会議中にコンピューターの映像を見る

通話中にコンピューター映像を見るには、本体の（PC）ボタンを押します。自動的に子画面表示モードに切り替わり相手側の映像が子画面に表示されます。
画面表示を切り換えるには、本体の（メニュー）ボタンを押し、設定メニューバーを表示させてから操作してください。

◆ 画面表示の切り換えかたについて詳しくは、「画面表示を切り換える」（65 ページ）をご覧ください。

ビデオ会議画面とコンピューター画面を切り換える

本機右下の（メニュー）ボタン、（PC）ボタン、（ビデオ会議）ボタンで、ビデオ会議画面とコンピューター画面を切り換えることができます。



ご注意

- コンピューターと接続していない場合は、（PC）ボタンを押してコンピューター画面に切り換えると、マウス操作ができなくなります。
- 通話中で子画面を表示している場合は、コンピューター画面に切り換えても子画面が表示されます。ただし、子画面に表示される映像は、相手または自分の映像となります。
- 本機とコンピューターに個別にマウスを接続している場合は、表示中の画面に応じて操作するマウスが異なります。通常のコンピューター画面を表示しているときはコンピューターに接続されているマウスを、その他の画面を表示しているときは本機に接続されているマウスを操作してください。

PC 画面での発信と着信

PC 画面での発信

本機のディスプレイでコンピューター映像を見ているときは、発信はできません。本体の（ビデオ会議）ボタンを押して、ビデオ会議画面に切り換えてください。

◆ 発信のしかたについて詳しくは、「自分側から会議を始める」（52 ページ）をご覧ください。

PC 画面での着信

相手から呼び出しを受けたとき（着信）、自動着信に設定してあるか手動着信に設定してあるかによって、操作の方法が異なります。

自動着信

相手からの呼び出しを自動的に受け、会議を始めます。
ただし、PC 画面では、画面表示や設定を変えることはできません。本体の（ビデオ会議）ボタン、または（メニュー）ボタンを押して、画面を切り換えてください。

手動着信

呼び出しを受けると、呼び出し音が鳴ります。回線をつなぐ操作をすることにより会議が始まりますが、PC 画面ではその操作をすることができません。画面のメッセージに従い、本体の（ビデオ会議）ボタンを押して、マウスで OK ボタンをクリックすると、会議を始めることができます。この場合、画面はビデオ会議画面に切り替わります。
また（メニュー）ボタンを押して、マウスで OK ボタンをクリックし、会議を始めることもできます。

ヒント

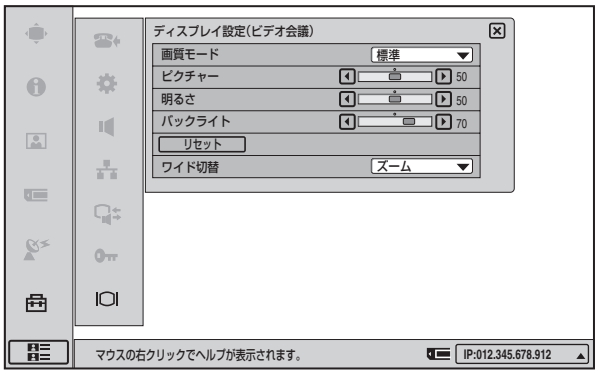
着信設定メニューの「ビデオ会議ボタン着信」が「オン」になっている場合は、呼び出しを受けているときに本体の（ビデオ会議）ボタンを押すと会議を開始、（PC）ボタンを押すとキャンセルできます。

ディスプレイの画質を調節する

ディスプレイ設定メニューで画質調整を行います。
画質調整項目は、ディスプレイのメイン画面に表示される 2 種類の映像（ビデオ会議、コンピューター映像）によって異なり、それぞれの映像の調整値が保持されます。

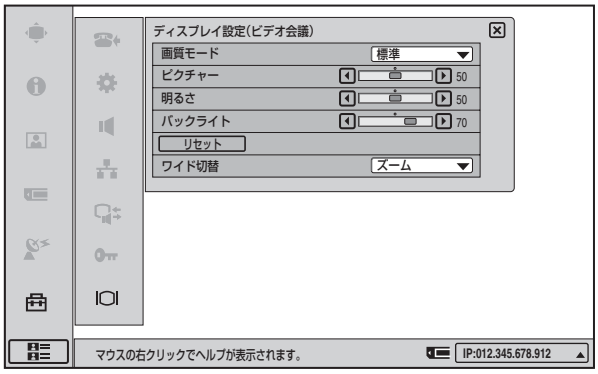
1 メニュー選択画面で「ディスプレイ」をクリックする。

ディスプレイ設定メニューが表示されます。



2 各項目の設定を行い、をクリックする。

ビデオ会議のディスプレイ設定

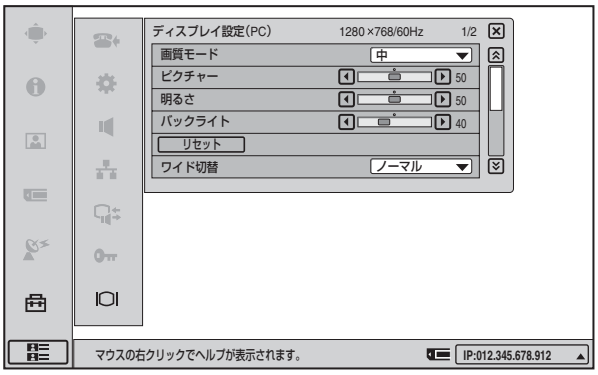


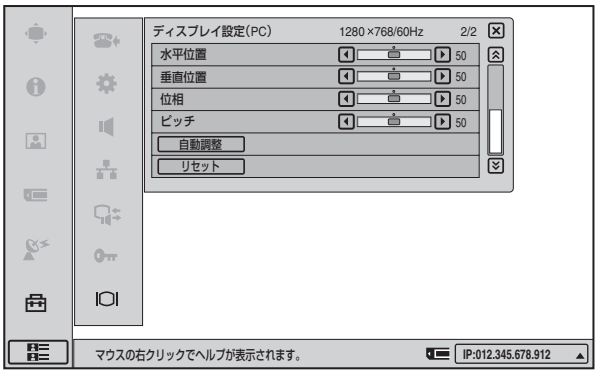
設定項目	◀ ボタンを押すと	▶ ボタンを押すと	調整範囲
画質モード	プルダウンリストからダイナミック、標準、AV プロが選択できる。「ダイナミック」にすると青っぽい色調に、「AV プロ」にすると赤っぽい色調になります。「標準」にすると、「ダイナミック」と「AV プロ」の中間になります。		–
ピクチャー	明暗の差が小さくなる	明暗の差が大きくなる	0 ～ 100
明るさ	暗くなる	明るくなる	0 ～ 100
バックライト	バックライトが暗くなる	バックライトが明るくなる	0 ～ 100
リセット	ピクチャー、明るさ、バックライトの値を初期設定に戻します。		–
ワイド切替*	**ノーマル：**4:3 の画面をそのまま表示します。 **ワイド：**4:3 の画面の幅を横方向に広げてワイドの画面にします。 **ズーム：**4:3 の画面を拡大して上下を切り取り、ワイドの画面にします。		–

＊画面レイアウト設定がピクチャーアンドピクチャー、サイドバイサイドのときは、画面は変わりません。

コンピューター映像のディスプレイ設定

コンピューター映像のディスプレイ設定メニューには、2 枚の画面があります。画面を切り換えるには、画面右の⊠（前のページに戻る）または⊠（次のページへ進む）をクリックしてください。





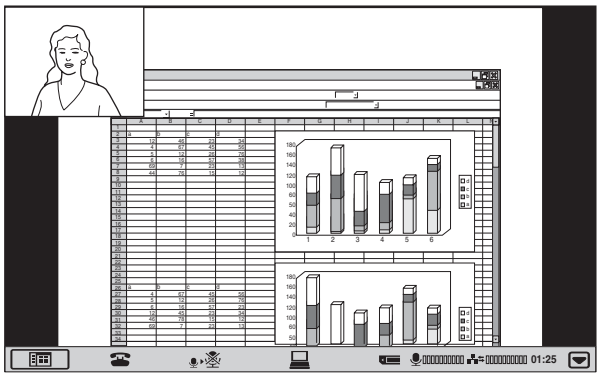
ページ	設定項目	◀ボタンを押すと	▶ボタンを押すと	調整範囲
1/2	画質モード	プルダウンリストから画面の色温度を高、中、低から選択できる		–
	ピクチャー	明暗の差が小さくなる	明暗の差が大きくなる	0 ～ 100
	明るさ	暗くなる	明るくなる	0 ～ 100
	バックライト	バックライトが暗くなる	バックライトが明るくなる	0 ～ 100
	リセット	ピクチャー、明るさ、バックライトの値を初期設定に戻します。		–
	ワイド切替*	ノーマル：4:3 の画面をそのまま表示します。 ワイド：4:3 の画面の幅を横方向に広げてワイドの画面にします。 ズーム：4:3 の画面を拡大して上下を切り取り、ワイドの画面にします。		–
2/2	水平位置	画面全体が左方向に移動する	画面全体が右方向に移動する	0 ～ 100**
	垂直位置	画面全体が下方向に移動する	画面全体が上方向に移動する	0 ～ 100**
	位相	横方向の縞や文字のにじみが最小になるように調整する		0 ～ 63
	ピッチ	縦方向の大きな縞がなくなるように調整する		0 ～ 100
	自動調整	位相とピッチを自動的に調整する		–
	リセット	水平位置、垂直位置、位相、ピッチを初期設定に戻します。		–

＊　画面レイアウト設定がピクチャーアンドピクチャー、サイドバイサイドのときは、画面は変わりません。

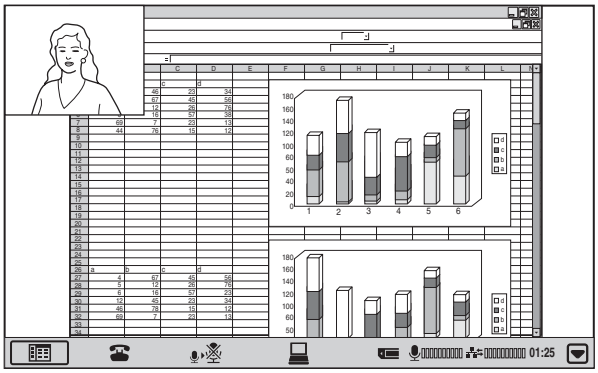
＊＊水平位置、垂直位置の調整範囲は、入力されている RGB 信号の仕様により、異なる場合があります。

ワイド切替による画面表示のちがい

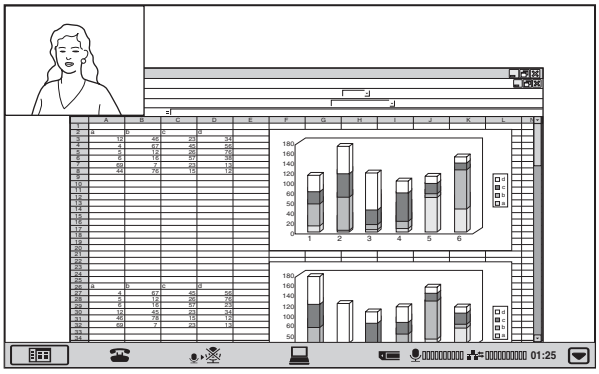
ディスプレイ設定メニューのワイド切替で、画面が次のように切り替わります。



ノーマル



ズーム



ワイド

お買い上げ時の状態に戻すには

ディスプレイ設定メニューの「リセット」ボタンをクリックします。

ご注意

- ビデオ会議モード時と PC（コンピューターディスプレイ）モード時で設定項目が異なります。
- 本体の（ビデオ会議）ボタン、または（PC）ボタンを押してディスプレイの映像を切り換えた場合は、ディスプレイ設定メニューが消えます。

Web 機能

第 9 章

本章は、PCS-TL30 上で動作する Web 機能をまとめたものです。
Web 機能とは、PC 上の Web ブラウザ（Internet Explorer）から PCS-TL30 にアクセスし、
PCS-TL30 のコントロール、設定変更を行う機能です。

Internet Explorer は Microsoft 社の製品です。バージョン 5.0 以上（6.0 を推奨）を使用してください。

Web ページへのアクセス方法

Web ブラウザのアドレス欄に PCS-TL30 に設定されている IP アドレスを入力します。
http://xxx.xxx.xxx.xxx/

例 IP アドレスが 192.168.1.24 の場合
http://192.168.1.24/

ご注意

- ネットワークセグメント外部の Proxy が設定されている時は、PCS-TL30 の LAN 設定のゲートウェイアドレスを指定する必要があります。もしくは、Web ブラウザの Proxy 設定で NoProxy に指定してください。
- ログイン後のトップページの表示には、Web ブラウザのポップアップ機能を使用しています。Web ブラウザのポップアップブロッカー機能を使用している場合は、機能を無効にしてください。

認証ページの入力方法

Web ページにアクセスすると以下のような認証ページが表示されます。

ユーザー名入力欄にユーザー名を、パスワード入力欄にパスワードを入力し、OK ボタンをクリックします。
パスワードは、“*”で表示されます。
ユーザー名、パスワードを正しく入力すると、トップページが表示されます。
誤ったユーザー名、パスワードを入力すると、再度ユーザー名、パスワードをきいてきます。
３回誤った入力を行うと、エラーメッセージが画面に表示されます。

ご注意

- ユーザー名に “user”を入力した場合、管理者設定のリモートアクセス・パスワードを入力します。Phone Book、Setup の内容確認を行うことができます。
- ユーザー名に “super”を入力した場合、管理者設定のアドレス帳変更パスワードを入力します。Phone Book の内容確認と変更・新規登録、Setup の内容確認を行うことができます。
- ユーザー名に “sonypcs”を入力した場合、管理者設定の管理者パスワードを入力します。Phone Book の内容確認と変更・新規登録、Setup の内容確認と変更を行うことができます。
- パスワードが設定されていない時は、パスワード入力欄を空白で OK ボタンをクリックします。
- 管理者パスワード、アドレス帳変更パスワード、リモートアクセス・パスワードは管理者用設定の中で設定します。

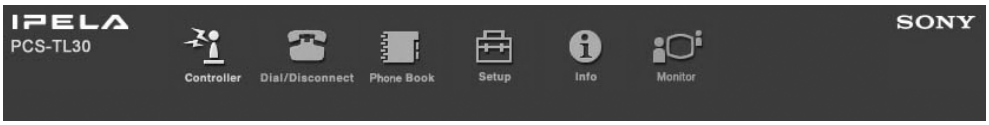
トップページの使用方法

ログインに成功するとトップページが表示されます。

[Mic Off] [Videoconference] [PC] [Menu] をクリックすると本体の各ボタンを押したときと同様になります。
[Web Operation] をクリックすると Dial/Disconnect 画面が表示されます。

機能ボタンの選択

各機能ボタンをクリックすることで、それぞれのページを表示します。



[Controller]

制御卓から各種操作を行うことができます。

[Dial/Disconnect]

マニュアルダイヤル発信と切断を行うことができます。

[Phone Book]

リストの一覧表示を行うことができます。
リスト発信を行うことができます。
リストの新規登録、内容確認、編集を行うことができます。

プライベートアドレス帳の場合は、Phone Book ボタンが Private Phone Book ボタンに変わります。

[Setup]

Setup の内容確認と変更を行うことができます。
メッセージの送信を行うことができます。
Reset の各項目を行うことができます。（ユーザー名：sonypcs で認証したときのみ）

[Status&Info]

通信状態、回線状態、機種情報を確認することができます。
Cause Code を確認することができます。
Call Log を確認することができます。（ユーザー名：sonypcs で認証したときのみ）

[Monitor]

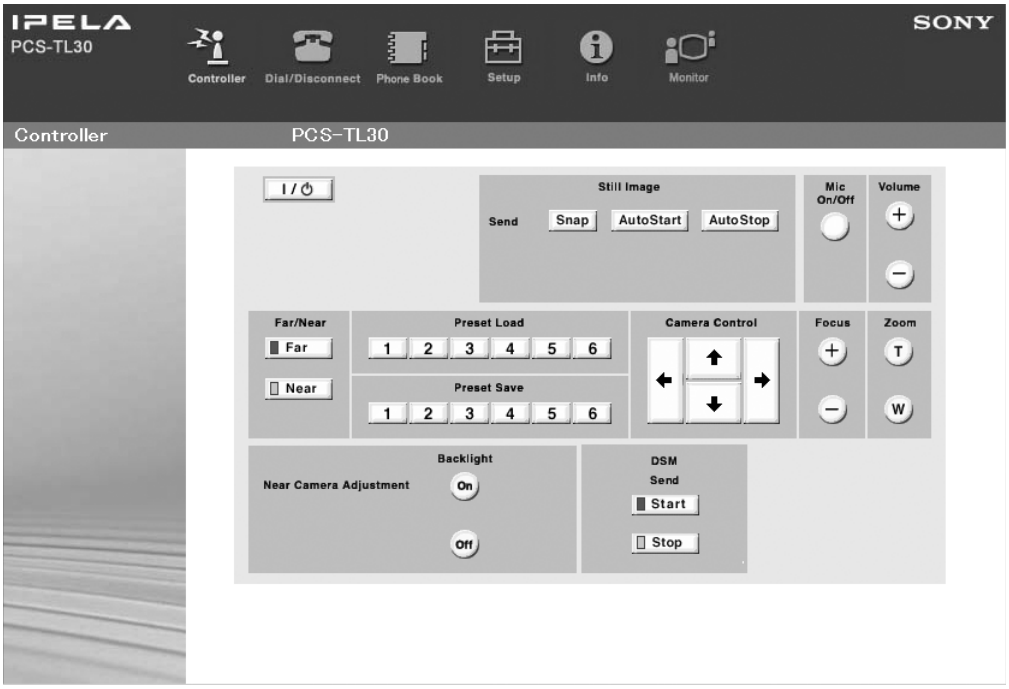
PCS-TL30 の映像をモニターすることができます。

ご注意

管理者用設定メニューの「Web モニター」が「オフ」のときは、映像のモニターはできません。

[Controller] ページの使用方法

Controller 画面



機能ボタンの [Controller] をクリックすると制御卓の画像が表示されます。
それぞれのボタンをクリックすることにより静止画の送受信、カメラ操作、プリセット登録、などの制御を行うことができます。

プリセット登録の方法

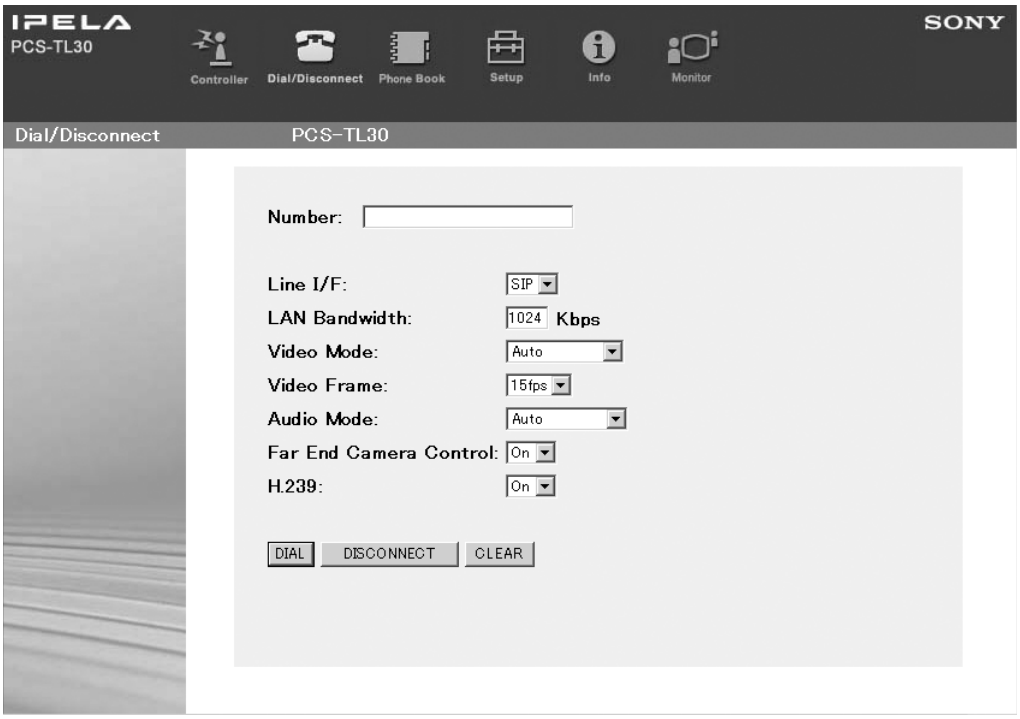
❶ Camera Controlボタンなどでカメラを任意の位置に合わせます。

❷ Preset Save（1 ～ 6）ボタンをクリックします。

❸ プリセット登録完了です。

❹ Preset Load（1 ～ 6）ボタンをクリックするとセーブされたプリセット（1 ～ 6）をロードします。

[Dial/Disconnect] ページの使用方法



機能ボタンの [Dial/Disconnect] をクリックすると Dial/Disconnect ページが表示されます。

Dial の方法

❶ 番号入力欄に相手回線番号（LAN 接続時は IP アドレス、DNS ネームなど）を入力します。

❷ Line I/F を選び、その他必要な項目の設定を行います。

❸ DIAL ボタンをクリックします。

❹ “Now dialing...” と表示されます。

❺ 接続が完了すると、“Connect OK.” と表示され、このページが再表示されます。

Disconnect の方法

❶ DISCONNECT ボタンをクリックします。

❷ “Now disconnecting...” と表示されます。

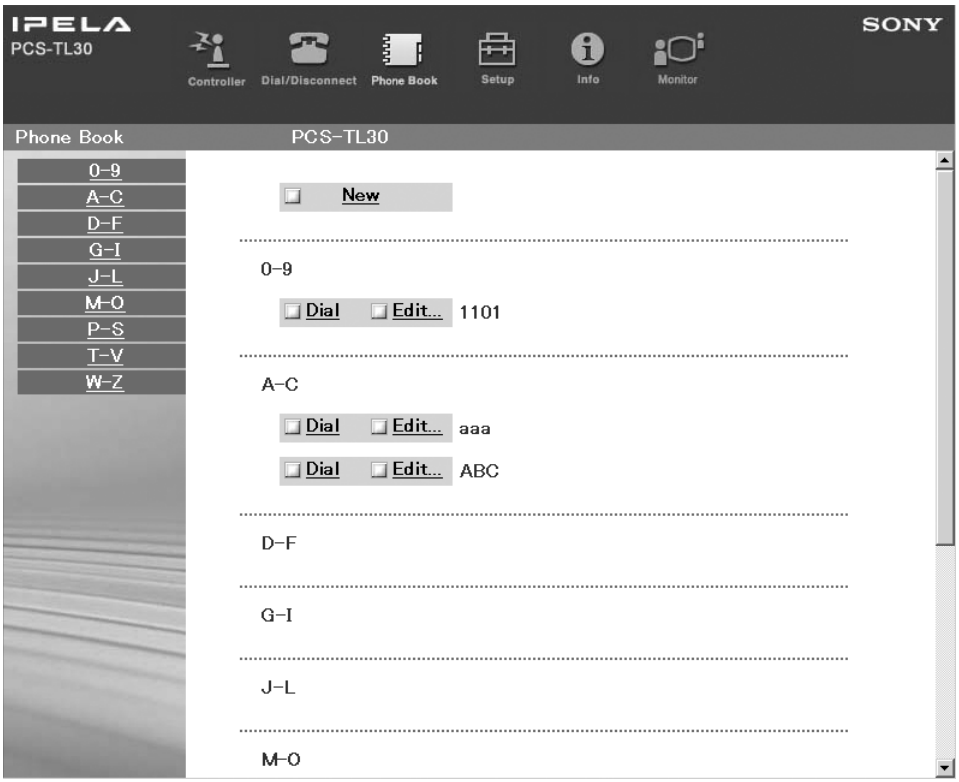
❸ 切断が完了すると、“Disconnect OK.” と表示され、このページが再表示されます。

リダイヤルの内容をクリアする

❶ CLEAR ボタンをクリックします。

❷ リダイヤルの内容がクリアされ、このページが再表示されます。

[Phone Book] ページの使用方法



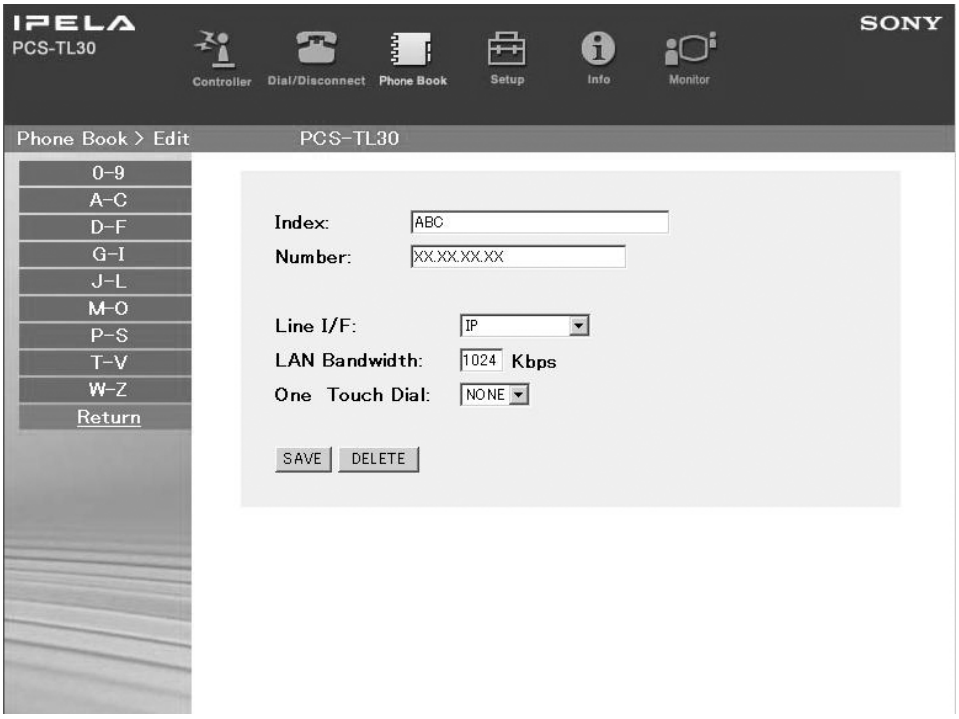
機能ボタンの [Phone Book] をクリックするとアドレス帳のリスト一覧ページが表示されます。

Dial の方法

❶ **ダイヤルしたい相手のIndex名の左側にある□Dialをクリックします。**
"Now dialing..." と表示されます。

❷ **接続が完了すると、"Connect OK." と表示され、リスト一覧ページが再表示されます。**

Phone Book 編集画面



Phone Book を編集する（ユーザー名：super、sonypcs で認証した時）

❶ **リスト一覧ページで、修正したい相手の Index 名の左側にある □Edit... をクリックします。**
Phone Book 編集画面が表示されます。

❷ **回線番号、属性を修正します。**

❸ **SAVE ボタンをクリックします。**
SAVE 完了後、リスト一覧ページが再表示されます。

Phone Book から削除する（ユーザー名：super、sonypcs で認証した時）

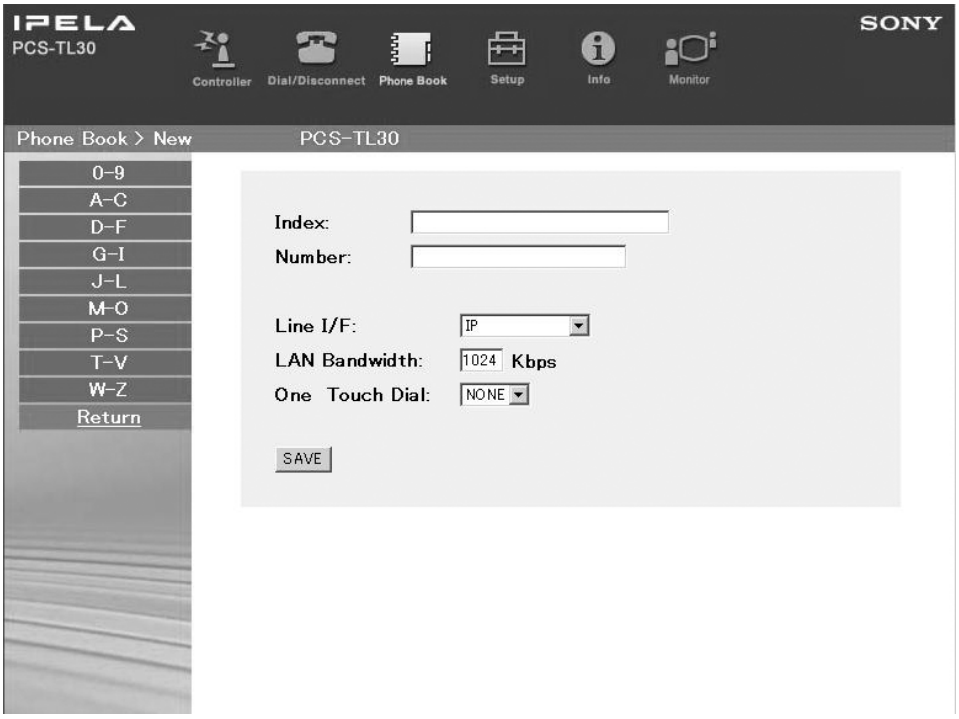
❶ **リスト一覧ページで、削除したい相手の Index 名の左側にある □Edit... をクリックします。**
Phone Book 編集画面が表示されます。

❷ **DELETE ボタンをクリックします。**
DELETE 完了後、リスト一覧ページが再表示されます。

リスト一覧ページに戻る

❶ **左側の Return をクリックします。**
リスト一覧ページが再表示されます。

Phone Book 新規登録画面



Phone Book に新規登録する（ユーザー名：super、sonypcs で認証した時）

❶ **リスト一覧ページで □New をクリックします。**
新規登録画面が表示されます。

❷ **相手 Index 名、回線番号を入力します。**

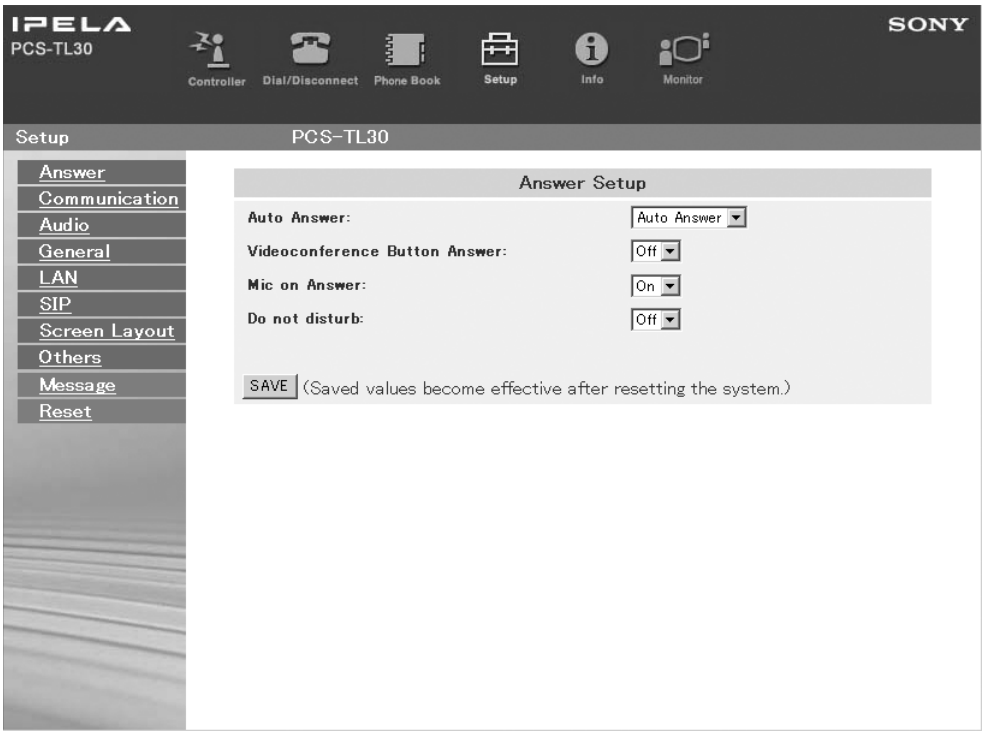
❸ **Line I/F を選び、その他必要な項目の設定を行います。**

❹ **SAVE ボタンをクリックします。**
SAVE 完了後、新規リストが追加され、リスト一覧ページが再表示されます。

リスト一覧のページに戻る

❶ **左側の Return をクリックします。**
リスト一覧ページが再表示されます。

[Setup] ページの使用方法



機能ボタンの [Setup] をクリックすると Answer のページが表示されます。

他の Setup を行う時は、左側の Answer、Communication、Audio、General、LAN、SIP、Screen Layout、Others をクリックしてください。それぞれのページが表示されます。

Setup の変更方法（ユーザー名：sonypcs で認証した時のみ）

❶ **各 Setup のページを開きます。**

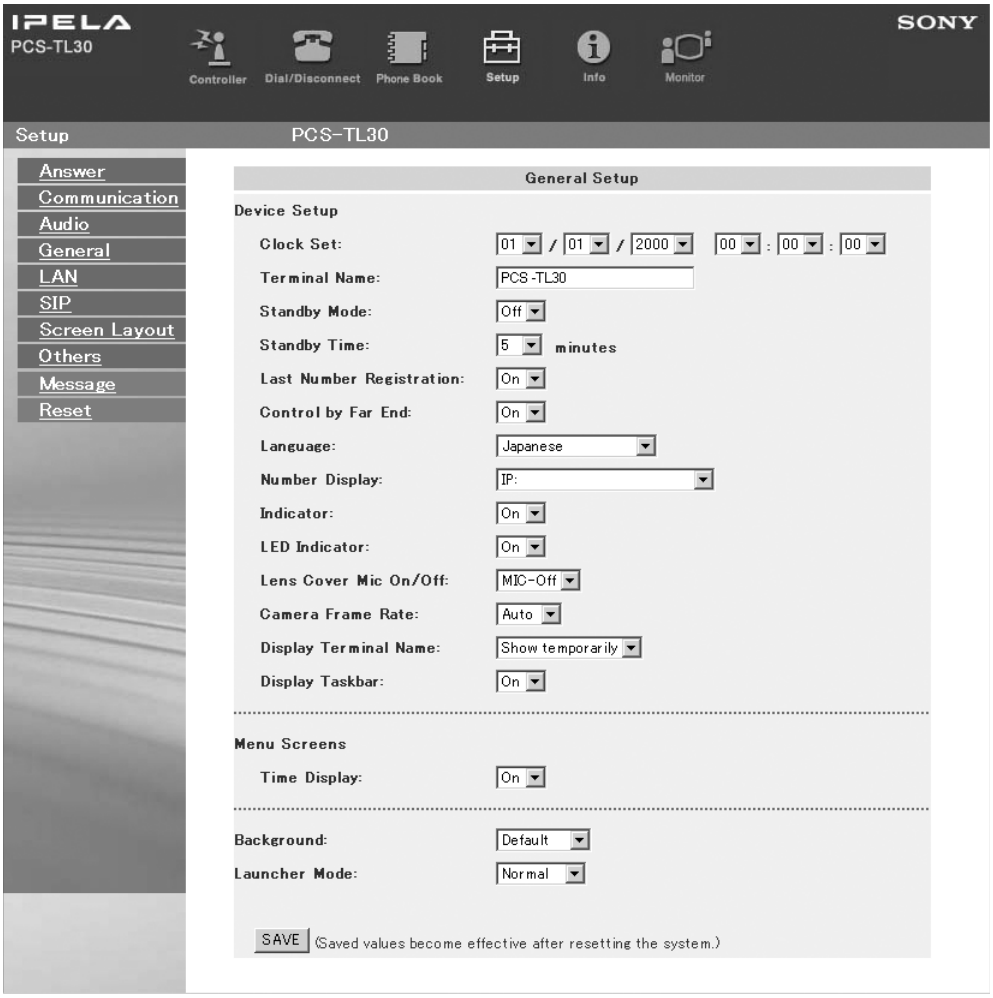
❷ **設定項目を変更します。**

❸ **SAVE ボタンをクリックします。**
SAVE 完了後、ページが再表示されます。

ご注意

※LAN 設定変更時、ページが再表示できない場合があります。

KIOSK Mode の設定方法



ランチャーの背景画面とランチャーモードの選択ができます。

ご注意

- KIOSK Mode の設定は、Web 機能からのみ設定および変更が可能です。
- KIOSK Mode の設定について詳しくは、本機の販売会社へご確認ください。

❶ 左側の General をクリックする。

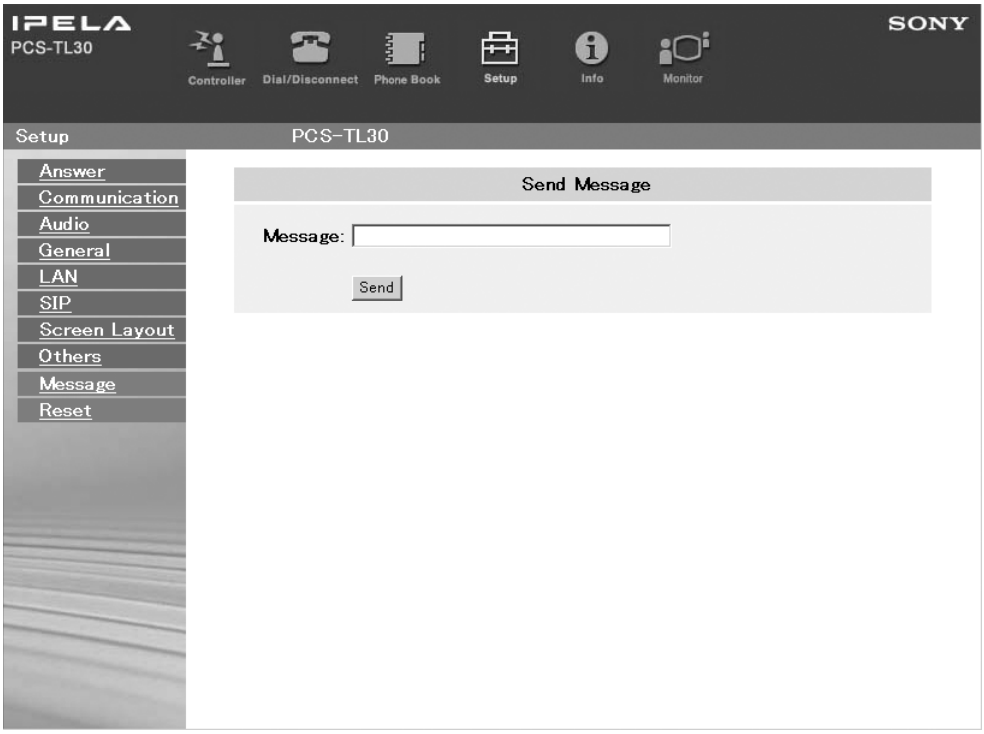
General Setup のページが表示されます。
（ユーザー名：sonypcs で認証したときのみ設定変更ができます。）

❷ Background、Launcher Mode の設定を行います。

❸ SAVE ボタンをクリックします。

SAVE 完了後、ページが再表示されます。

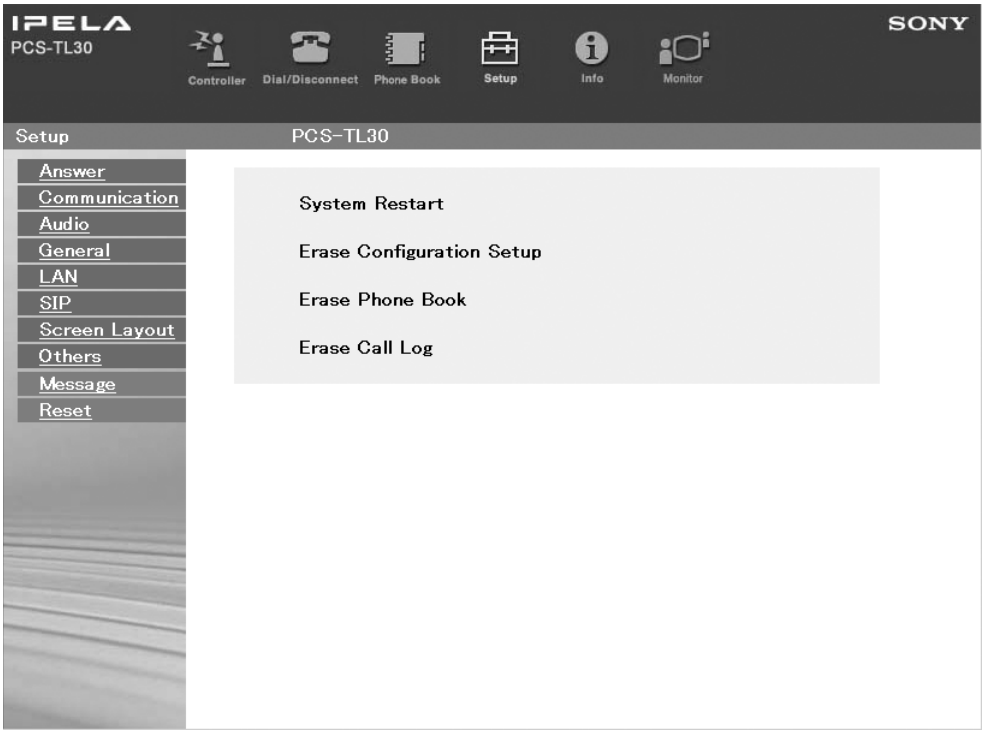
Send Message 画面



左側の Message をクリックすると Send Message のページが表示されます。

入力欄にメッセージを入力し、Send ボタンをクリックすると、PCS-TL30 本体にメッセージを送ります。完了後、“message send OK.” と表示され、ページが再表示されます。

Reset 画面



左側の Reset をクリックすると Reset のページが表示されます。
（ユーザー名：sonypcs で認証した時のみ）

❶ 実行したい項目をクリックします。
確認メッセージが表示されます。

❷ OK ボタンをクリックすると実行します。

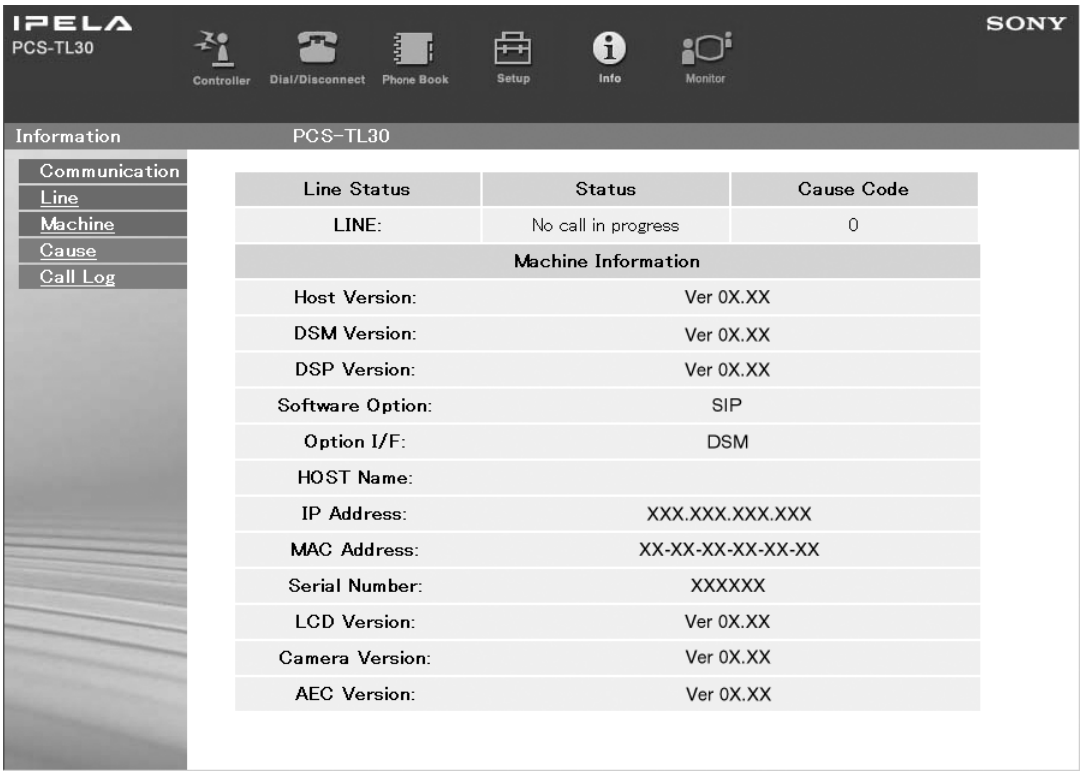
System Restart
PCS-TL30 本体をリセットします。

Erase Configuration Setup
Setup の内容を工場出荷値に戻します。

Erase Phone Book
Phone Book の内容をすべて消去します。

Erase Call Log
Call Log の内容をすべて消去します。

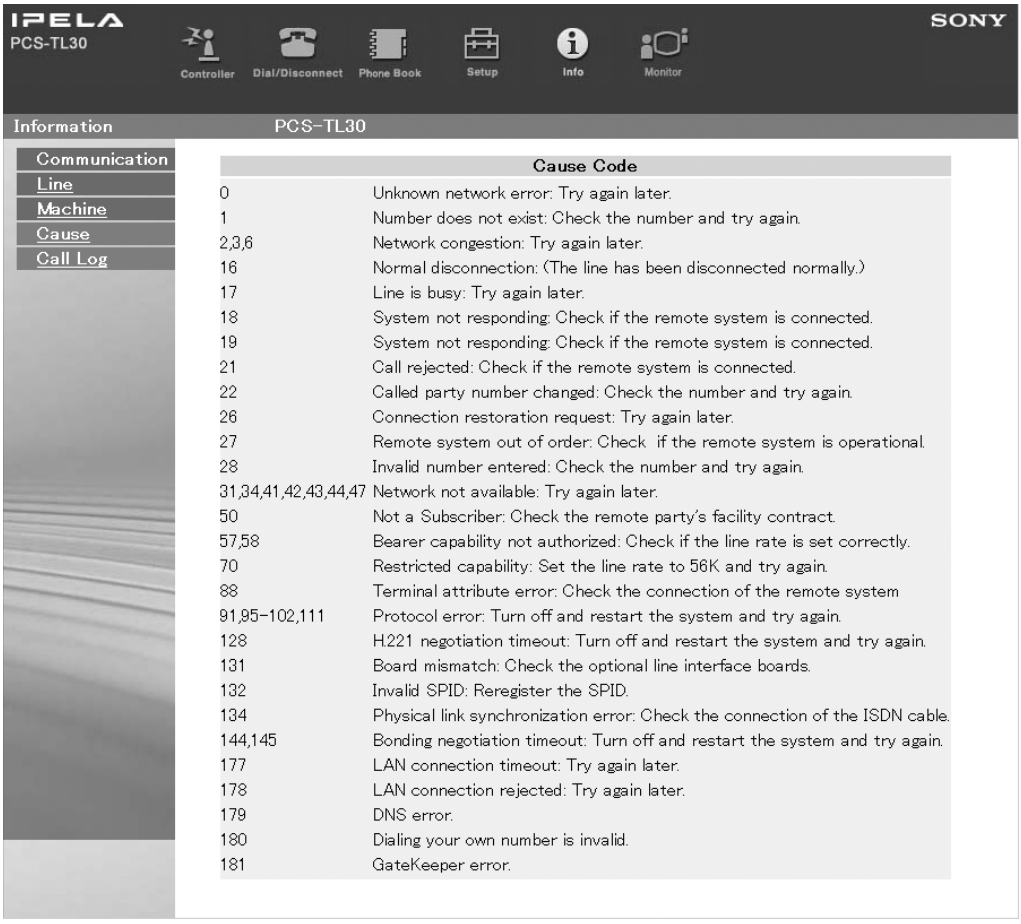
[Status&Info] ページの使用方法



機能ボタンの [Info] をクリックすると Information ページが表示されます。

非通信中は Line Status、Machine Information が表示されます。
通信中は Communication Status、Line Status、Machine Information が表示されます。

Cause Code 一覧画面

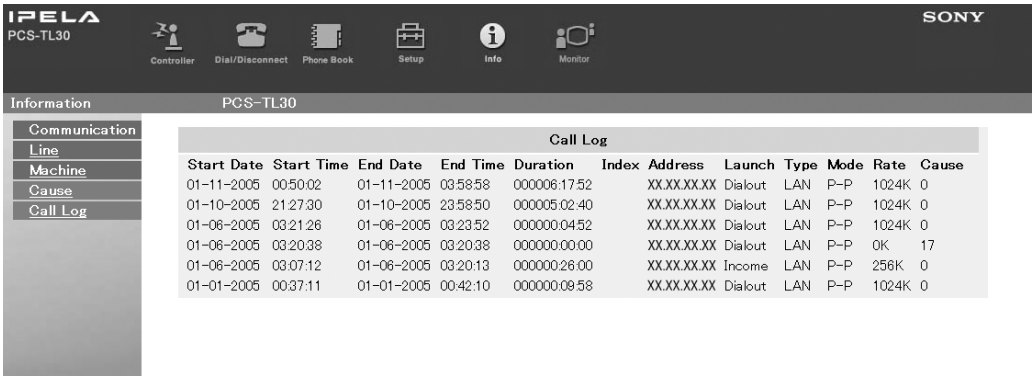


Cause Code	
0	Unknown network error: Try again later.
1	Number does not exist: Check the number and try again.
2,3,6	Network congestion: Try again later.
16	Normal disconnection: (The line has been disconnected normally.)
17	Line is busy: Try again later.
18	System not responding: Check if the remote system is connected.
19	System not responding: Check if the remote system is connected.
21	Call rejected: Check if the remote system is connected.
22	Called party number changed: Check the number and try again.
26	Connection restoration request: Try again later.
27	Remote system out of order: Check if the remote system is operational.
28	Invalid number entered: Check the number and try again.
31,34,41,42,43,44,47	Network not available: Try again later.
50	Not a Subscriber: Check the remote party's facility contract.
57,58	Bearer capability not authorized: Check if the line rate is set correctly.
70	Restricted capability: Set the line rate to 56K and try again.
88	Terminal attribute error: Check the connection of the remote system
91,95-102,111	Protocol error: Turn off and restart the system and try again.
128	H.221 negotiation timeout: Turn off and restart the system and try again.
131	Board mismatch: Check the optional line interface boards.
132	Invalid SPID: Reregister the SPID.
134	Physical link synchronization error: Check the connection of the ISDN cable.
144,145	Bonding negotiation timeout: Turn off and restart the system and try again.
177	LAN connection timeout: Try again later.
178	LAN connection rejected: Try again later.
179	DNS error.
180	Dialing your own number is invalid.
181	GateKeeper error.

左側の Cause をクリックすることにより Cause Code ページが表示されます。

Cause Code の一覧を表示します。

Call Log 画面



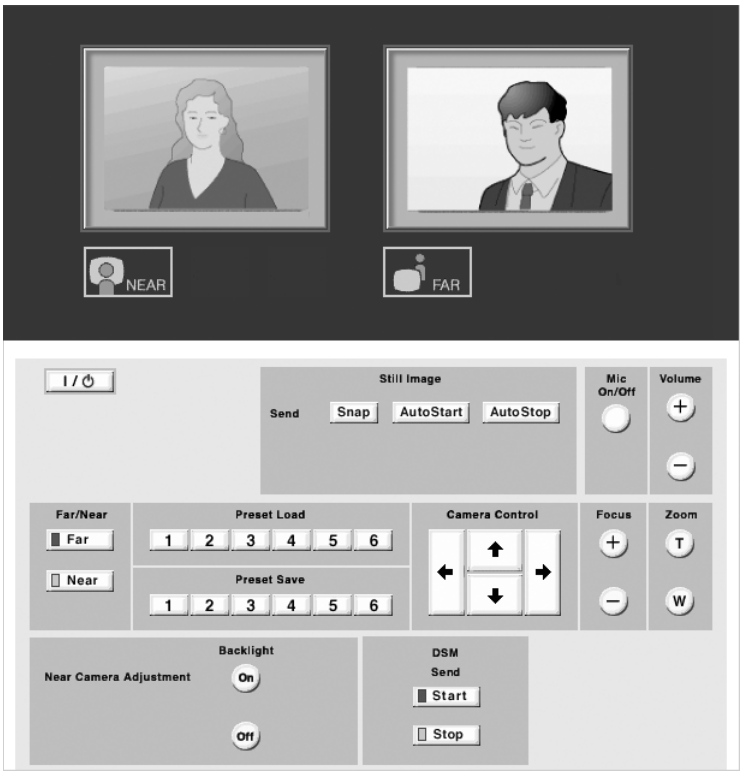
Call Log

Start Date	Start Time	End Date	End Time	Duration	Index	Address	Launch	Type	Mode	Rate	Cause
01-11-2005	00:50:02	01-11-2005	03:58:58	000006:17:52		XX.XX.XX.XX	Dialout	LAN	P-P	1024K	0
01-10-2005	21:27:30	01-10-2005	23:58:50	000005:02:40		XX.XX.XX.XX	Dialout	LAN	P-P	1024K	0
01-06-2005	03:21:26	01-06-2005	03:23:52	000000:04:52		XX.XX.XX.XX	Dialout	LAN	P-P	1024K	0
01-06-2005	03:20:38	01-06-2005	03:20:38	000000:00:00		XX.XX.XX.XX	Dialout	LAN	P-P	0K	17
01-06-2005	03:07:12	01-06-2005	03:20:13	000000:26:00		XX.XX.XX.XX	Income	LAN	P-P	256K	0
01-01-2005	00:37:11	01-01-2005	00:42:10	000000:09:58		XX.XX.XX.XX	Dialout	LAN	P-P	1024K	0

左側の Call Log をクリックすることにより Call Log ページが表示されます。
（ユーザー名：sonypcs で認証したときのみ）

Call Log を表示します。

[Monitor] ページの使用方法



機能ボタンの［Monitor］をクリックすると Monitor ページが別ウィンドウで表示され、PCS-TL30 の映像をモニターします。

ご注意

管理者用設定メニューの「Web モニター」が「オフ」のときは、映像のモニターはできません。

付録

画面に表示されるインジケーター一覧

これらのインジケーターは通話中に表示されます。

インジケーター	意味
	着信拒否中＊
	メモリースティックがメモリースティックスロットに入っています。＊
	静止画を送信中
	静止画を受信中
	DSM データを送受信中
	ホワイトボードのデータを受信中
	「標準」方式で暗号化会議中
	「独自」方式で暗号化会議中
	自分の映像を放送中

インジケーター	意味
Voice Only	音声のみで会議中
	回線の状況を表示します。インジケータに赤色が表示された場合は回線の混雑のため映像や音声が乱れることがあります。
	マイクの入力レベルを表示します。

＊　非通話時も表示されます。

メッセージ一覧

本機を操作中、ディスプレイにメッセージが現れたら、下記の表で確認してください。

メッセージ	意味
DHCP で IP アドレスを取得中です。	IP アドレスを動的に割り当てる DHCP サーバーから IP アドレスを自動取得中です。取得が完了しない場合には LAN の設定を確認してください。
DNS アドレスを設定するか、IP アドレスで発信してください。	DNS アドレスを設定するか、相手の IP アドレスを入力して発信してください。
DNS サーバーにアクセスできませんでした。PPPoE の DNS 設定を確認してください。	DNS サーバーに接続できませんでした。PPPoE の DNS サーバーの設定を確認してください。
DNS サーバーにアクセスできません。IP アドレスで発信してください。	ドメイン名での接続ができません。相手の IP アドレスを入力して発信してください。
DNS での名前解決ができません。IP アドレスで発信してください。	ドメイン名での接続ができません。IP アドレスを入力して発信してください。
LAN が使用できません。	何らかの理由で LAN が使用できません。ケーブルの抜けや LAN のリンク LED が点灯しているかを確認してください。ネットワークの設定を確認してください。
LAN が使用できません。LAN ケーブルの接続を確認してください。	ケーブルの抜けや LAN のリンク LED が点灯しているかを確認してください。
LAN セットアップエラー。Diffserve の値が上限を超えています。	LAN 設定メニューの Diffserve の値を 0 ～ 64 に設定してください。
LAN セットアップエラー。IP Precedence の値が上限を超えています。	LAN 設定メニューの IP Precedence の値を 0 ～ 7 に設定してください。
LAN セットアップエラー。NAT モードが ON になっています。NAT アドレスを確認してください。	NAT を使用してネットワークに接続するように設定されています。NAT アドレスを確認してください。
LAN セットアップエラー。NAT 機能をサポートしていない機器のアドレスが NAT アドレスに指定されています。NAT アドレスを確認してください。	LAN 設定メニューで正しい NAT アドレスを入力してください。
LAN セットアップエラー、PPPoE が ON になっています。ユーザー名、パスワードを確認してください。	PPPoE を使用して LAN 接続する様に設定されています。ユーザー名、パスワードの設定が必要です。
LAN セットアップエラー、PPPoE の固定 IP がオンになっています。PPPoE 固定 IP アドレスを確認してください。	固定 IP アドレスを使用して PPPoE 接続する様に設定されています。PPPoE 固定 IP アドレスを入力してください。
LAN セットアップエラー（ゲートキーパーエラー）が発生しました。LAN の設定を確認してください。	ゲートキーパーの設定が不適切です。
LAN セットアップエラー。ゲートキーパーが ON になっています。ゲートキーパーアドレスを入力してください。	ゲートキーパーを使用して LAN 接続する様に設定されています。ゲートキーパーアドレスを入力してください。
LAN セットアップエラー。不正な NAT アドレスが指定されています。NAT アドレスを確認してください。	設定した NAT アドレスが不適切です。LAN 設定メニューで正しい NAT アドレスを入力してください。
LAN セットアップエラー。不正なネットワークマスクが設定されています。	設定したサブネットマスクが不適切です。
LAN セットアップエラー。ポート番号が重複しているため、完全につなぐ事ができません。	相手に接続できません。LAN 設定メニューで「TCP ポート番号」と「UDP ポート番号」が重複していないか確認してください。
LAN セットアップエラー。無効なポート番号が指定されているため、完全につなぐ事ができません。	相手に接続できません。LAN 設定メニューで「TCP ポート番号」と「UDP ポート番号」を確認してください。
LCD ソフトウェアのアップデート中です。しばらくお待ちください。	LCD ソフトウェアのバージョンアップを実行しています。バージョンアップが完了するまで電源を切らないでください。
PPPoE の認証に失敗しています。 PPPoE の設定を確認のうえ、もう一度ダイヤルしてください。	PPPoE サーバーに接続できません。PPPoE の各種設定を確認し、再度ダイヤルしてください。

メッセージ	意味
PPPoE プロトコルでのサーバーへの接続が出来ません。	DNS サーバーへの設定を確認してください。
PPPoE プロトコルで接続中です。	PPPoE プロトコルを使用して LAN に接続中です。
PPPoE プロトコルのサーバー認証に失敗しました。	正しいパスワードを入力してください。
SIP 接続を含んだ標準方式の暗号化会議はできません。	SIP 接続で H.235 の暗号化会議はできません。
SIP での接続が出来ません。400 番台の応答コードを受信しました。	本機がサポートしていないメディアを相手側が使用しているなどの理由により接続できません。
SIP での接続が出来ません。500 番台の応答コードを受信しました。	SIP サーバーのエラーなどの理由により接続できません。SIP サーバーを確認してください。
SIP での接続が出来ません。600 番台の応答コードを受信しました。	相手側が見つからないなどの理由により接続できません。相手側の番号などを確認してください。
SIP での接続が出来ません。Reject 応答を受信しました。	相手側から接続を拒否されたため接続できません。
SIP での接続が出来ません。相手からキャンセルされました。	相手側が本機を呼び出した後キャンセルしたため接続できません。
SIP での接続が出来ません。相手から切断されました。	本機からの呼び出しを相手側がキャンセルしたため接続できません。
SIP での接続が出来ません。暗号化を有効にした通信はできません。	LAN 暗号化機能がオンに設定されていると SIP による接続ができません。暗号化機能をオフにしてください。
SIP での接続が出来ません。最大プレゼンス数を越えました。	プレゼンス数のオーバーにより接続できません。
SIP での接続が出来ません。暫定応答がタイムアウトしました。	発信後一定時間相手側からの応答がなかったため接続できません。
SIP での接続が出来ません。システムコールエラーが発生しました。	システムの状態に問題があるため接続ができません。
SIP での接続が出来ません。初期化エラーが発生しました。	初期化に失敗したため接続が出来ません。設定を確認してください。
SIP での接続が出来ません。状態が不正です。	予期せぬエラーにより接続できません。
SIP での接続が出来ません。内部エラーが発生しました。	内部エラーのため接続できません。
SIP での接続が出来ません。ネットワークエラー	ネットワークの状態に問題があるため接続出来ません。ネットワークの状態を確認してください。
SIP での接続が出来ません。話し中のためつなぐことができません。	相手側が話し中のため接続できません。
SIP での接続が出来ません。パラメーターエラーが発生しました。	設定が不正のため接続ができません。「SIP 設定メニュー」などの設定を確認してください。
SIP での接続が出来ません。ハンドル値が不正です。	内部エラーのため接続できません。
SIP での接続が出来ません。未定義エラーが発生しました。	予期せぬエラーにより接続できません。
SIP での接続が出来ません。メモリー確保に失敗しました。	本機のメモリーが不足しているため接続ができません。
SIP での接続が出来ません。要求がタイムアウトしました。	一定時間相手側からの応答がなかったため接続できません。
相手が接続を拒否しました。	相手側の設定を確認してください。
相手側と暗号化通信方式が異なるため会議が開始できませんでした。	相手側と暗号化通信方式が異なると接続できません。
相手側の暗号化機能がオフになっています。	暗号化機能を使って会議を開始する場合、相手側の暗号化機能がオフに設定されていると接続できません。
相手側の暗号化機能がオフのため会議が開始できませんでした。	相手側の暗号化機能がオフ、自分側の暗号化機能がオンになっていると接続できません。
相手側の暗号化機能がオンになっています。	暗号化機能を使わない通常の会議を開始する場合、相手側の暗号化機能がオンに設定されていると接続できません。
相手側は暗号化に対応していません。	LAN 暗号化機能を使って会議を行う場合、相手側のビデオ会議システムが LAN 暗号化機能に対応していないと接続できません。

メッセージ	意味
相手端末がゲートキーパーへ登録されていない可能性があります。ゲートキーパー管理者へ連絡してください。	相手端末のゲートキーパー登録に関してゲートキーパー管理者へ連絡してください。
相手を呼び出しましたが、応答がありません。	相手側ビデオ会議機器の接続を確認してください。
暗号化のパスワードが違います。	正しいパスワードを設定してください。
暗号化のパスワードは 13 文字以上入力してください。	LAN 暗号化機能を使った会議を行うために必要なパスワードは 13 文字以上 20 文字以下です。
温度異常を検出しました。電源を切ります。	機器の温度が異常に高くなっているので、電源を切断します。
回線種別もしくは IP アドレスが正しいか確認してください。	LAN 設定メニューで回線種別もしくは IP アドレスが正しいか確認してください。
カメラデバイスを検出できません。	カメラが何らかの理由で検出できません。
ゲートキーパーエラー。	相手先のアドレスを確認してください。
ゲートキーパーが応答しません。	ゲートキーパーの設定を確認してください。
ゲートキーパーが応答しません。	ユーザー名やユーザー番号を入力しての発信は出来ませんでした。ゲートキーパー管理者へ連絡するか、相手の IP アドレスを入力して発信してください。
ゲートキーパーの帯域設定を超えたため、接続が拒否されました。	ゲートキーパーの帯域設定を超えたため、接続できませんでした。
ゲートキーパー登録エラーが発生しました。LAN の設定を確認してください。	相手端末のゲートキーパー登録に関してゲートキーパー管理者へ連絡してください。
こちら側の暗号化機能がオフのため、会議が開始できませんでした。	相手側の暗号化機能がオン、自分側の暗号化機能がオフになっていると接続できません。
この RGB 入力信号に対応していません。	対応していない RGB 入力信号です。
コミュニケーションを終わります。	会議の終了操作が完了しました。
コミュニケーションを始めます。	相手側との接続が完了しました。会議を始めます。
これ以上登録できません。	アドレス帳の最大登録数に達しました。
システムがリセットされます。	システムが再起動します。
指定した IP アドレスの機器がないか、その機器の電源が入っていません。	相手に接続できませんでした。指定した IP アドレスが正しいか確認してください。または相手に電源を入れてもらってください。
しばらくお待ちください。	データの保存中です。
自分にはダイヤルできません。	相手先のアドレスを確認してください。
周辺機器のバージョンアップ中です。電源を切らずに、しばらくお待ちください。	カメラデバイス , LCD 等周辺機器のソフトウェアのバージョンアップ中です。バージョンアップが完了するまで電源を切らないでください。
静止画がメモリースティックに保存されました。	静止画が“メモリースティック”に保存されました。
静止画が送信されました。	静止画が送信されました。
静止画フォーマットが違います。プログレッシブ JPEG はサポートしていません。	“メモリースティック”の JPEG ファイルのデコードに失敗しました。プログレッシブ JPEG はサポートされていません。
静止画送受信中です。データソリューションモジュール（DSM）の使用はできません。	静止画送受信完了後データソリューションモジュール（DSM）を使用してください。
静止画送信が解除されました。	静止画送信が解除されました。
静止画送信が出来ませんでした。	静止画送信に失敗しました。
ソフトウェアのアップデートが完了しました。システムをリセットします。	ソフトウェアのアップデートが正常に終わりました。
タイトルを入力してください。	インデックスタイトルを入力してください。
ただ今回線が混雑しています。	ネットワークが混雑していて通信できる帯域が狭くなっています。
ただ今回線が大変混雑しています。一部画像が乱れる場合がありますがご了承ください。	ネットワークが大変混雑していてデータのロスが発生しています。映像・音声が乱れる場合があります。
只今、ホワイトバランスを調整しています。しばらくお待ちください。	ホワイトバランス調整中を意味します。キャンセルでダイアログは消去されますがカメラの調整動作はキャンセルされません。
データソリューションモジュール（DSM）が使用できません。	データソリューションモジュールが使用できません。
電源を切っています。少々お待ちください。	電源を切断中です。

メッセージ	意味
名前解決（DNS）エラーが発生しました。LAN の設定を確認してください。	DNS の設定を確認してください。
名前解決（DNS 参照）ができません。LAN の設定を確認してください。	ドメインネームシステム使用時、相手の名前を入力しましたが LAN 接続できませんでした。IP アドレスを入力して発信してください。
バージョンアップ中です。しばらくお待ちください。	ソフトウェアのバージョンアップを実行しています。バージョンアップが完了するまで電源を切らないでください。
パスワードが違います。	正しいパスワードを入れ直してください。
発信するユーザー名、もしくはユーザー番号が正しいか確認してください。	ユーザー名、ユーザー番号を正しく入力してください。
話し中のためつなぐことができません。	相手の回線が使用中なので接続できません。
ファイルエラーが発生しました。	ファイルに異常があります。
ファイルサイズエラーが発生しました。	ファイルサイズが不適切です。
ファイルデコードエラーが発生しました。	JPEG ファイルのデコードに失敗しました。
フォーマットエラーが発生しました。	“メモリースティック”がフォーマットできません。
不適切なデバイスが接続されています。	マウスポートに不適切なデバイスが接続されています。
不明な回線エラーが発生しました。もう一度ダイヤルしてください。	もう一度ダイヤルしてください。
プライベートアドレス帳の使用を開始します。	プライベートアドレス帳を登録した“メモリースティック”が挿入されました。プライベートアドレス帳が使用できます。
プライベートアドレス帳の使用を終了します。	プライベートアドレス帳を登録した“メモリースティック”が抜かれました。プライベートアドレス帳の使用を終了します。
プリセット 1 番（～ 6 番）に移動しました。	カメラのアングルとズームがプリセット 1 番（～ 6 番）に登録された状態に変更されました。
プリセット 1 番（～ 6 番）に登録されました。	カメラのアングルとズームがプリセットの 1 番（～ 6 番）に登録されました。
プレゼンテーション画面の送信が出来ません。	DSM でのプレゼンテーション画面の送信が出来ない状態です。PC 画面を XGA 解像度以下に設定して送信してください。
ホワイトバランス調整を行います。「調整開始」ボタンを押して、しばらくお待ちください。	ホワイトバランスをマニュアル調整できます。
マイクを無効にします。	マイクを無効にしています。
マイクを有効にします。	マイクが使えます。
マウスを検出しました。	マウスがビデオ会議側に接続されました。
マウスを確認してください。	マウスが刺さっていないか、または PC 側に接続されています。
メモリースティック　ファイルデコードエラーが発生しました。	“メモリースティック”の JPEG ファイルのデコードに失敗しました。
メモリースティック・エラーが発生しました。	“メモリースティック”のフォーマットが違います。
メモリースティック・ファイルエラーが発生しました。	“メモリースティック”のファイルフォーマットが違っています。またはファイルに異常があります。
メモリースティック・ファイルサイズエラーが発生しました。	“メモリースティック”のファイルサイズが不適切です。
メモリースティックがありません。	“メモリースティック”を挿入してください。
メモリースティックが書きこみ禁止です。	“メモリースティック”の裏面にある誤消去防止 LOCK を解除してください。
メモリースティックに画像はありません。	“メモリースティック”に画像が何も保存されていません。
メモリースティックの空き領域が不足しています。	“メモリースティック”の残っている容量が不足しています。
メモリーの空き領域が不足しています。	“フラッシュメモリー”の空き領域が不足しています。
冷却ファンが異常です。	冷却ファンに異常があります。
登録失敗	SIP サーバーと同期がとれませんでした。
登録成功	SIP サーバーと正常に同期がとれました。
非対応ルーターです。	ルーターの設定が正しいか、対応ルーターかを確認してください。
ルーターのポート設定をご確認ください。	ルーターの設定を確認してください。
認証エラーです。パスワードをご確認ください。	パスワードを確認してください。
認証エラーです。ID をご確認ください。	ID を確認してください。

メッセージ	意味
接続相手が存在しません。番号をご確認ください。	相手側の設定を確認してください。
要求がタイムアウトしました。	ネットワークの状態に問題があるか、一定時間相手側からの応答がなかったため接続できません。
相手が接続できない状態にあります。	相手側の設定を確認してください。
話中のためつなぐことができません。	相手側が話し中のため接続できません。
接続相手からキャンセルがありました。	相手側が本機を呼び出した後キャンセルしたため接続出来ません。
接続できませんでした。	通信設定を確認してください。
400 番台の応答コードを受信しました。	本機がサポートしていないメディアを相手側が使用しているなどの理由により接続できません。
500 番台の応答コードを受信しました。	サーバーのエラーなどの理由により接続できません。SIP サーバーを確認してください。
接続相手からキャンセルがありました。	相手側から接続を拒否されたため接続できません。
600 番台の応答コードを受信しました。	相手側が見つからないなどの理由により接続できません。相手側の番号などを確認してください。
現在の設定では IPELA VC Link を使った接続はできません。	IPELA VC Link 設定を確認してください。
現在の設定では SIP を使った接続はできません。	SIP 設定を確認してください。
非対応ルーターです。（M-SEARCH 応答なし）	ルーターの設定が正しいか、対応ルーターかを確認してください。
非対応ルーターです。（対応サービスなし）	ルーターの設定が正しいか、対応ルーターかを確認してください。
非対応ルーターです。（WAN 側 IP Address 取得失敗）	ルーターの設定が正しいか、対応ルーターかを確認してください。
非対応ルーターです。（ポートマッピング失敗）	ルーターの設定が正しいか、対応ルーターかを確認してください。
SIP での通信ができません。（ポートマッピング失敗）	ルーターの設定が正しいか、対応ルーターかを確認してください。
空きポートがありません。ルーターのポート設定をご確認下さい。	ルーターの設定が正しいか、対応ルーターかを確認してください。
NAT 自動設定に失敗しています。	ルーターの設定が正しいか、対応ルーターかを確認してください。
SIP サーバ使用設定が有効なため、機能拡張コマンドを実行できません。	IPELA VC Link を利用する場合、SIP サーバー設定が OFF であることを確認してください。
サーバから拒否されました。	相手側から接続を切断されました。
認証エラーです。	ID とパスワードを確認してください。
一時的に接続できません。後でかけ直してください。	後でかけ直してください。
非対応ルーターです。（ポートマッピング削除失敗）	ルーターの設定が正しいか、対応ルーターかを確認してください。
通信できません。（ポートマッピング失敗）	ルーターの設定が正しいか、対応ルーターかを確認してください。
UPnP での通信ができません。（タイムアウト）	ルーターの設定が正しいか、対応ルーターかを確認してください。
UPnP での通信ができません。（ビジー）	ルーターの設定が正しいか、対応ルーターかを確認してください。
UPnP での通信ができません。（内部エラー）	ルーターの設定が正しいか、対応ルーターかを確認してください。
指定された回線種別では、現在の通信モードでの接続はできません。	現在の通信モードを確認してください。
相手からのパケットが来なくなったため切断しました。	パケットが正常に受け取れなかった場合。

故障かな？

本機が正しく動作しないときは、故障とお考えになる前に以下の項目を確認してください。

症状	原因	対策
電源が入らない。	電源スイッチがオンになっていない。	右側の電源スイッチを押して電源を入れてください。（20ページ）
メッセージ「冷却ファンの異常です。」	本体内部の冷却ファンが停止している。	お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。
音声が聞こえない・小さい。	本機の音量が小さすぎる、または最小になっている。	本機の音量＋ボタンを押して音量を調節してください。（61ページ）
	会議中の相手のマイクがオフになっている。	相手に、音声が聞こえないことを伝え、マイクをオンにするよう依頼してください。
	マイクまたは入力用の外部機器が正しく接続されていない。	接続を確かめてください。
映像が映らない。	映像信号入力用外部機器の電源が入っていない。	電源を入れてください。
	入力用の外部機器が正しく接続されていない。	接続を確かめてください。
	ボイスコミュニケーションを行っている。	故障ではありません。
	カメラの動きをさえぎった。	本機の電源を入れ直してください。
	レンズカバーが閉じている。	レンズカバー開閉レバーを右にスライドさせてレンズカバーを開けてください。（20ページ）
相手とつながらない。	違う番号にダイヤルした。	入力した番号をよく確かめてください。
	アドレス帳の登録内容がまちがっている。	第2章「登録と設定」（27ページ）の「会議の相手をアドレス帳に登録する」（42ページ）を参照して正しく登録してください。
	システム設定の設定内容がまちがっている。	第2章「登録と設定」（27ページ）の「システムを設定する」（27ページ）を参照して正しく設定してください。

症状	原因	対策
相手とつながらない。	IP アドレス、ネットワークマスクの設定がまちがっている。	ネットワーク 担当者などに問い合わせて、正しく設定してください。（30ページ）
	LAN の接続ケーブルが抜けている。	正しく接続してください。（18ページ）
	LAN の接続ケーブルの接続端子をまちがえている。	正しく接続してください。（18ページ）
	LAN の接続ケーブルが断線している。	ケーブルを交換してください。
	ISDN 専用のケーブルを LAN 用に使っている。	ISDN で使えても LAN には使えないケーブルがあります。LAN 用のケーブルを使ってください。
	LAN の接続にタイプ（クロスまたはストレート）の違う接続ケーブルを使っている。	正しいケーブルに交換してください。
	LAN ケーブルの抜き差しや電源の入り切りを繰り返していると、しばらく使えなくなることがある。	電源を切り、数分待ってから使ってください。
	LAN の一時的な障害	一時的な障害がおさまってから使ってください。
	ご使用の LAN 環境ではビデオ会議のパケットを通せない。	ネットワーク担当者に相談して、ビデオ会議のパケットを通せるように LAN 環境を整えてください。
	相手端末の電源が入っていない。	相手端末の電源を入れてもらってください。
	相手端末がスタンバイ（スリープ）状態から着信可能になるまでに時間がかかる。	相手端末をスタンバイ（スリープ）状態から復帰させてもらってください。
	相手端末が他の端末と通信中である。	相手端末が通信を終えてからダイヤルし直してください。
	相手端末が設定変更などの操作中で、着信を許可しない。	相手端末に着信を受け付けてもらってください。
	相手端末が自動着信になっていない。	相手端末の設定を自動着信に変更する、または、相手端末に手動で着信を受け付けてもらってください。

症状	原因	対策
相手とつながらない。	相手端末側に問題がある。	他の端末にダイヤルして確かめてください。
	画面にメッセージが表示される。	「メッセージ一覧」（112 ページ）をご覧ください。
“メモリースティック”に静止画やアドレス帳を保存できない。	“メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	「LOCK」を解除してください。（70 ページ）
	“メモリースティック”の容量がいっぱいになっている。	他の“メモリースティック”に保存してください。

仕様

ビデオコミュニケーションシステム PCS-TL30

本機は ITU-T 勧告 H.323 と IETF SIP に準拠しています。ソフトウェアにより仕様が異なることがあります。

動画

動作帯域　64 kbps ～ 2048 kbps
コーディング方式
H.261/H.263/H.263+/H.263++/H.264（ITU-T 勧告準拠）
MPEG4 Simple Profile
画素　CIF 352 ピクセル× 288 ライン
QCIF 176 ピクセル× 144 ライン

静止画

画素　704 ピクセル× 576 ライン
圧縮方式　H.261（ITU-T 勧告準拠）Annex. D（4CIF）
H.263（独自方式）

音声

周波数帯域　14 kHz（MPEG4 Audio）
7 kHz（G.722 ITU-T 勧告準拠）
3.4 kHz（G.711/G.728/G.729 ITU-T 勧告準拠）
伝送レート　64 kbps、96 kbps（MPEG4 Audio）
56 kbps、64 kbps（G.711 ITU-T 勧告準拠）
48 kbps、56 kbps、64 kbps（G.722　ITU-T 勧告準拠）
16 kbps（G.728　ITU-T 勧告準拠）
8 kbps（G.729　ITU-T 勧告準拠）

ネットワーク

多重分離化　映像信号、音声信号、データを多重分離化
フレームフォーマット
H.225.0（ITU-T 勧告準拠）
回線　LAN（100BASE-TX/10BASE-T）
サポート LAN プロトコル
HTTP
FTP
Telnet
RTP/RTCP
TCP/UDP
SNMP

リモートコントロール

相手カメラコントロール
H.281（ITU-T 勧告準拠）

カメラ

映像素子	1/3.2 型カラー CMOS（総画素数 約 130 万画素）	
レンズ	焦点距離 f	2.3 mm
	F 値	1 : 2.8
	画角	水平：約 88°
		垂直：約 73°
最至近撮影距離	300 mm	
パン・チルト・ズーム機能	デジタル方式	
オートホワイトバランス機能搭載		
自動露出機能搭載		
フレームレート	オート（環境照度に合わせ自動切り換え）/30/15 fps	

ディスプレイ

サイズ	17.1 型ワイド
解像度	1280 × 768（WXGA）
最大画面輝度	410 Cd/m^2
応答時間	13 ms
コントラスト比	600 : 1
視野角	176°
発色数	1670 万色

ディスプレイコントローラー

PinP	4 隅
PandP	2 画面 /3 画面表示
サイドバイサイド	2 画面表示
入力	内部：ビデオ会議用
	外部 RGB：コンピューターディスプレイ
ワイド切替	ノーマル、ズーム、ワイド
RGB 切替	640 × 480、800 × 600、1024 × 768、1280 × 768 など、拡大表示可能

スピーカー

スピーカー	3 W × 2

マイクロホン

周波数帯域	14 kHz
指向特性	単一指向性

その他

電源電圧	DC 19.5 V
消費電流	6.15 A
動作温度	5 ℃～ 35 ℃
動作湿度	20%～ 80%
保存温度	－20 ℃～＋60 ℃
保存湿度	20%～ 80%（結露しないこと）
外形寸法	424 × 376 × 95.5 mm（幅 / 高さ / 奥行き）（スタンド除く）
	424 × 419 × 258 mm（幅 / 高さ / 奥行き）（スタンド含む）
質量	約 8 kg
付属品	オプティカルマウス PCS-RMU1（1）
	AC アダプター VGP-AC19V15 または PCS-AC19V6A（1）
	電源コード（1）
	CD-ROM（1）
	クイックスタートガイド（1）
	B&P ワランティブックレット（1）
	保証書（1）

AC アダプター VGP-AC19V15

電源	AC 100 ～ 240 V、50/60 Hz、1.6 A ～ 0.7 A
出力	DC 19.5 V、6.2 A
動作温度	5 ℃ ～ 35 ℃
動作湿度	20%～ 80%
保存温度	－20 ℃ ～＋60 ℃
保存湿度	20%～ 80%（結露しないこと）
外形寸法	155 × 67 × 36.5 mm（幅 / 高さ / 奥行き）（突起部含まず）
質量	約 550 g

AC アダプター PCS-AC19V6A

電源	AC 100 ～ 240 V、50/60 Hz、1.8 A
出力	DC 19.5 V、6.15 A
動作温度	5 ℃～ 35 ℃
動作湿度	20%～ 80%
保存温度	－20 ℃～＋60 ℃
保存湿度	20%～ 80%（結露しないこと）
外形寸法	80 × 40 × 160 mm（幅 / 高さ / 奥行き）
質量	約 800 g

マイクロホン PCS-A1（別売り）

周波数帯域	13 kHz
指向特性	無指向性
外形寸法	74 × 16 × 93 mm（幅 / 高さ / 奥行き）
質量	約 170 g
電源	プラグインパワータイプ
ケーブル長	8 m

マイクロホン PCSA-A3（別売り）

周波数帯域	13 kHz
指向特性	単一指向性
外形寸法	68 × 16 × 96 mm（幅 / 高さ / 奥行き）
質量	約 200 g
電源	プラグインパワータイプ
ケーブル長	8 m

データソリューションモジュール PCSA-DSM1（別売り）

消費電力	20 W 以下
動作温度	5 ℃～ 35 ℃
動作湿度	20%～ 80%
保存温度	－20 ℃～＋60 ℃
保存湿度	20%～ 80%（結露しないこと）
外形寸法	107 × 250 × 34 mm（幅 / 高さ / 奥行き）（突起部含まず）
質量	約 550 g
付属品	クイックスタートガイド（1） B&P ワランティブックレット（1） 保証書（1）

SIP ソフトウェア PCSA-SP1（別売り）

付属品	シリアル番号シール（1） 取扱説明書（1）

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

本機は「JIS C 61000-3-2 準用品」です。
JIS C 61000-3-2 準用品とは、日本工業規格「電磁両立性 - 第 3-2 部 : 限度値 - 高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」を準用し、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

株式会社リコーが製作、販売したリコービットマップフォントを使用しています。

お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。

RGB 入出力仕様

ビデオコミュニケーションシステム PCS-TL30 RGB IN 信号仕様

表示画素数	備考	水平同期周波数 fH(kHz)	垂直同期周波数 fV(Hz)	ドットクロック (MHz)	同期信号極性
640 × 480	VGA mode	31.469	59.94	25.17	H- 負 V- 負
	Macintosh 13"	35	66.667	30.24	H- 負 V- 負
	VGA VESA 72 Hz	37.861	72.809	31.5	H- 負 V- 負
	VGA VESA 75 Hz	37.5	75	31.5	H- 負 V- 負
	VGA VESA 85 Hz	43.269	85.008	36	H- 負 V- 負
800 × 600	SVGA VESA 56 Hz	35.156	56.25	36	H- 正 V- 正
	SVGA VESA 60 Hz	37.879	60.317	40	H- 正 V- 正
	SVGA VESA 72 Hz	48.077	72.188	50	H- 正 V- 正
	SVGA VESA 75 Hz	46.875	75	49.5	H- 正 V- 正
	SVGA VESA 85 Hz	53.674	85.061	56.25	H- 正 V- 正
1024 × 768	XGA VESA 60 Hz	48.363	60.004	65	H- 負 V- 負
	XGA VESA 70 Hz	56.476	70.069	75	H- 負 V- 負
	XGA VESA 75 Hz	60.023	75.029	78.75	H- 正 V- 正
1280 × 768	WXGA VESA 60 Hz *	47.693	59.992	80.12	H- 負 V- 正

＊　データソリューションモジュール PCSA-DSM1 での送信はできません。

データソリューションモジュール PCSA-DSM1 RGB IN 信号仕様（本体接続端子の一部）

表示画素数	備考	水平同期周波数 fH(kHz)	垂直同期周波数 fV(Hz)	ドットクロック (MHz)	同期信号極性
640 × 480	VGA mode	31.469	59.94	25.17	H- 負 V- 負
	Macintosh 13"	35	66.667	30.24	H- 負 V- 負
	VGA VESA 72 Hz	37.861	72.809	31.5	H- 負 V- 負
	VGA VESA 75 Hz	37.5	75	31.5	H- 負 V- 負
	VGA VESA 85 Hz	43.269	85.008	36	H- 負 V- 負
800 × 600	SVGA VESA 56 Hz	35.156	56.25	36	H- 正 V- 正
	SVGA VESA 60 Hz	37.879	60.317	40	H- 正 V- 正
	SVGA VESA 72 Hz	48.077	72.188	50	H- 正 V- 正
	SVGA VESA 75 Hz	46.875	75	49.5	H- 正 V- 正
	SVGA VESA 85 Hz	53.674	85.061	56.25	H- 正 V- 正
1024 × 768	XGA VESA 60 Hz	48.363	60.004	65	H- 負 V- 負
	XGA VESA 70 Hz	56.476	70.069	75	H- 負 V- 負
	XGA VESA 75 Hz	60.023	75.029	78.75	H- 正 V- 正

データソリューションモジュール PCSA-DSM1 RGB OUT 信号仕様

表示画素数	備考	水平同期周波数 fH(kHz)	垂直同期周波数 fV(Hz)	ドットクロック (MHz)	同期信号極性
1024 × 768	XGA VESA 60 Hz	48.363	60.004	65	H- 負 V- 負

＊　RGB IN の映像の送信中は、入力映像信号規格（VGA/SVGA/XGA）のまま出力されます。

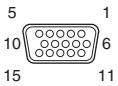
端子のピン配列

100BASE-TX/10BASE-T 端子

モジュラー端子

ピン番号	信号名	意味
1	TPOPTX +	送信＋
2	TPONTX −	送信−
3	TPIPRX +	受信＋
4	NC	—
5	NC	—
6	TPINRX −	受信−
7	NC	—
8	NC	—

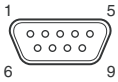
RGB IN 端子



ミニ D-sub 15 ピン端子（凹）

ピン番号	信号名	意味
1	RED	R（赤）
2	GREEN	G（緑）
3	BLUE	B（青）
4	NC	—
5	GND	接地
6	RED. GND	R（赤）信号用接地
7	GREEN. GND	G（緑）信号用接地
8	BLUE. GND	B（青）信号用接地
9	NC	—
10	SYNC. GND	同期信号用接地
11	NC	—
12	NC	—
13	HSYNC	水平同期
14	VSYNC	垂直同期
15	NC	—

RS-232C 端子



D-sub 9 ピン端子（凸）

ピン番号	信号名	意味
1	NC	—
2	RD	受信
3	TD	送信
4	NC	—
5	GND	接地
6	NC	—
7	NC	—
8	NC	—
9	NC	—

マウス端子

マウス端子

ピン番号	信号名	意味
1	Vbus	電源
2	− Data (D −)	送受信データ−
3	+ Data (D +)	送受信データ＋
4	GND	接地

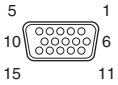
PC 端子

PC 端子

ピン番号	信号名	意味
1	Vbus	電源
2	− Data (D −)	送受信データ−
3	+ Data (D +)	送受信データ＋
4	GND	接地

別売り機器の端子のピン配列

RGB OUT 端子（PCSA-DSM1）



ミニ D-sub 15 ピン端子（凹）

ピン番号	信号名	意味
1	RED	R（赤）
2	GREEN	G（緑）
3	BLUE	B（青）
4	NC	—
5	GND	接地
6	RED. GND	R（赤）信号用接地
7	GREEN. GND	G（緑）信号用接地
8	BLUE. GND	B（青）信号用接地
9	NC	—
10	SYNC. GND	同期信号用接地
11	NC	—
12	NC	—
13	HSYNC	水平同期
14	VSYNC	垂直同期
15	NC	—

PCS-TL30 使用ポート番号一覧

対向接続時（既定値）

管理者用設定メニューの「使用ポート番号」を「既定値」に設定した場合、PCS-TL30 は次のポート番号を使用します。

信号	ポート番号
RAS（PCS-TL30）	1719（ゲートキーパー使用時）
RAS（ゲートキーパー）	1718 または 1719（ゲートキーパー使用時）
Q.931（発信）	2253 から 2255 の任意
Q.931（着信）	1720
H.245	2253 から 2255 の任意
オーディオ RTP	49152
オーディオ RTCP	49153
ビデオ RTP	49154
ビデオ RTCP	49155
FECC RTP	49156
FECC RTCP	49157
データ会議 RTP	49158
データ会議 RTCP	49159

対向接続時（ユーザー設定：TCP ポート番号 3000、UDP ポート番号 3100 の場合）

管理者用設定メニューの「使用ポート番号」を「ユーザー設定」に設定した場合、「TCP ポート番号」と「UDP ポート番号」に入力した値により、PCS-TL30 が使用するポート番号が決定します。
例として、「TCP ポート番号」を「3000」、「UDP ポート番号」を「3100」に設定した場合、PCS-TL30 は次のポート番号を使用します。

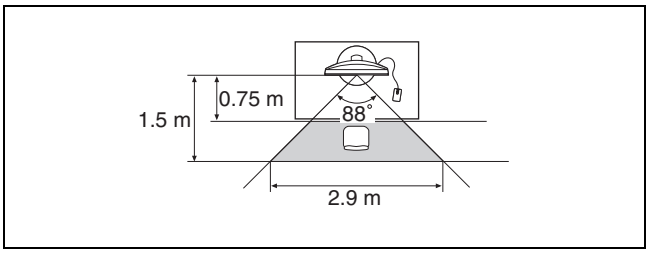
信号	ポート番号
RAS（PCS-TL30）	1719（ゲートキーパー使用時）
RAS（ゲートキーパー）	1718 または 1719（ゲートキーパー使用時）
Q.931（発信）	3000 ～ 3002 の任意
Q.931（着信）	1720
H.245	3000 ～ 3002 の任意
オーディオ RTP	3100
オーディオ RTCP	3101
ビデオ RTP	3102
ビデオ RTCP	3103
FECC RTP	3104
FECC RTCP	3105
データ会議 RTP	3106
データ会議 RTCP	3107

ご注意

RTP、RTCP については、ポートが正しく使用できない場合は上記の範囲を超えて使用されることがあります。

ミーティングスペースのレイアウト

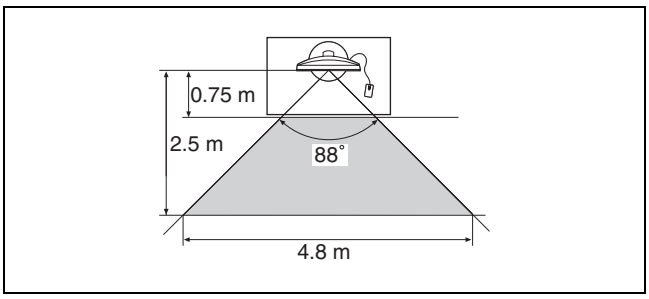
レイアウトの一例



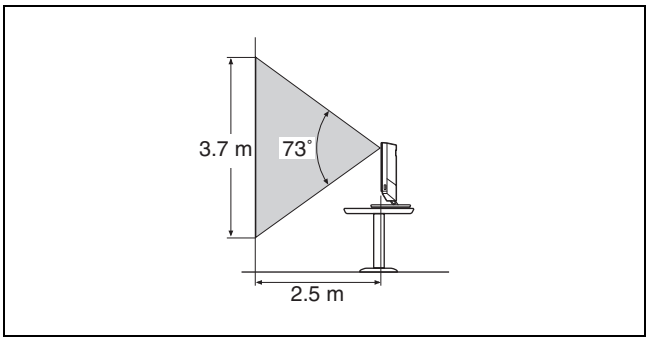
カメラに映し出される範囲

図の　で示した部分が、カメラが最大にズームアウトして正面を捉えているときに映し出される範囲です。数値はおおよその目安です。レイアウトの参考にしてください。

上から見た図（ズームアウト最大時の、左右方向の範囲）



横から見た図（ズームアウト最大時の、上下方向の範囲）

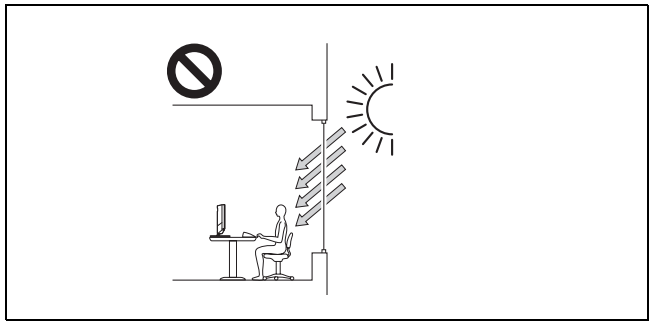


ミーティングスペースをレイアウトするときのご注意

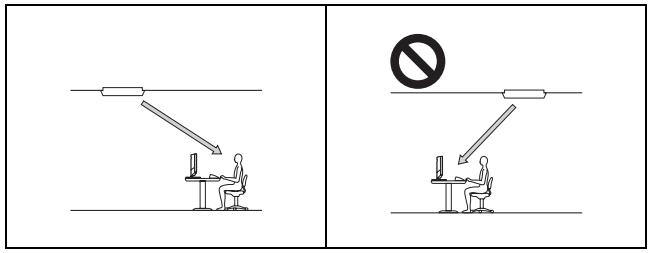
- 参加者の背景には、できるだけ物を置かないようにしてください。とくに、大きな動くものがあると、相手に送られる画像の質が低下することがあります。人が行き来するようなところを背景にしないでください。
- 木目調の壁や横縞などの細かい柄の壁を背景にすることも避けてください。
- できるだけ音が反響しない場所に設置してください。
- エアコンやコピー機など、電源ノイズの発生源となるような機器の近くには設置しないでください。
- 社内放送用のスピーカーがある部屋に設置することも避けてください。

照明について

外から光が入る窓の正面にカメラを設置しないでください。カメラの写りが悪くなります。どうしてもカメラの正面に窓がくる場合は、厚手のカーテンなどで窓を覆ってください。



ミーティング参加者に光が当たり、ディスプレイの画面に直接光が当たらないように照明器具の位置や明るさを調節してください。
参加者の顔の明るさは 300 ルクス以上が目安です。



保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？」（117 ページ）をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。
保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お買い上げ店にお問い合わせください。

用語解説

エコーキャンセラー

音声の伝送時に発生するエコーを消去し、違和感なく聞こえるようにする装置。

ゲートキーパー

ネットワーク上での H.323 ビデオ会議のアクセスをコントロールする装置。ゾーン管理や許可制限、帯域制限、エイリアスなどの機能を使用することができる。

コーデック

CODer-DECoder の略。音声や映像のアナログ信号をデジタル信号に変換、圧縮するコーダーと、圧縮されたデジタル信号を元のアナログ信号に戻すデコーダーが一体になった装置。

フレームレート

1 秒間にエンコード / デコードできるフレーム数。

リップシンク

ビデオ会議システムで、発言者の唇の動きと音声とを同期させるために音声を遅延させて同期させること。

CIF（Common Intermediate Format）

ビデオ会議システムにおいて、NTSC 方式と PAL 方式がお互いに通信できるように定めた共通ビデオフォーマット。352 ピクセル× 288 ライン

DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）

動的ホスト設定プロトコル。ネットワーク内の IP アドレスを管理します。

DNS（Domain Name System）

ドメインネームシステムサーバーを規定します。

G.711

ITU-T で勧告化された、音声符号化に関する規格。電話帯域の音声を 64 kbps のデータレートのデジタル信号に変換します。56 kbps で伝送する場合もあります。

G.722

ITU-T で勧告化された、音声符号化に関する規格。7 kHz 帯域の音声を 48 kbps、56 kbps、または 64 kbps のデジタル信号に変換します。

G.728
ITU-T で勧告化された、音声符号化に関する規格。電話帯域の音声を 16 kbps のデータレートのデジタル信号に変換します。

G.729
ITU-T で勧告化された、音声符号化に関する規格。電話帯域の音声を 8 kbps のデータレートのデジタル信号に変換します。

H.225.0
オーディオビジュアル情報の個々のフレームをデジタルチャネルに多重化するためのフレーミングに関する勧告。

H.239
ITU-T で勧告化されたデュアルストリーム対応の規格。カメラ映像とパソコンデータを同時に送受信できます。

H.261
p × 64 としても知られており、異なるメーカーのビデオコーデックがお互いに通信するためのビデオコーディングアルゴリズム、ピクチャーフォーマットおよびエラー訂正技法を記述したビデオ会議の標準。

H.263
H.261 を基本として、より低いビットレートの回線で通信するためのビデオコーディングアルゴリズムです。

H.263+
H263 を基本として、画質、エラー耐性の向上などを目的とする Annex I ～ T（I,J,K,...,T）を追加した映像符号化方式。通常、H.263/H.263+ の Annex のいくつかを用いたプロファイルと呼ばれる組み合わせで用いられます。

H.264
2003 年 5 月に ITU-T で標準化されたビデオコーディングアルゴリズムです。
低いビットレートでも高画質を実現でき、H.263 と比べて約半分のビットレートで同等の画質を実現することが可能です。MPEG-4 Advanced Video Coding（AVC）とも呼ばれます。

H.323
QoS 非保証 LAN 上で通信可能なビデオ会議の標準。

HMLP
→ MLP を参照。

MCU（マルチポイント）
Multipoint Control Unit の略。マルチポイント機能を持った端末と接続すると、多地点間通信が可能になります。

MLP
ビデオ会議装置間で映像音声の通信をしているとき、同時にデータ通信を行うことができます。このデータを通すための手順に、MLP や HMLP があります。NetMeeting などのデータを通すのに使います。HMLP は、MLP より高速のデータ伝送レートをもつデータ通信手順です。

MPEG4
ISO/IEC にて標準化されたビデオコーディングアルゴリズムで、H.263+ を基本のアルゴリズムに採用しています。いくつかのツールの追加によって、H.263+ より若干の画質の改善が得られます。また、PC や携帯電話などの民生用機器で広く使われているビデオコーディングアルゴリズムです。

QCIF（Quater CIF）
CIF の 1/4 の画素数を定めたフォーマット。通信速度が遅い場合に使用されます。
176 ピクセル × 144 ライン

SNMP
Simple Network Management Protocol の略。管理ステーションと管理対象システムの間での管理情報の交換プロトコルです。これにより、ソニー製ビデオ会議システムの監視が可能になります。

TOS（Type of Service）
IP ヘッダ内の TOS フィールド。サービスタイプに情報を組み込むことにより、パケットの優先順位などを、通信機器が適切に判断できるようになります。
また，サービスの種類（遅延や容量）によって経路を変更することなども可能になります。

4CIF
CIF の 4 倍の画素数を定めたフォーマット。704 ピクセル × 576 ラインの解像度の静止画を送 / 受信する方法は、H.261 Annex. D で標準化されています。

メニューの構成

本機のメニューは次のように構成されています。詳しい内容は、(　) 内のページをご覧ください。太字は初期設定です。

- ランチャー (◆ 53 ページ)
  - ワンタッチ・ダイヤル操作 (◆ 56 ページ) ― ダイヤル，編集，削除
  - アドレス帳 (◆ 57 ページ) ― リスト編集
    - 名前
    - アドレス
    - 回線種別 ― **IP**，SIP
    - LAN使用帯域 ― 64kbps，128kbps，256kbps，384kbps，512kbps，768kbps，**1024kbps**，1536kbps，2048kbps，ユーザー設定
    - ワンタッチダイヤル ― オン，**オフ**
    - 自動発信 ― オン，**オフ**(プライベートアドレス帳のみ)
    - 詳細設定* ―
      - 映像方式 ― **オート**，H.264，MPEG4，H.263+，H.261，SIP:No-Video**
      - 映像フレーム数 ― オート，**15fps**，30fps
      - 音声方式 ― **オート**，MPEG4 Audio，G.722，G.729，G.728，G.711
      - 遠隔カメラ制御 ― **オン**，オフ
      - H.239(Presentation) ― **オン**，オフ
  - 履歴 (◆ 45 ページ) ― ダイヤル，登録，削除
  - メニュー ―
    - カメラコントロール (◆ 62 ページ) ―
      - プリセット (1～6) ― 登録，読込
      - カメラ調整 ― 逆光補正，ちらつき除去，ホワイトバランス，明るさ調整，カメラコントロール選択(通話中のみ)，カメラコントロール受信，パン・チルト・ズーム，フォーカス(通話中,相手カメラのみ)
    - ステータス＆情報 (◆ 54 ページ) → A
    - 静止画 (◆ 72 ページ) ―
      - 送信
      - 連続送信
      - 解除
      - 保存
    - イメージビューア (◆ 67 ページ) ―
      - 表示
      - 送信
      - 削除
      - フォーマット
    - 設定 ―
      - 着信 → B
      - 機器 → C
      - 音声 → D
      - ネットワーク ―
        - LAN → E
        - SIP → F
      - 通信モード → G
      - 管理者用 → H
      - ディスプレイ ―
        - ビデオ会議 → I
        - PC → J

＊　通信モード設定メニュー－発信の「詳細設定」が「オン」のときのみ有効です。

＊＊SIP ソフトウェア PCSA-SP1（別売り）がインストールされているときのみ有効です。

A ステータス＆情報
（◆ 54 ページ）

- （1/4ページ）*
  - 回線I/F
  - 遠隔カメラ制御
  - 音声符号化方式
  - 映像符号化方式
  - 映像フレームレート
  - 回線レート
- （2/4ページ）*
  - ビットレート（送信/受信）
    - オーディオ
    - ビデオ
    - H.239
  - パケット数（ロスパケット数/復元パケット数/受信パケット数）
    - オーディオ
    - ビデオ
    - H.239
- （3/4ページ）
  - Check Code
  - LAN回線状態
  - ゲートキーパー
  - SIP
  - LANモード
    - Speed
    - Duplex
- （4/4ページ）
  - ホストバージョン
  - DSPバージョン
  - LCDバージョン
  - カメラバージョン
  - AECバージョン
  - DSMバージョン
  - ホストネーム
  - IPアドレス
  - MACアドレス
  - シリアルナンバー
  - 通信状態

＊　電源を入れてから一度も通話をしていない場合は、表示されません。

B 着信設定
（◆ 28 ページ）

- （1/1ページ）
  - 自動着信 ―― **オン**，オフ
  - ビデオ会議ボタン着信 ― オン，**オフ**
  - 着信時マイク ―― **オン**，オフ
  - 着信拒否 ―― オン，**オフ**

C 機器設定 (◆28ページ)

- (1/2ページ)
  - 端末名
  - 経過時間表示 ―― **オン**，オフ
  - 会議終了後のリスト登録 ―― **オン**，オフ
  - 言語設定/Language ―― 英語/English，フィンランド語/Finn，フランス語/French，ドイツ語/German，イタリア語/Italian，日本語/Japanese，韓国語/Karean，ポルトガル語/PORT，ロシア語/Russian，簡体中国語/Chinese，スペイン語/Spanish，スウェーデン語/Swed，タイ語/Thai，繁体中国語/Chinese
  - 番号表示 ―― **IP**:，SIP:ユーザー名:，SIP:アドレス:，GK:ユーザー名:，GK:ユーザー番号:，NAT:アドレス:，表示しない
  - インジケーター ―― **オン**，オフ
  - 日時設定
  - スリープタイマー ―― 5分，15分，60分，**オフ**
  - LEDインジケーター ―― **オン**，オフ
  - レンズカバー マイク オン/オフ機能 ― オン，**オフ**
  - カメラフレーム数 ―― **オート**，15fps，30fps
- (2/2ページ)
  - 端末名表示 ―― オフ，**一定時間表示**，常時表示
  - 通信中タスクバー表示 ―― **オン**，オフ

D 音声設定 (◆30ページ)

- (1/1ページ)
  - ビープ音 ―― **オン**，オフ
  - 効果音 ―― **オン**，オフ
  - 発信音 ―― **オン**，オフ
  - 着信音量 ―― オフ，**小**，中，大
  - ヘッドホン着信音量 ― オフ，**小**，中，大
  - PC音量 ―― 0～23(**11**)
  - 通話音量 ―― 0～23(**11**)

E ネットワーク LAN設定 (◆30ページ)

- (1/3ページ)
  - DHCPモード ―― オート，**オフ**
  - ホストネーム
  - IPアドレス
  - ネットワークマスク
  - ゲートウェイアドレス
  - DNSアドレス
- (2/3ページ)
  - NAT設定 ―― オート(UPnP)，オン，**オフ**
  - WAN IPアドレス
  - 使用ポート番号 ―― ユーザー設定，**既定値**
  - TCPポート番号
  - UDPポート番号
- (3/3ページ) ―― NAT/ファイアウォール越え ― オン(H.460)，**オフ**

- **F** ネットワーク SIP設定 (◆ 32 ページ)
  - (1/3ページ)
    - SIPサーバー使用 — オン，**オフ**
    - トランスポートプロトコル — TCP，**UDP**
    - ポート番号
    - SIPドメイン
    - 登録ユーザー名
    - パスワード
    - プライマリー
      - プロキシー・アドレス
      - プロキシー・ポート
      - レジストラ・アドレス
      - レジストラ・ポート
  - (2/3ページ)
    - セカンダリー
      - プロキシー・アドレス
      - プロキシー・ポート
      - レジストラ・アドレス
      - レジストラ・ポート
    - トリニティー
      - プロキシー・アドレス
      - プロキシー・ポート
      - レジストラ・アドレス
      - レジストラ・ポート
  - (3/3ページ)
    - フォース
      - プロキシー・アドレス
      - プロキシー・ポート
      - レジストラ・アドレス
      - レジストラ・ポート

- **G** 通信モード設定 (◆ 33 ページ)
  - 発信 (1/3ページ)
    - 映像方式 — **オート**，H.264，MPEG4，H.263+，H.261，SIP:No-Video*
    - 映像フレーム数 — オート，**15fps**，30fps
    - 音声方式 — **オート**，MPEG4 Audio，G.722，G.729，G.728，G.711
    - LAN使用帯域 — 64kbps，128kbps，256kbps，384kbps，512kbps，768kbps，**1024kbps**，1536kbps，2048kbps，ユーザー指定
    - ユーザー指定LAN帯域
    - 遠隔カメラ制御 — **オン**，オフ
    - H.239(Presentation) — **オン**，オフ
    - 回線種別 — **IP**，SIP
    - リップシンク — オン，**オフ**
    - 詳細設定 — オン，**オフ**
  - 着信 (2/3ページ)
    - 映像方式 — **オート**，H.264，MPEG4，H.263+，H.261，SIP:No-Video*
    - 映像フレーム数 — オート，**15fps**，30fps
    - 音声方式 — **オート**，MPEG4 Audio，G.722，G.729，G.728，G.711
    - LAN使用帯域 — 64kbps，128kbps，256kbps，384kbps，512kbps，768kbps，**1024kbps**，1536kbps，2048kbps，ユーザー指定
    - ユーザー指定LAN帯域
    - 遠隔カメラ制御 — **オン**，オフ
    - H.239(Presentation) — **オン**，オフ
  - LAN暗号化 (3/3ページ)
    - LAN暗号化 — オン，**オフ**
    - 暗号化方式 — **標準**，独自
    - 優先接続方式 — **接続性**，暗号化
    - 暗号化パスワード

＊ SIP ソフトウェア PCSA-SP1（別売り）がインストールされているときのみ有効です。

- **H** 管理者用設定 （◆35ページ）
  - （1/11ページ）
    - 管理者用パスワード
    - アドレス帳変更保護パスワード
    - リモートアクセス・パスワード
    - Webモニター ―― オン，**オフ**
    - Webアクセス ―― **オン**，オフ
    - アドレス帳の保存
    - アドレス帳のロード
    - プライベートアドレス帳の作成
    - プライベートアドレス帳の削除
    - プライベートアドレス帳への複製
    - 自動発信 ―― **オン**，オフ
  - （2/11ページ）
    - ゲートキーパー使用 ―― オート，オン，**オフ**
    - ゲートキーパーアドレス
    - ユーザー名
    - ユーザー番号
  - （3/11ページ）
    - SNMPサービス ―― オン，**オフ**
    - トラップ送信先
    - コミュニティ名
    - 機器の説明
    - 設置場所
    - 管理者連絡先
  - （4/11ページ）
    - パケット再送要求 ―― **オン**，オフ
    - 最適レート制御 ―― **オン**，オフ
    - LANモード ―― **オート**，100Mbps Full Duplex，100Mbps Half Duplex，10Mbps Full Duplex，10Mbps Half Duplex
  - （5-8/11ページ）
    - TOS ―― IP Precedence，Diffserve，**オフ**
    - IP Precedence
    - 遅延 ―― オン，**オフ**
    - スループット ―― オン，**オフ**
    - 信頼性 ―― オン，**オフ**
    - コスト ―― オン，**オフ**
    - Diffserve値
  - （9/11ページ）
    - PPPoE ―― オン，**オフ**
    - PPPoEユーザー名
    - PPPoEパスワード
    - PPPoE固定IP ―― オン，**オフ**
    - PPPoE固定IPアドレス
    - PPPoE DNS ―― **自動取得**，設定する
    - DNSプライマリ
    - DNSセカンダリ
  - （10/11ページ）
    - 相手画像自動撮影 ―― **オン**，オフ
    - ヘッドホン使用時の本体着信音 ―― オン，**オフ**
    - DTMFボタン表示 ―― オン，**オフ**
    - 停電後の自動起動 ―― オン，**オフ**
    - 工場出荷状態にもどす
    - アプリケーションソフトウェアの保存
    - ソフトウェアアップデート
    - メモリースティックフォーマット
    - 設定の保存
    - 設定のロード
    - 機能拡張コマンド
  - （11/11ページ）
    - 共有アドレス帳 ―― オン，**オフ**
    - SPBモード ―― オン，**オフ**
    - SPBサーバ・アドレス
    - SPB自動登録 ―― **オン**，オフ
    - SPBサーバ・パスワード

I ディスプレイ設定
ビデオ会議
（◆ 40 ページ）

- 画質モード ―― ダイナミック，**標準**，**AVプロ**＊
- ピクチャー ―― 0～100（**50**）
- 明るさ ―― 0～100（**50**）
- バックライト ―― 0～100（**70**）
- リセット
- ワイド切替 ―― ノーマル，ワイド，**ズーム**

＊　初期設定ウィザードで日本語を選択した場合は“標準”日本語以外を選択した場合は“AV プロ”が初期設定となります。

J ディスプレイ設定
PC
（◆ 40 ページ）

- （1/2ページ）
  - 画面解像度/リフレッシュレート
  - 画質モード ―― 低，**中**，高
  - ピクチャー ―― 0～100（**50**）
  - 明るさ ―― 0～100（**50**）
  - バックライト ―― 0～100（**40**）
  - リセット
  - ワイド切替 ―― **ノーマル**，ワイド，ズーム
- （2/2ページ）
  - 画面解像度/リフレッシュレート
  - 水平位置
  - 垂直位置
  - 位相
  - ピッチ
  - 自動調整
  - リセット

お問い合わせは
「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075　東京都港区港南1-7-1

http://www.sony.co.jp/